第６章　公共施設に関する
アンケート調査及び分析結果

第6章　公共施設に関するアンケート調査及び分析結果

第１節　調査の概要

１　調査の目的

公共施設再配置計画の推進に当たっては、公共施設を利用する市民だけではなく、あまり利用しない市民も含めて、広く公共施設のあり方に対する意向を把握する必要があります。

そのためには、無作為抽出によるアンケート調査が有効な手段となることから、公共施設白書の作成・改訂に合わせて、平成21(2009)年度及び平成24(2012)年度以降の隔年で実施してきた「公共施設に関するアンケート調査」を実施しました。

前回調査では、公共施設の利用者負担の適正化を進める中で、「公共施設の使用料に対する意識」を把握するための質問を設けたことから、インターネットを利用した調査会社によるアンケート（以下「Web 調査」といいます。）に加えて、無作為抽出による郵送アンケートも合わせて実施しましたが、Web 調査の結果と郵送調査の結果の間に大きな差が見られなかったため、今回はWeb調査のみを実施しています。

また、高齢者のネット人口が増加していることを勘案し、高齢者の意見を確実に把握するため、前回調査までは「50 代以上」としていた最高年齢の区分を「50 代」と「60代以上」に細分化して調査を実施しました。

２　調査方法等

(1)　調査方法（Web調査）

【実施方法】　インターネット上の会員用フォームへの入力による回収

【調査期間】　平成30(2018)年6月14日～25日

【対 象 者】　調査会社のモニター会員のうち、市内に居住する20歳以上の男女

(2)　調査における希望サンプル数と回収数

今回の調査においても、回答者の年代の極端な偏りを防ぐために、実人口の年齢構成を基本として、調査受託会社からのアドバイスに基づき年代別、性別ごとの希望サンプル数を定めています。

希望サンプル数及び回収数の内訳は次表のとおりとなっていますが、以前からの傾向として20代男性、50代以上の女性の回収数が少ない傾向にあるほか、今回の調査で新たに細分化した60代以上男性においても、回収数が希望サンプル数に達しない結果となりました。

【希望サンプル数と回収数（回収数/希望サンプル数）】

区分	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	20/25	26/25	43/35	41/35	53/80	183/200
女性	30/25	42/25	40/35	25/35	20/80	157/200
合計	50/50	68/50	83/70	66/70	73/160	340/400

３　調査結果の概要

公共施設更新問題及び公共施設の再配置に関する認知度は前回調査より減少していますが、前々回調査よりは上昇していますので、一定の認知度は確保されていると考えられます。

今回の調査では、平成 33(2021)年を始期とする「公共施設再配置計画第２期基本計画」策定のための参考資料とするために、次の４つの質問を新設しました。

◆　問５「公民連携によるサービスの充実」

これまでの本市の取り組みを紹介したうえで、今後も公民連携を進めた場合のメリットとデメリットを質問に明記しましたが、「公民連携の推進」に賛成とした回答割合は過半数を超える 56.2%となりました。

◆　問６「使用料見直しについて」

昨年度実施した公共施設の使用料見直しを受けて、今後の方向性に関する意識を調査しました。見直しの効果の把握と検証を経て、今後も実態に応じた見直しを行うべきかどうかを質問したところ、「実態に応じた見直しを行うべき」とした考え方に賛成とした回答割合は、過半数を超える 55.0%となりました。

◆　問８「廃止又は縮小しても良いと考える施設の機能」

現在の公共施設再配置計画第１期基本計画では「義務教育、子育て支援、行政事務スペース」はその機能を最優先することとしていますが、これに次ぐ「優先的に維持していく機能」は第２期基本計画において順位付けを行う予定であり、市民ニーズを把握するために、公共施設の機能別に質問したところ、廃止又は縮小しても良いとされた割合が最も高かった機能は「住宅に関する機能」となりました。

◆　問９「今後必要となる新たな機能、拡充が必要な機能」

公共施設再配置計画における公共施設床面積の削減目標は「40 年間で 31.3%」ですが、少子高齢化が進行し、財政状況の好転が見込めない中にあっても、「今後の秦野市に必要だ」と考える「新たな機能」や「拡充が必要な機能」について質問しました。

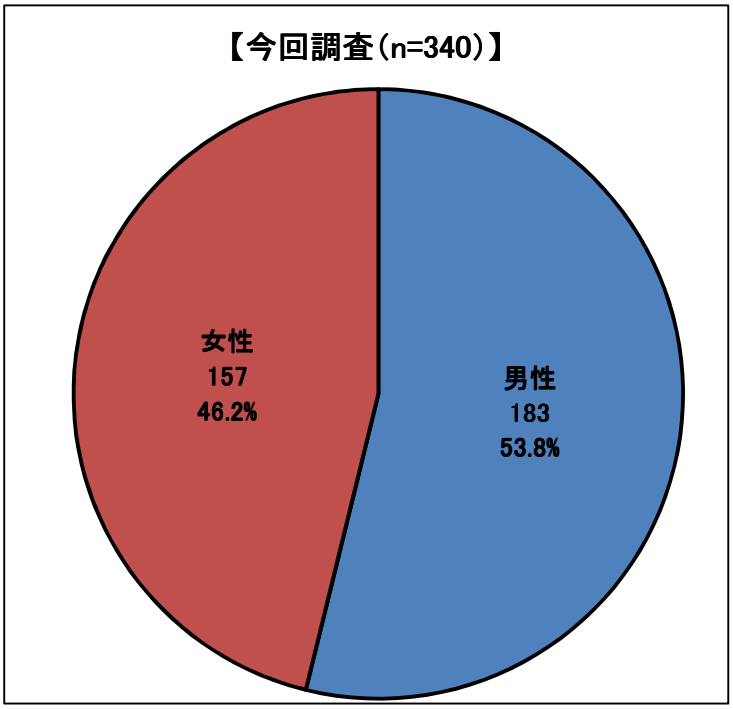
他の質問と異なり、この質問は自由記載形式としたため、質問の意図に沿わない回答や未回答も数多くありましたが、機能別分類で 305 件の意見が寄せられ、そのうち最も割合が高かった機能は「高齢者に関する機能」、次に割合が高かった機能は「子育てに関する機能」で、このふたつの機能を合わせて全体の約 1/4 を占める結果となりました。

第２節　回答者の属性及び分析結果

属性１　性別

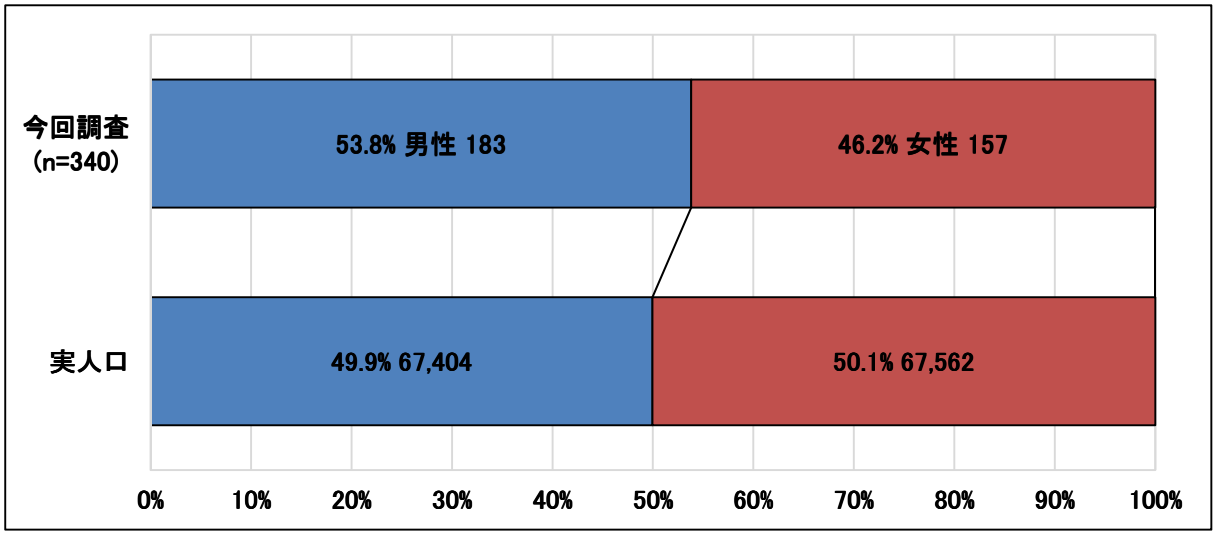
１　調査結果

今回の調査では男性の割合が 53.8%と女性よりも高くなっています。



２　実人口割合との比較

実人口[1]の割合と比較すると、今回の調査では男性の割合が実人口の割合よりも 3.9%高くなっています。

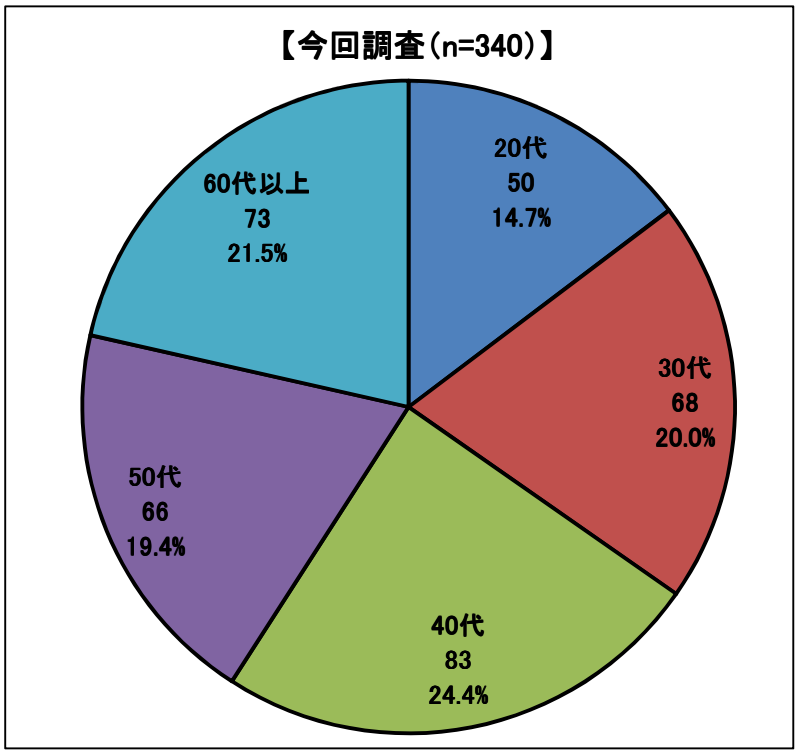


[1] 平成 30 年 4 月末日現在の住民基本台帳による 20 歳以上の人口

属性２　年代

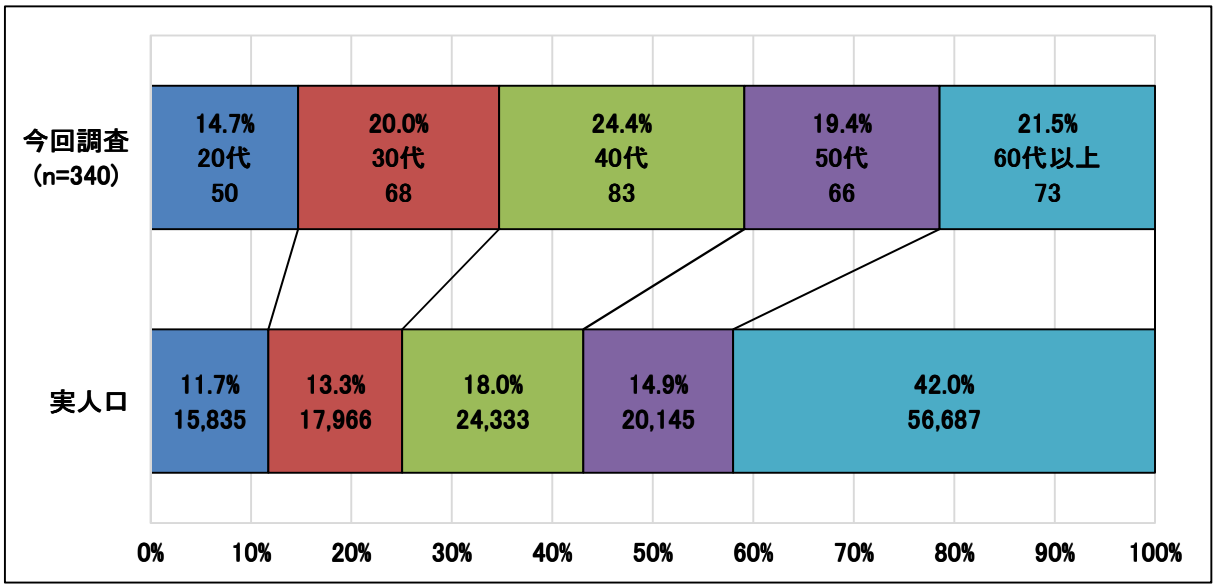
１　調査結果

40 代が 24.4%を占め最も高い割合となり、60 代以上、30 代、50 代が約 20%前後で続きます。20 代の割合は 14.7%と最も低くなっています。



２　実人口割合との比較

今回の調査では、60 代以上の割合が実人口の割合よりも少なく、それ以外の年代の割合が多くなっています。

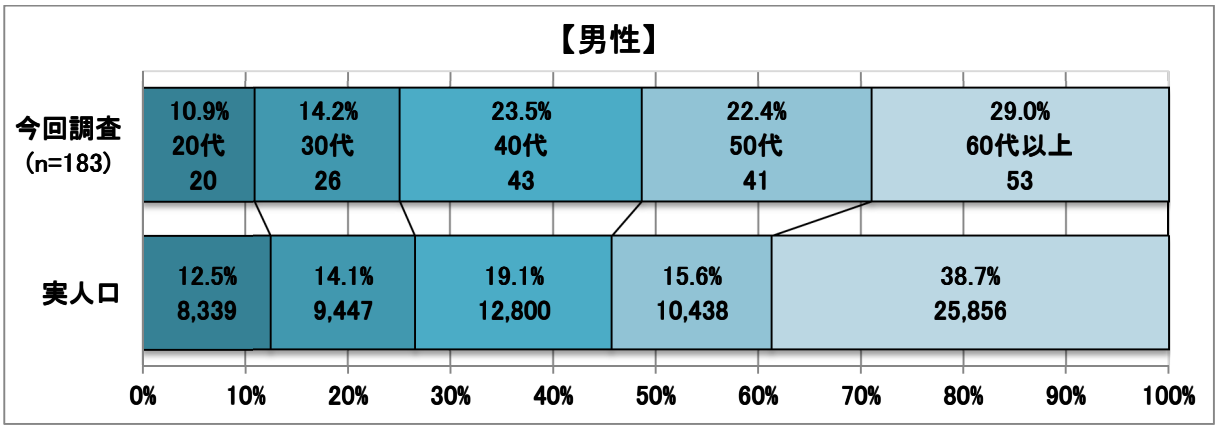


３　性別による比較

(1)　男性

60 代以上の割合が 29.0%で最も多くを占め、23.5%の 40 代、22.4%の 50 代と続きますが、最も割合が高い 60 代以上は実人口の割合よりも 9.7%も低くなっています。40 代及び 50 代の割合は実人口の割合よりも高く、30 代の割合は実人口の割合と同程度、20 代の割合は実人口よりも低くなっています。

60 代以上の割合が実人口より低くなっているのは、高齢化による人口増が高齢者のネット人口の増加を上回っていることが原因と思われます。

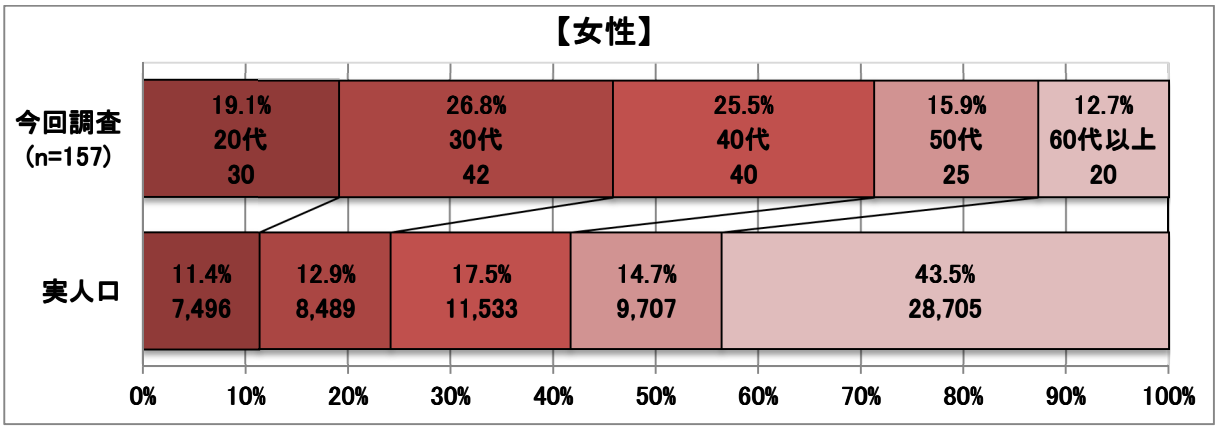


(2)　女性

30 代の割合が 26.8%で最も多くを占め、25.5%の 40 代、19.1%の 20 代と続きます。この３つの年代全てが実人口の割合を上回り、女性全体の 7 割以上を占めています。

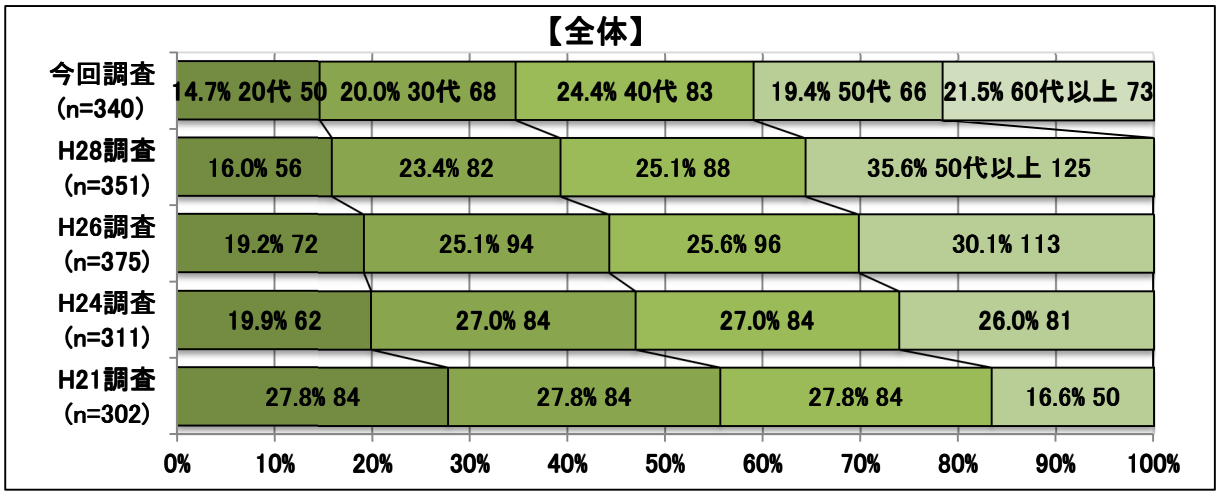
50 代の割合は実人口の割合を少し上回りましたが、60 代以上の割合は実人口の割合より 30.8%も下回る結果となりました。

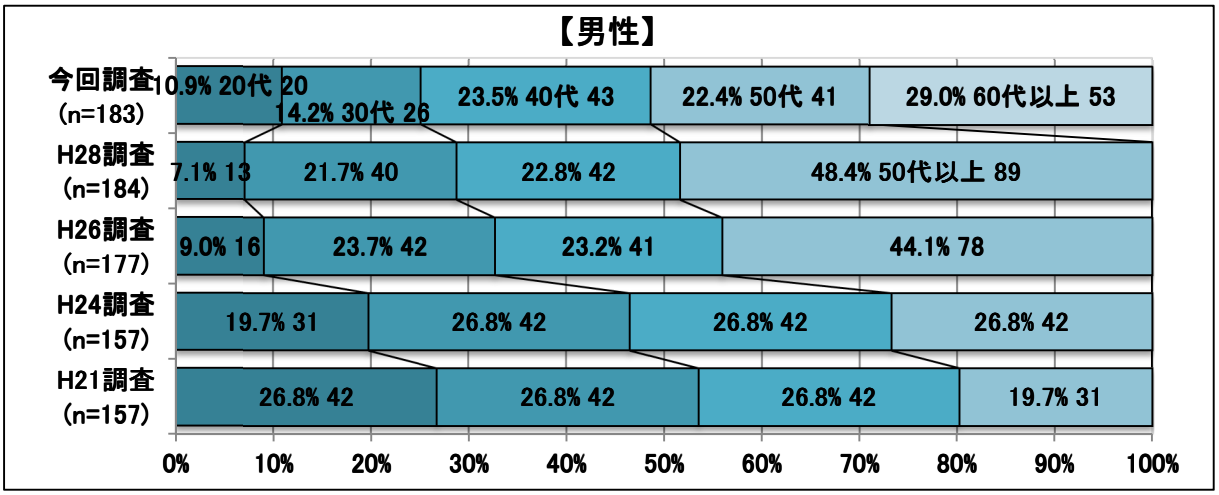
男性とは異なり、若い年代の占める割合が高く、高齢者の占める割合が低くなっています。

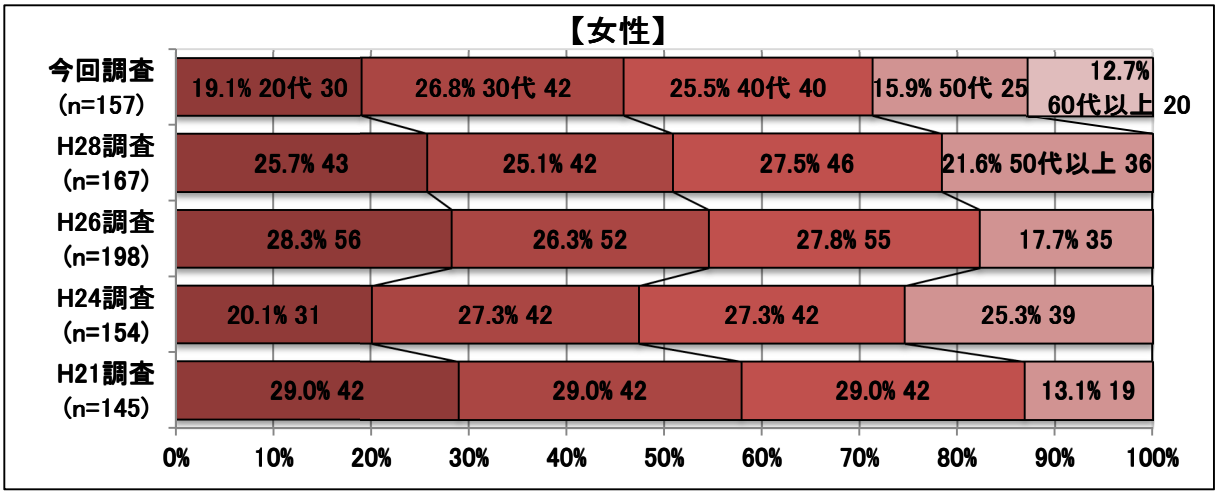


4　過去の調査との比較(Web 調査のみ)

全体では、50代以上の割合が増え続け、それ以外の年代の割合は、減り続けています。男性では、50代以上の割合が増え続ける一方で、20代の割合の減少が続いていましたが、今回の調査では増加に転じ、30代の割合が減少しました。女性には、一定の傾向は認められませんが、直近3回の調査結果からは、50代以上の割合が増加し、40代以下の割合が減少する傾向が見られます。



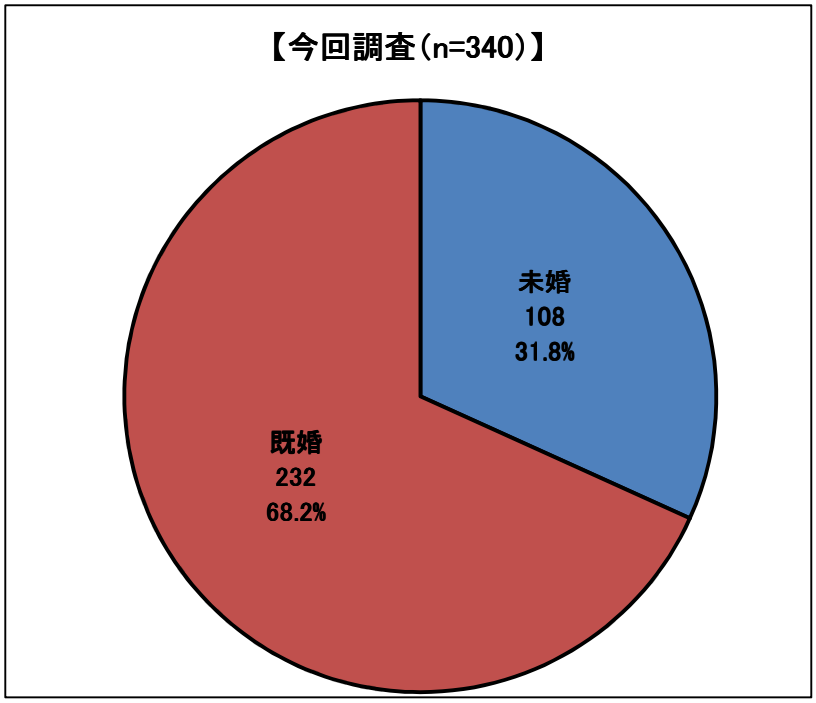




属性３　未既婚

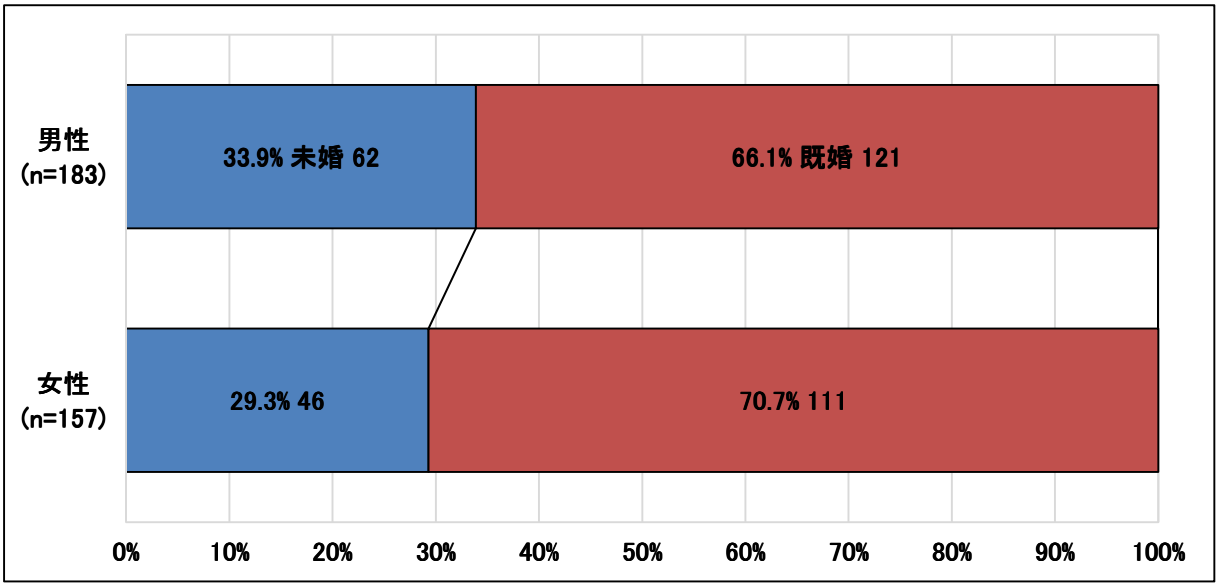
１　調査結果

既婚者の割合が未婚者の割合よりも多くなっています。



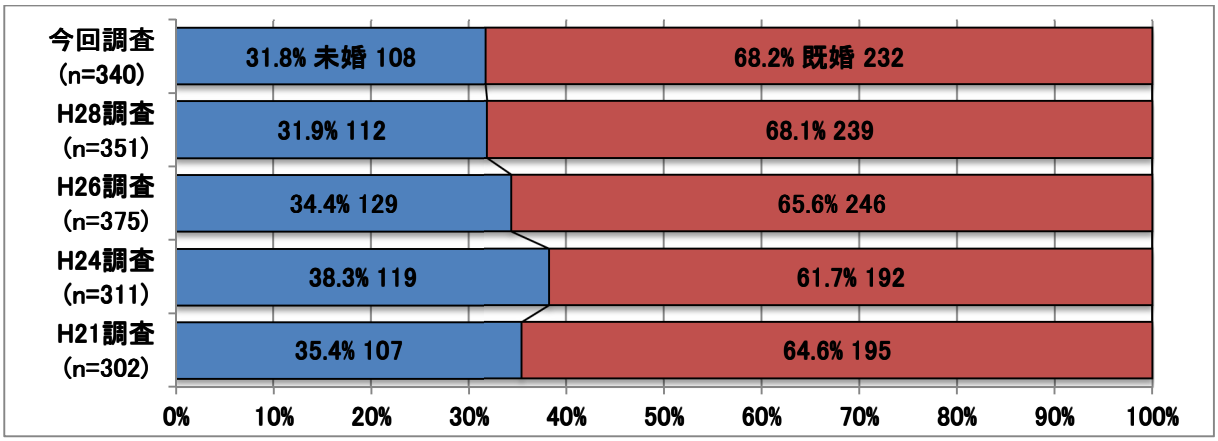
２　性別による比較

既婚者の割合は、男性では全体より低く、女性では全体より高くなりました。



３　過去の調査との比較（Web 調査のみ）

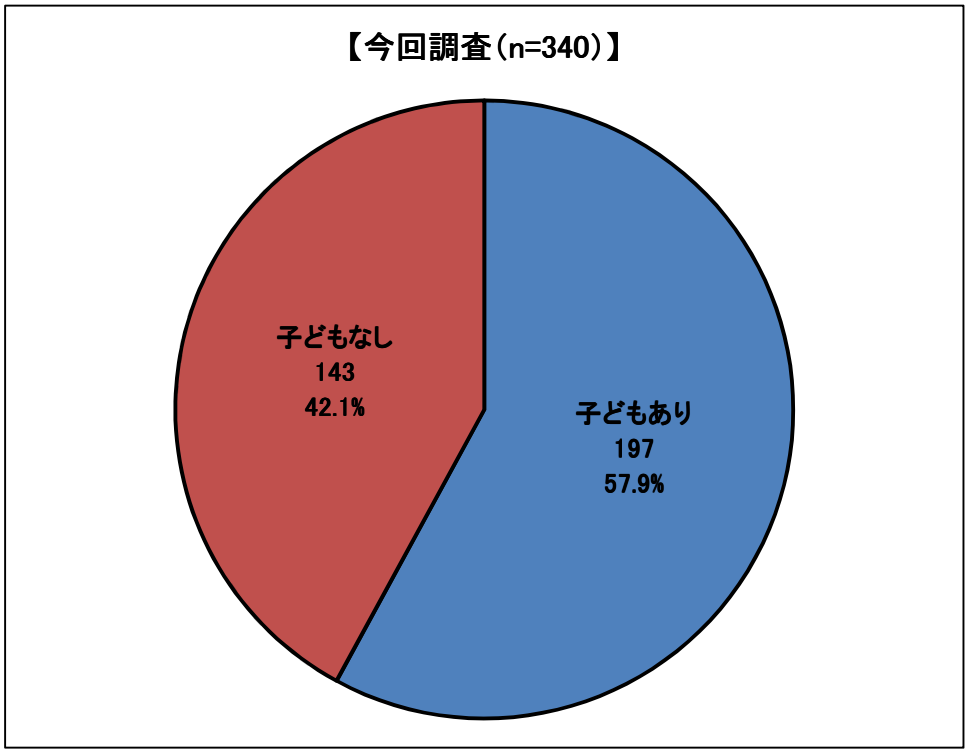
今回の調査では、前回の調査と比較して、「未婚・既婚」の割合はほぼ同じとなっていますが、未婚者が占める割合は、平成24(2012)年度の調査から減少傾向にあります。この傾向は、Web調査受託会社に登録している会員の特性に起因するものと思われますが、年齢層が高い世代のネット人口の増加により、未婚者の割合が下げ止まったとも考えられます。



属性４　子どもの有無

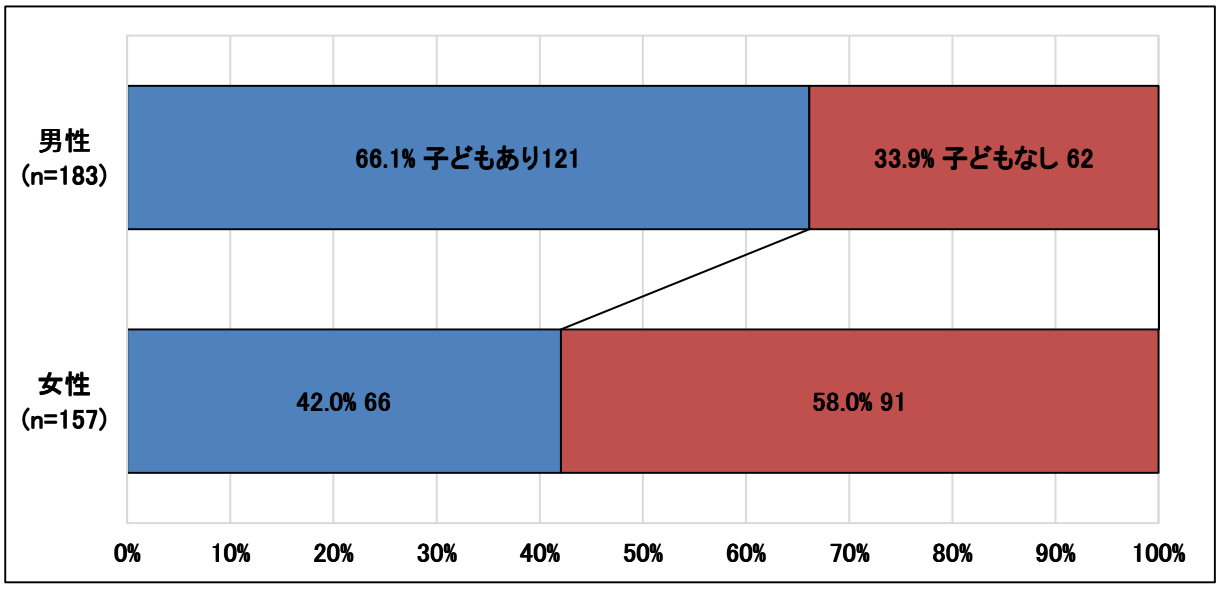
１　調査結果

「子どもあり」と答え人の割合は、57.9%となりました。なお、ここでいう「子ども」とは、青少年だけを指すものではなく、成人している場合も含まれています。



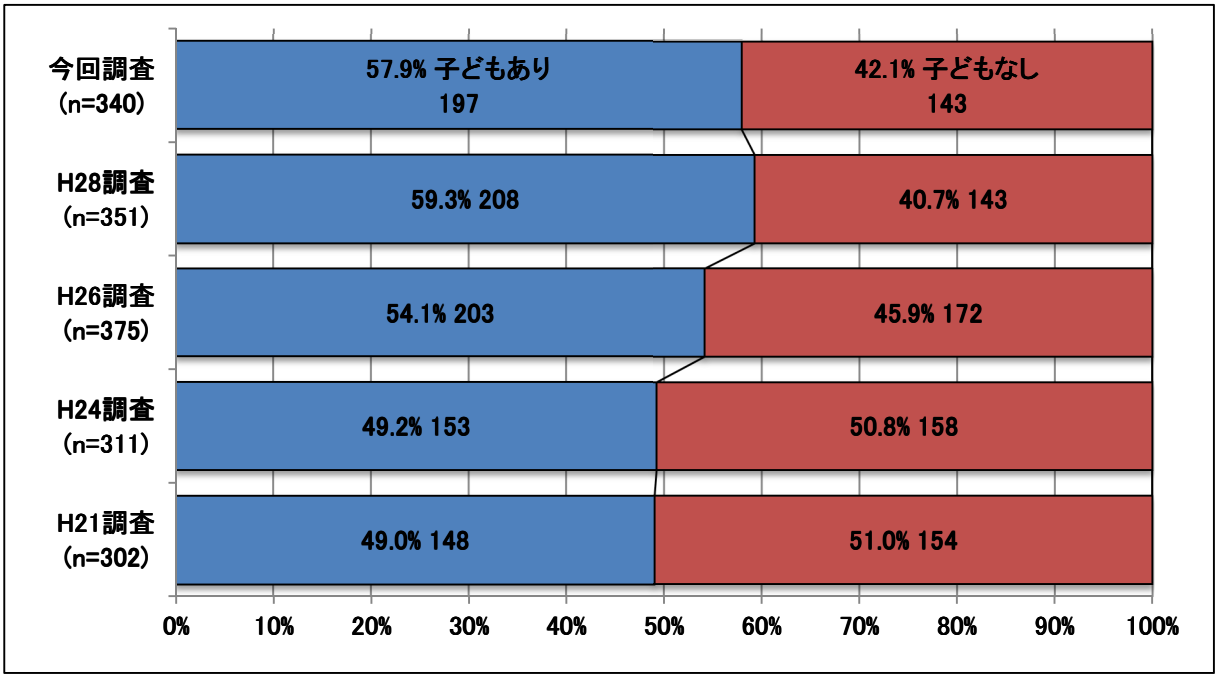
２　性別による比較

男性、女性ともに「子どもあり」答えた人の割合の方が多くなっています。また、全体と比較すると、「子どもあり」と答えた人の割合は、女性よりも男性の方が高くなっています。これは、回答者の年代構成が男性のほうが高かったことに起因しています。



３　過去の調査との比較(Web 調査)

「子どもあり」と答えた人の割合は、前回の調査までは増加していましたが、今回の調査では1.4ポイント減少しています。少子化の影響が現れているとも考えられますが、前々回の調査よりも高い割合であり、増加傾向にあることも伺えます。



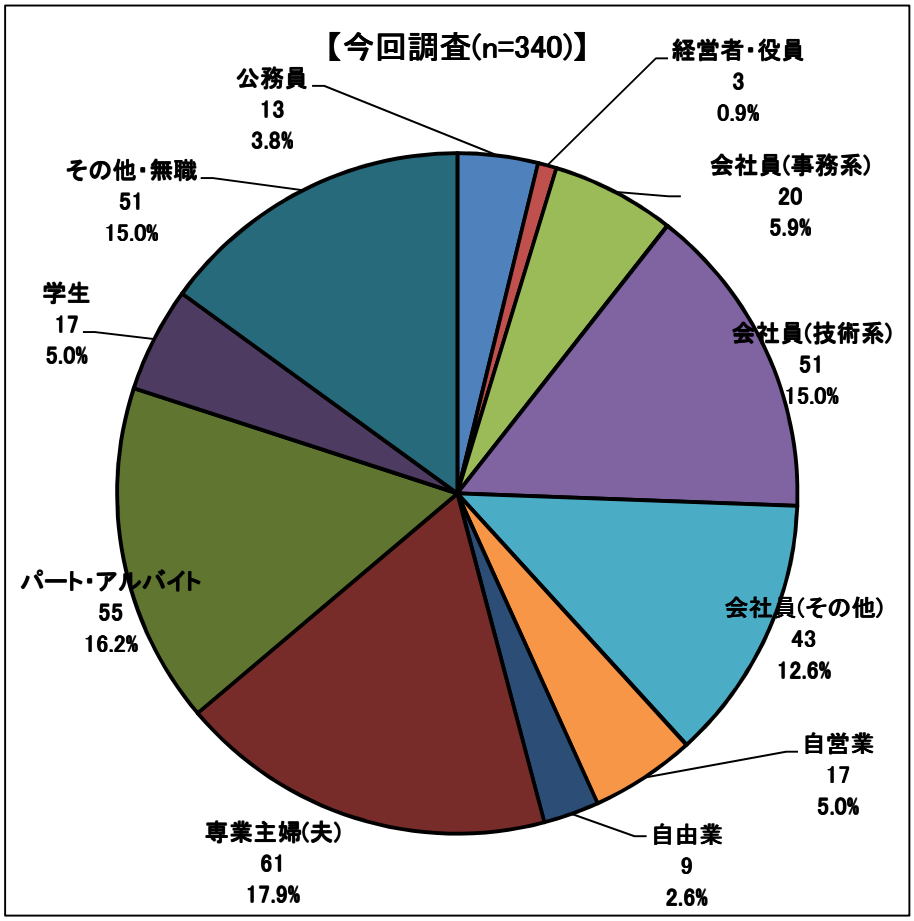
属性５　職業

１　調査結果

№1 の公務員から№7 の自由業までを有職者とすると、有職者の割合は 45.9%となっています。

ちなみに、平成 27(2015)年度国勢調査の結果では、本市の 15 歳以上の人口に占める就業者の割合は、49.7%となっています。

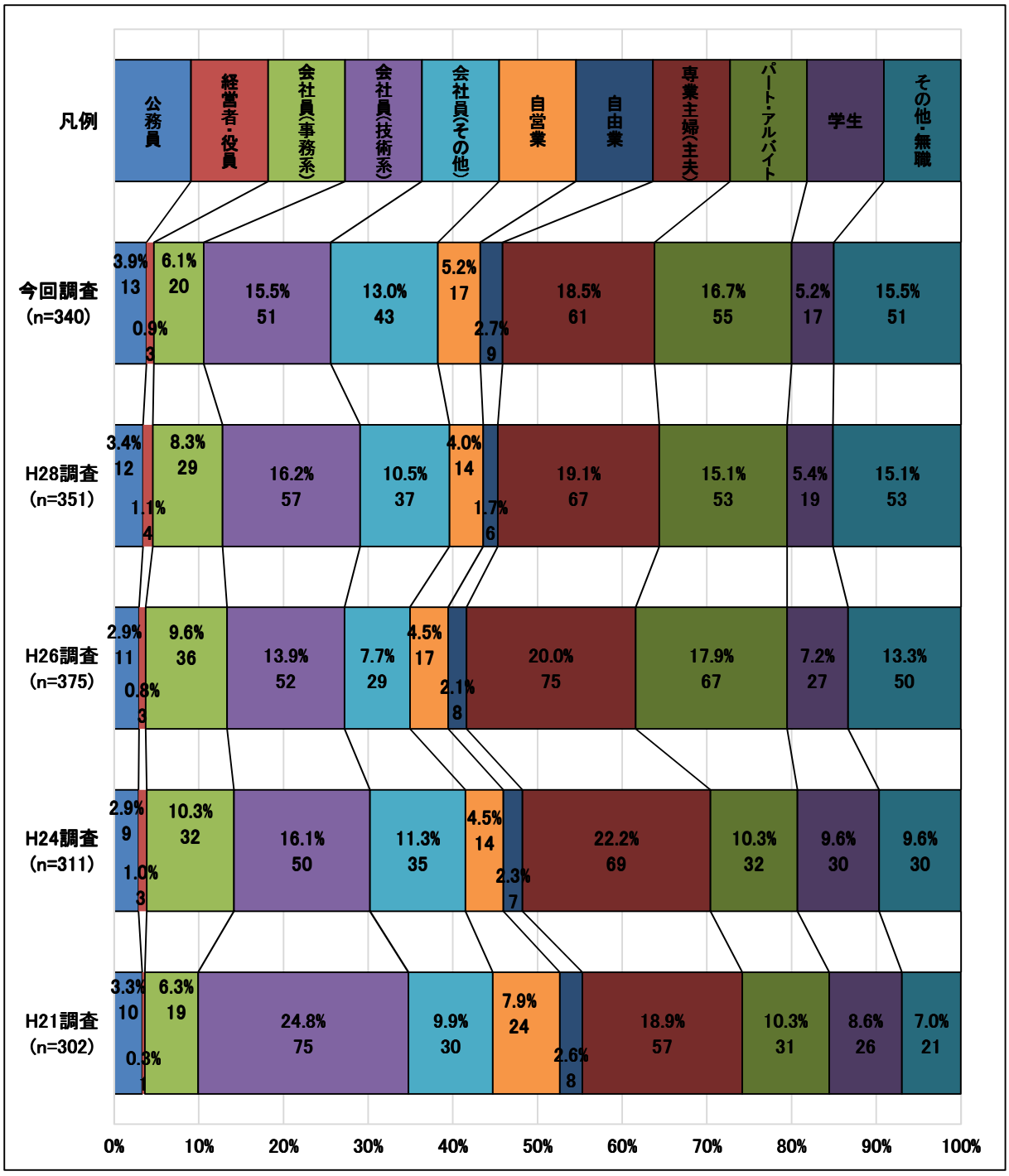
№.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
職業	公務員	経営者役員	会社員（事務系）	会社員（技術系）	会社員（その他）	自営業	自由業	専業主婦（夫）	パートアルバイト	学生	その他無職
回答	13 (3.8%)	3 (0.9%)	20 (5.9%)	51 (15.0%)	43 (12.6%)	17 (5.0%)	9 (2.6%)	61 (17.9%)	55 (16.2%)	17 (5.0%)	51 (15.0%)
	有職者 156 (45.9%)							有職者以外 184 (54.1%)			



2　過去の調査との比較(Web 調査のみ)

前々回の調査までは、公務員から自由業までの有職者の割合が減り続けていましたが、前回調査からは増加に転じています。

また、その他・無職と答えた人の割合は調査開始時からずっと増加傾向にあります。これは、回答者に占める高齢者の割合が増加していることに起因していると考えられます。



第３節　設問及び回答内容並びに分析結果

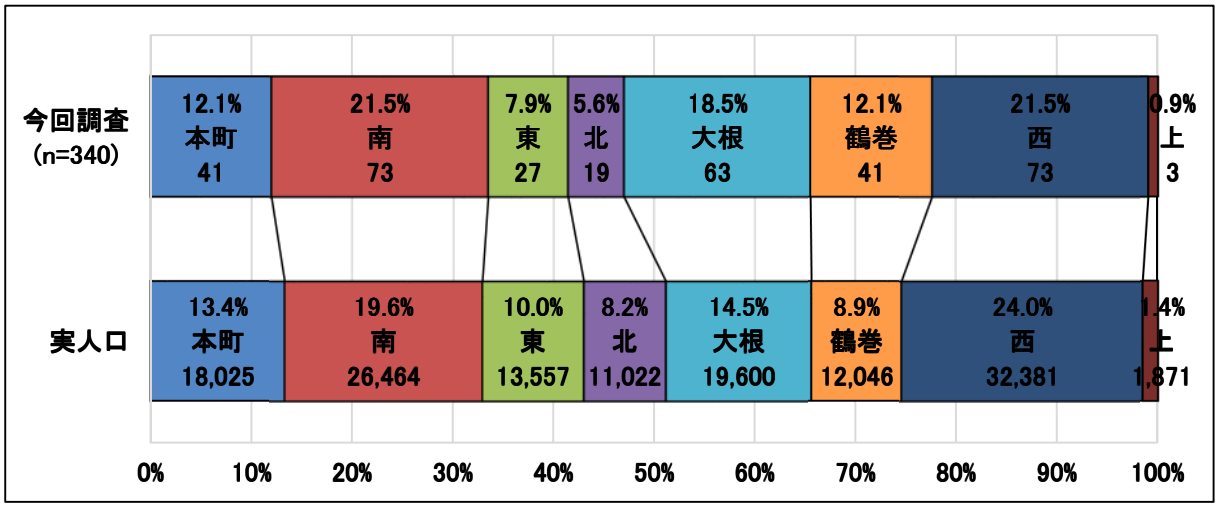
問１　あなたが居住している地区を教えてください。

①　本町地区　②　南地区　③　東地区　④　北地区　⑤　大根地区
⑥　鶴巻地区　⑦　西地区　⑧　上地区

１－１　調査結果

今回の調査では、南、大根、鶴巻地区に居住する人の割合が、実人口の割合よりも高く、本町、東、北、西、上地区に居住する人の割合が低くなっています。

「北地区」と回答した人の割合に標本誤差[1]を超える差が表れましたが、誤差範囲の直近であり、調査結果の信頼度に対する影響は極めて小さいと考えられます。



回答肢	実人口の割合	調査結果と誤差範囲　n=　340
①　本町	13.4%	(8.6%)　～　12.1%　～　(15.6%)
②　南	19.6%	(17.0%)　～　21.5%　～　(26.0%)
③　東	10.0%	(5.0%)　～　7.9%　～　(10.8%)
④　北	8.2%	(3.1%)　～　5.6%　～　(8.1%)
⑤　大根	14.5%	(14.3%)　～　18.5%　～　(22.7%)
⑥　鶴巻	8.9%	(8.6%)　～　12.1%　～　(15.6%)
⑦　西	24.0%	(17.0%)　～　21.5%　～　(26.0%)
⑧　上	1.4%	(0.0%)　～　0.9%　～　(1.9%)

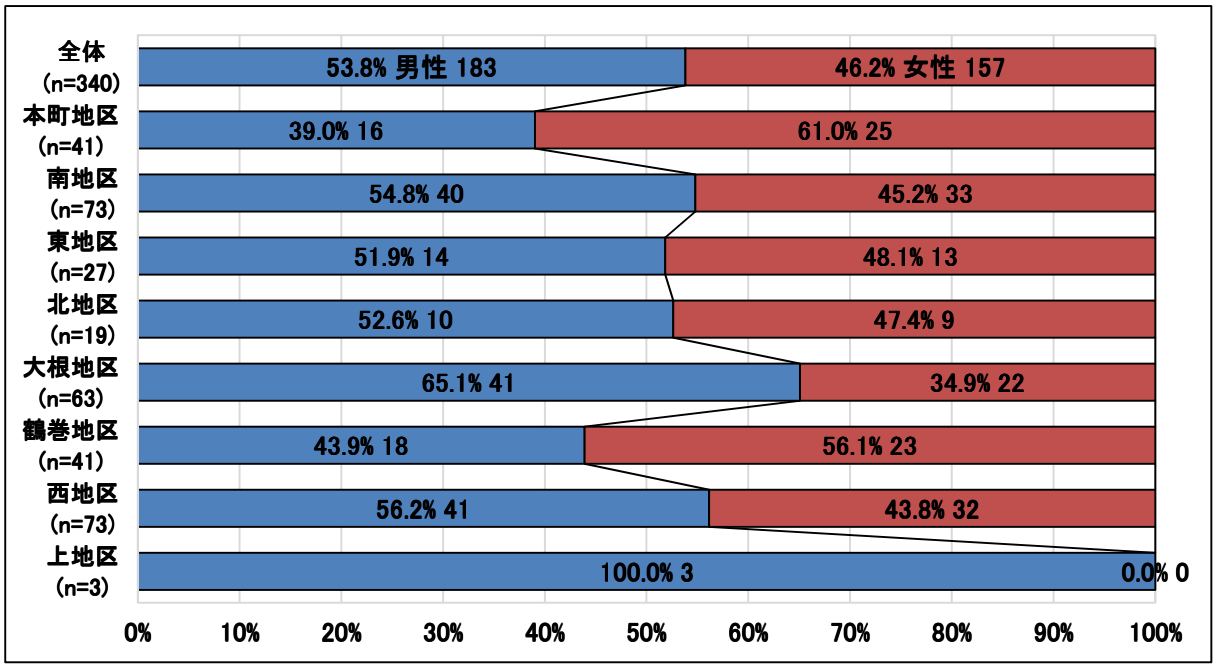
(　)内は、信頼水準 95%[2]である標本誤差を加減した回答率

[1] 母集団から一部の標本を抽出する標本調査において、標本から得られた値と、母集団における値との間に生じる誤差で、確率論に基づき一定の式で計算する。

[2] 100 回同じ調査を行った場合、95 回が回答割合に標本誤差を加減した範囲の中に収まる結果になるという信頼度。回答率 50%で信頼水準 95%である標本誤差が 5%の場合、その回答は 100 回中 95 回で 45～55%の範囲に収まることになる。

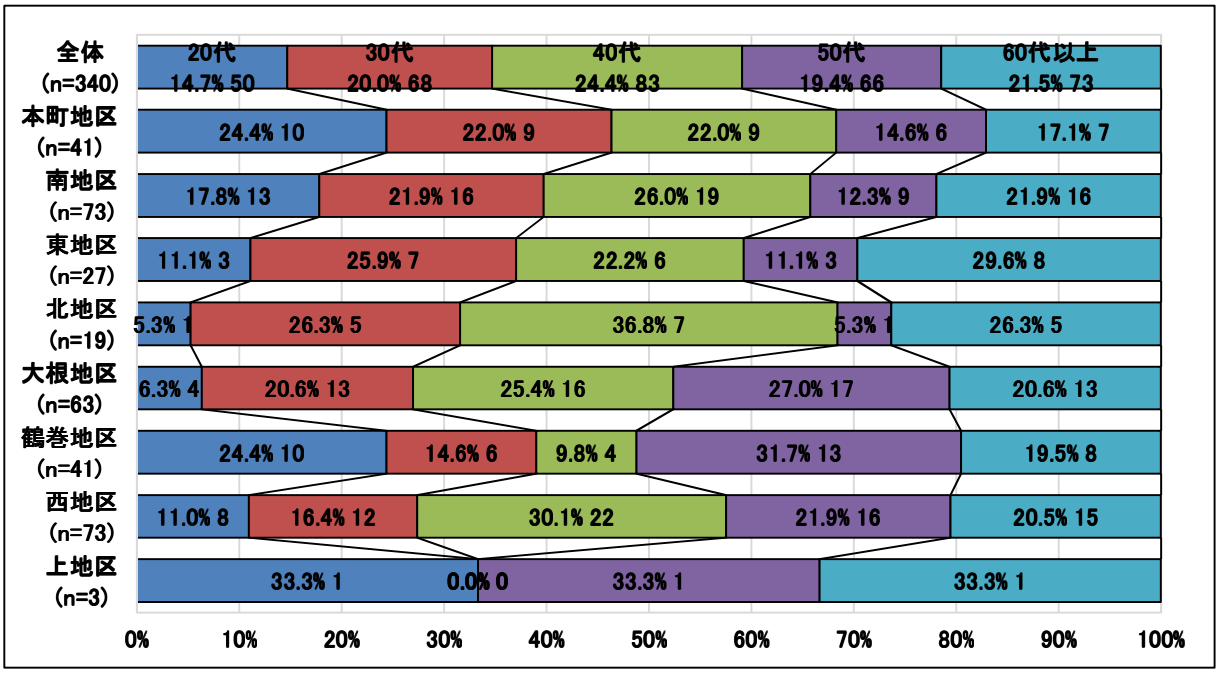
１－２　地区ごとの性別回答者割合

サンプル数が少ない上地区を除き、男性の割合が最も高かったのは、大根地区の 65.1%で、逆に女性の割合が最も高かったのは、本町地区の 61.0%となっています。



１－３　地区ごとの年代別回答者割合

サンプル数が少ない上地区を除き、20 代以下の割合が最も高かったのは、本町地区及び鶴巻地区の 24.4%、30 代の割合が最も高かったのは、北地区の 26.3%、40 代の割合が最も高かったのは、北地区の 36.8%、50 代の割合が最も高かったのは、鶴巻地区の 31.7%、60 代以上の割合が最も高かったのは、東地区の 29.6%となっています。



問２　あなたは、過去１年間に総合体育館、文化会館、図書館、公民館、児童館のように不特定の市民が利用することができる秦野市立の公共施設を利用しましたか。（公園のように職員が常駐していない施設は除きます。）

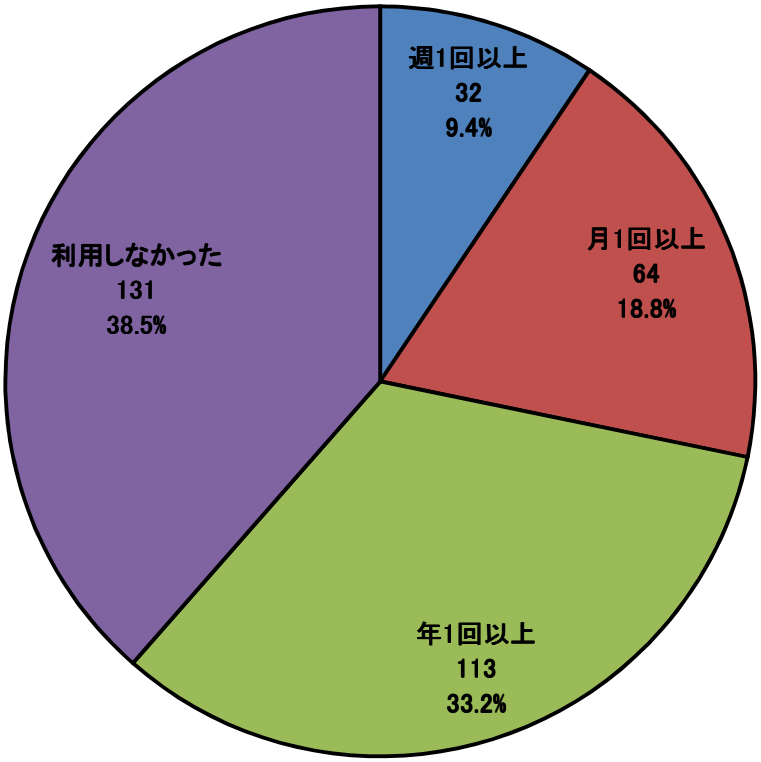
①　週に１回以上利用した。　②　月に１回以上利用した。
③　年に１回以上利用した。　④　利用しなかった。

２－１　調査結果

「利用しなかった」と回答した人の割合が最も高く 38.5%で、「週に 1 回以上利用した」と回答した人の割合は最も低く 9.4%となりました。

「週に 1 回以上利用した」及び「月に 1 回以上利用した」と回答した人（以下「定期的利用者」といいます。）の割合は 28.2%でした。

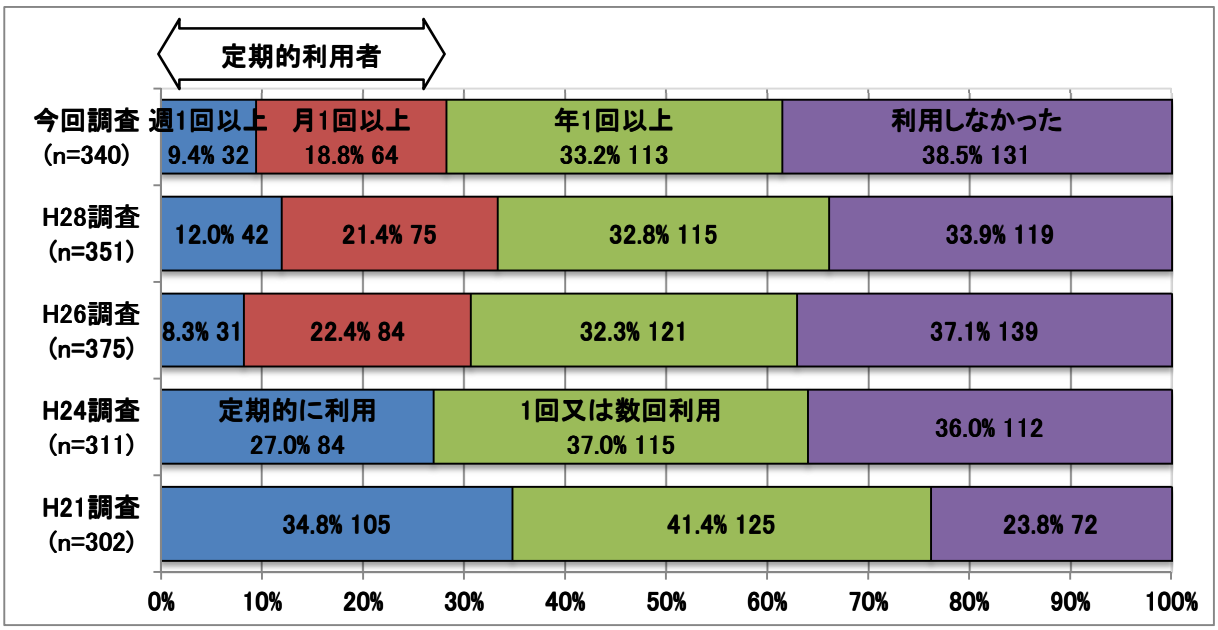
【今回調査(n=340)】



２－２　過去の調査との比較(Web 調査)

今回の調査では、定期的利用者の割合は 28.2%となり、33.4%だった前回の調査より 5.2 ポイント減少しています。

平成 26(2014)年度の調査以降、明確に回答が得られるように回答肢を変更していますが、定期的利用者の割合は、調査年度により増減はあるものの、約 3 割前後で推移しています。

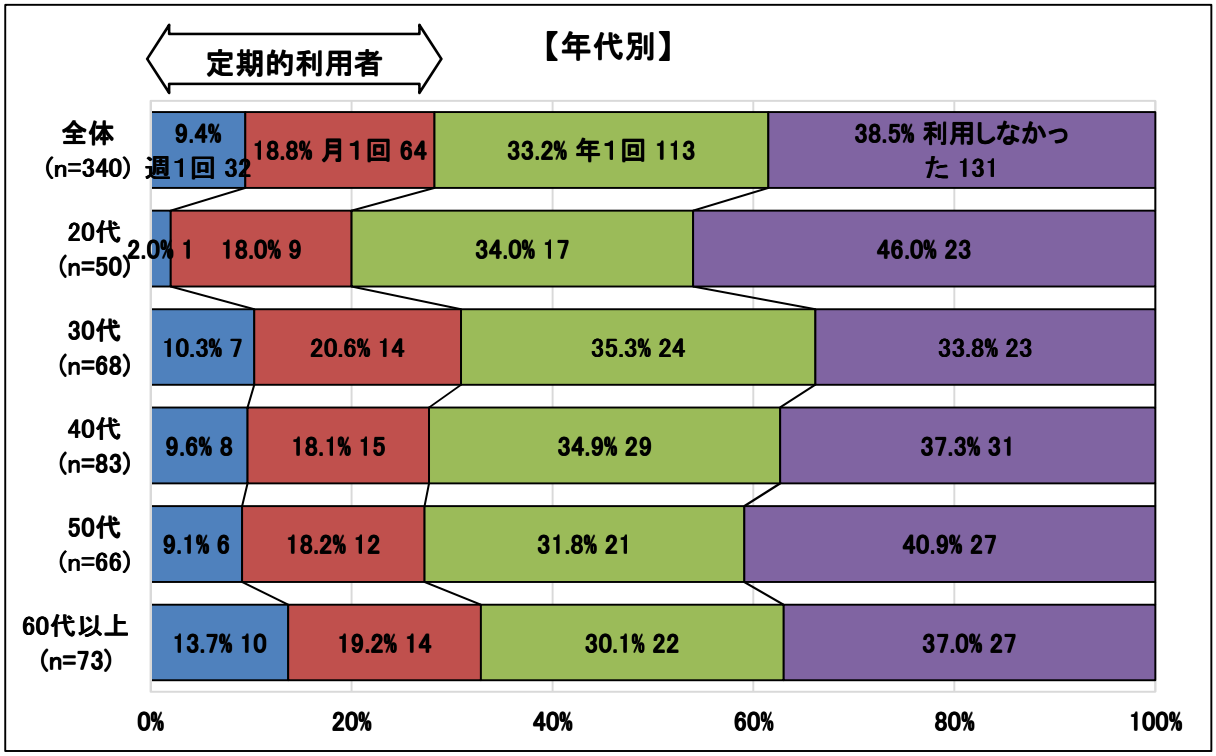


２－３　年代別及び性別の比較

(1)　年代別

定期的利用者の割合は、60 代以上が 32.9%で最も高くなっています。

20 代を除く全ての世代で、定期的利用者の割合は 30%前後となっていますが、20 代では 20.0%と低くなっています。また、「利用しなかった」と回答した人の割合は 20 代が 46.0%と最も高くなっています。

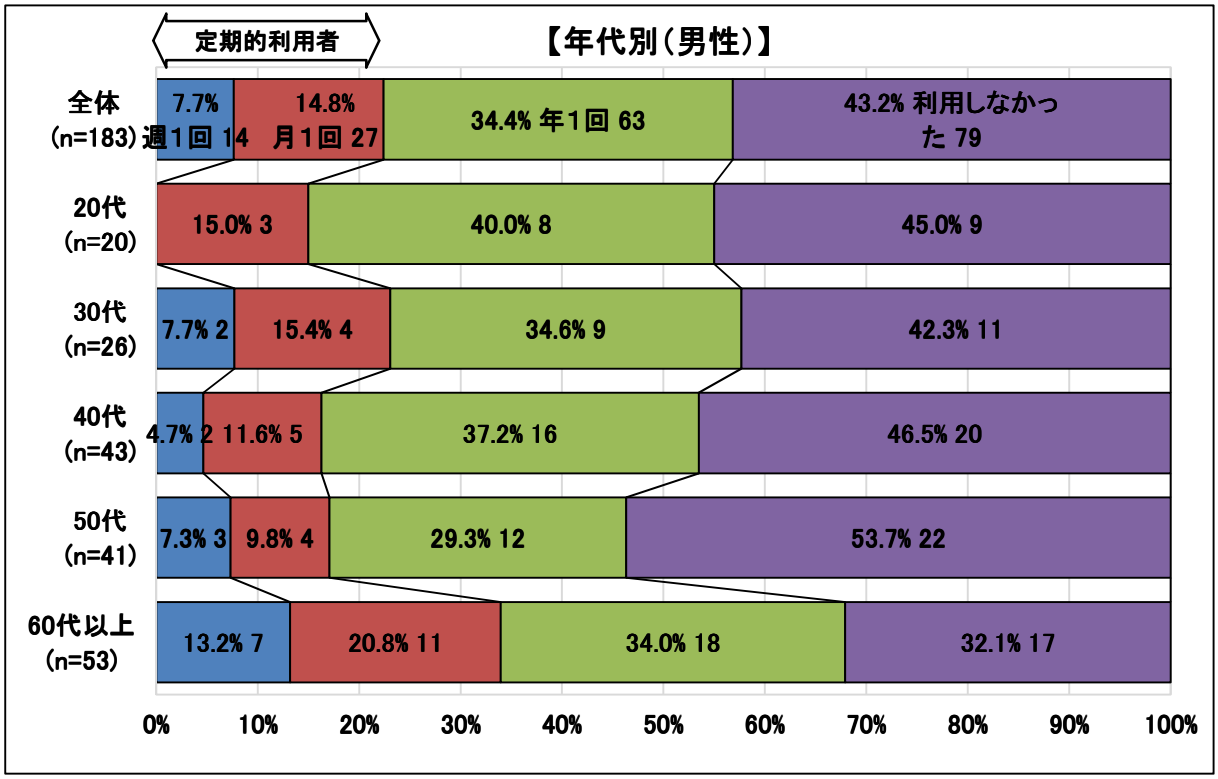


(2)　男性

定期的利用者の割合は、60 代以上が 34.0%で最も高くなっています。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合は、50 代が 53.7%で最も高くなっています。

男性と女性を合わせた全体の年代別傾向と比較すると、男性では 60 代以上を除く全ての世代で定期的利用者の割合が低くなっています。この割合の低下は、男性に就業者が多いことが原因と考えられます。



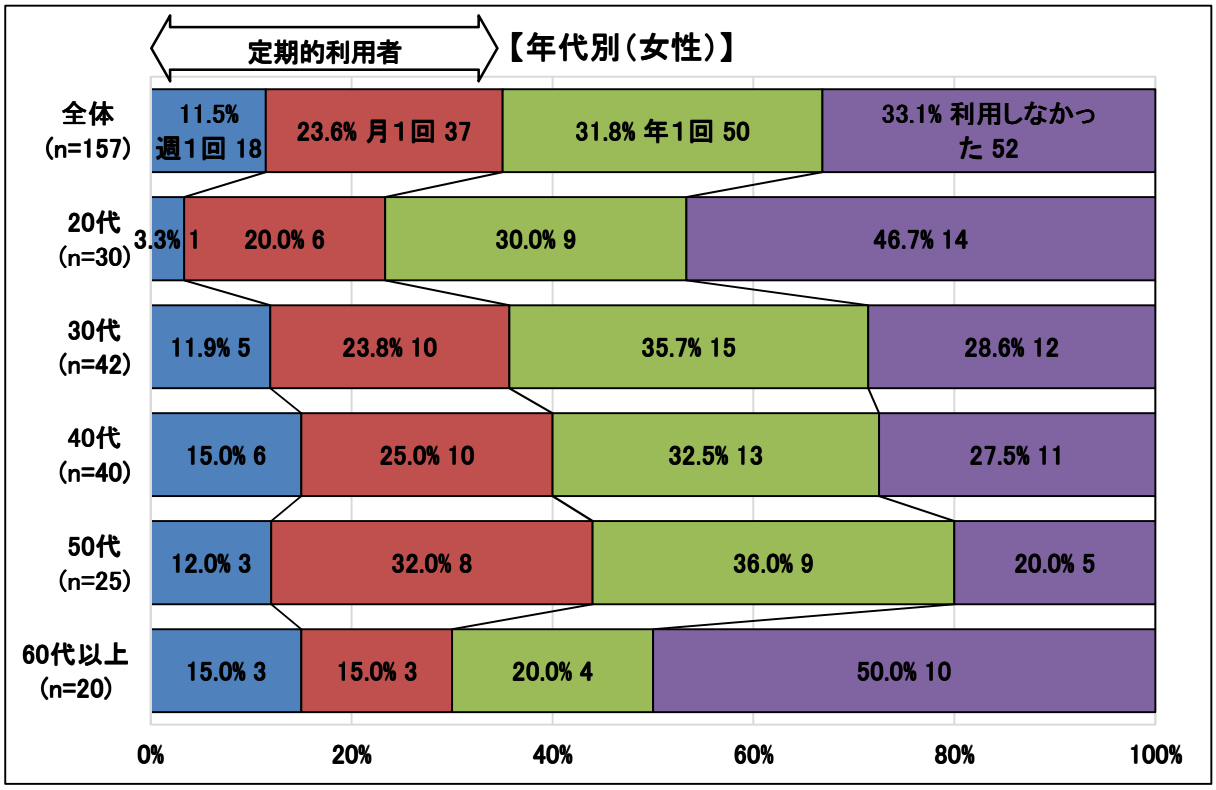
(3)　女性

定期的利用者の割合は、50 代が 44.0%と最も高くなっています。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合は、60 代以上が 50.0%で最も高く、次いで 20 代の 46.7%となっています。

男性と女性を合わせた全体の年代別傾向と比較すると、女性では 60 代以上を除く全ての世代で定期的利用者の割合が高くなっています。60 代以上の女性については、調査会社に登録している人数も少ないことが分かっており、一概に高齢化によって定期的利用者が少なくなっているとは判断できず、むしろ実際の利用者はもっと多い印象を受けます。

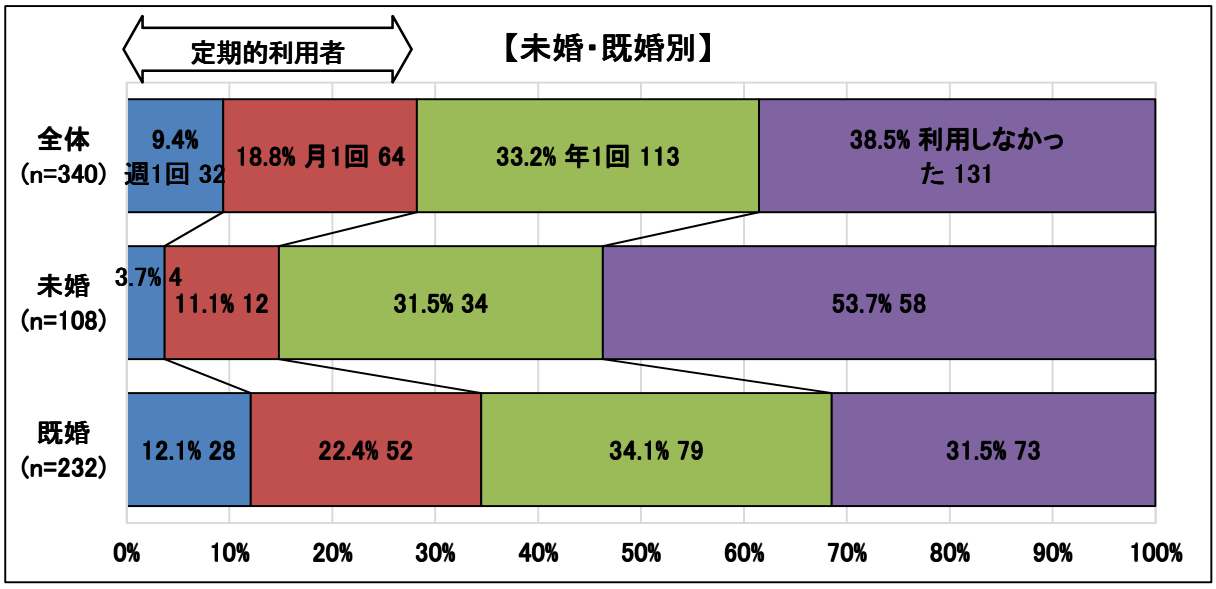
女性全体の定期的利用者の割合は 35.1%であり、22.5%の男性よりも、女性のほうが積極的に公共施設を利用していることが分かります。



２－４　未既婚別の比較

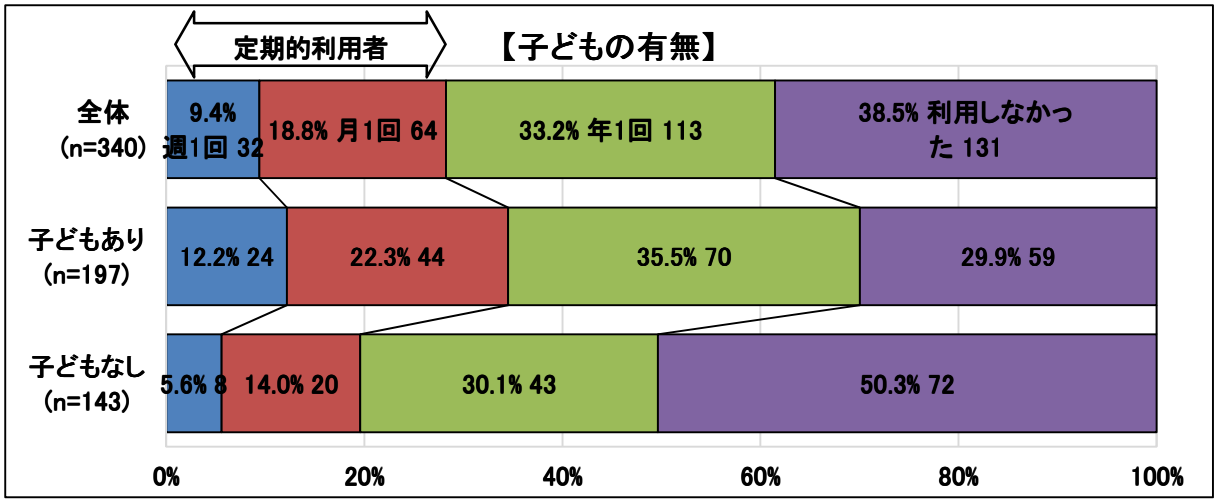
定期的利用者の割合は、未婚者の 14.8%に対して、既婚者は 34.5%と大きく上回っています。

「年に 1 回以上利用した」と回答した人の割合は、未婚者、既婚者の間に大きな差は見られませんが、「利用しなかった」と回答した人の割合は、未婚者では既婚者よりも 22.2%も高い 53.7%と、未婚者全体の過半数を占めています。



２－５　子どもの有無別の比較

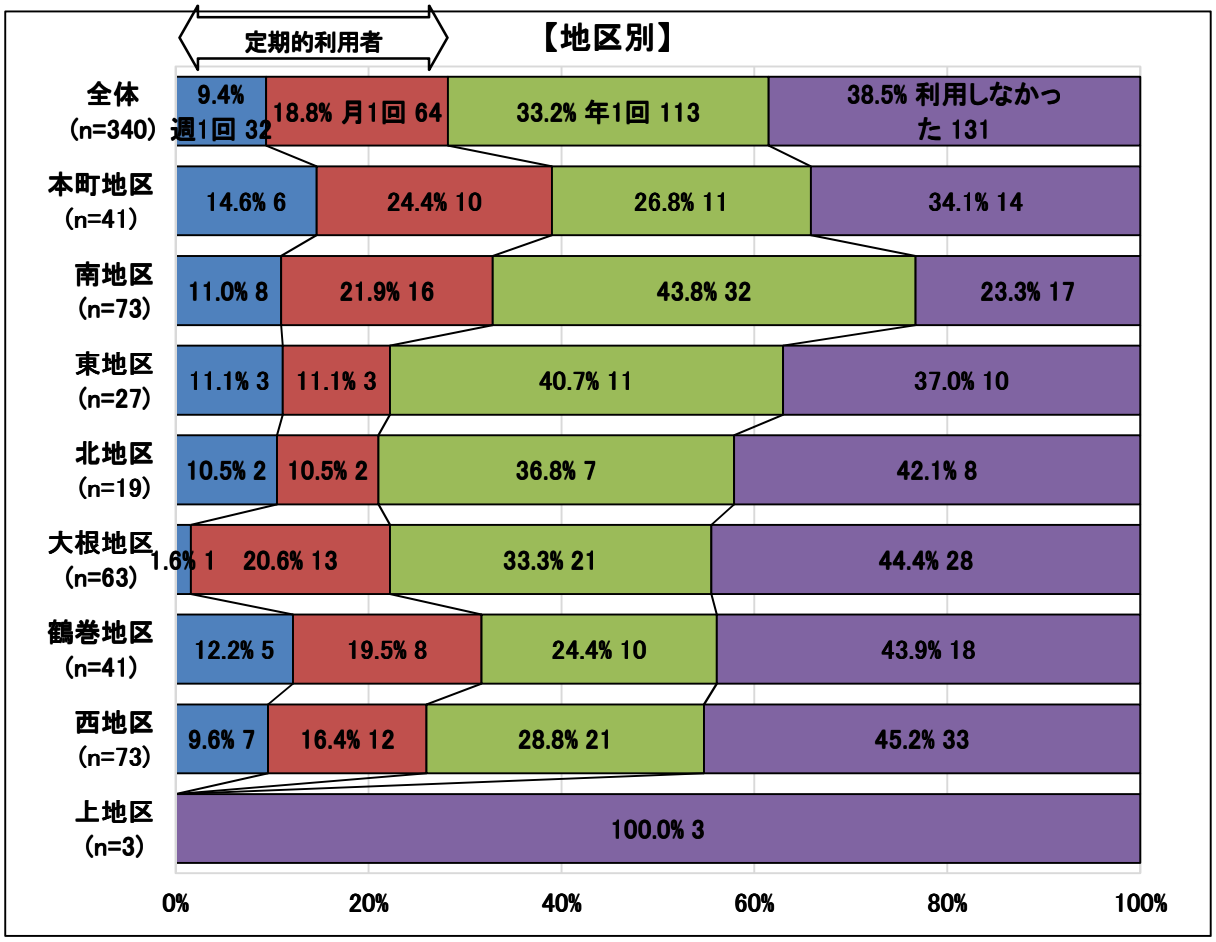
定期的利用者の割合は、「子どもあり」と答えた人が 34.5%と、「子どもなし」と回答した人の割合よりも 14.9%も高くなっています。



２－６　地区別の比較

回答者が少ない上地区を除くと、定期的利用者の割合は、本町地区が 39.0%で最も高くなりました。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合が最も高かったのは、西地区の 45.2%となっています。



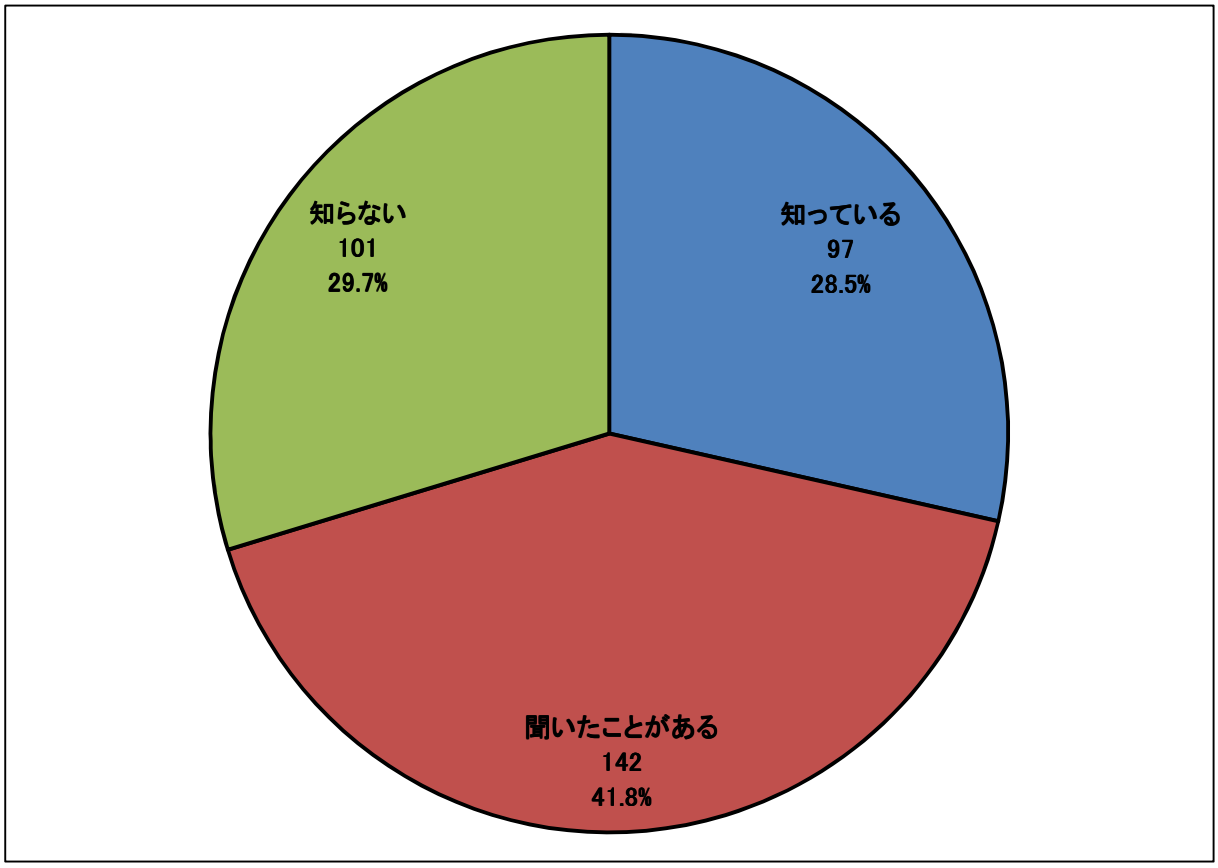
問３　日本では、昭和 40 年代から 50 年代にかけて、高度経済成長や都市化の進展に伴い、道路や橋を含めた公共施設を一斉に整備しました。現在これらの公共施設は、一斉に老朽化しつつあり、また、近い将来、一斉に作り直さなければいけない時期を迎えますが、住民の高齢化と人口減少が進む中で財政状況は悪化し、すべての公共施設を維持することが難しくなります。このことは、「公共施設の更新問題（老朽化問題）」と言われていますが、あなたは、このことをご存知でしたか。

①　知っている。　②　なんとなく聞いたことがある。　③　知らない。

３－１　調査結果

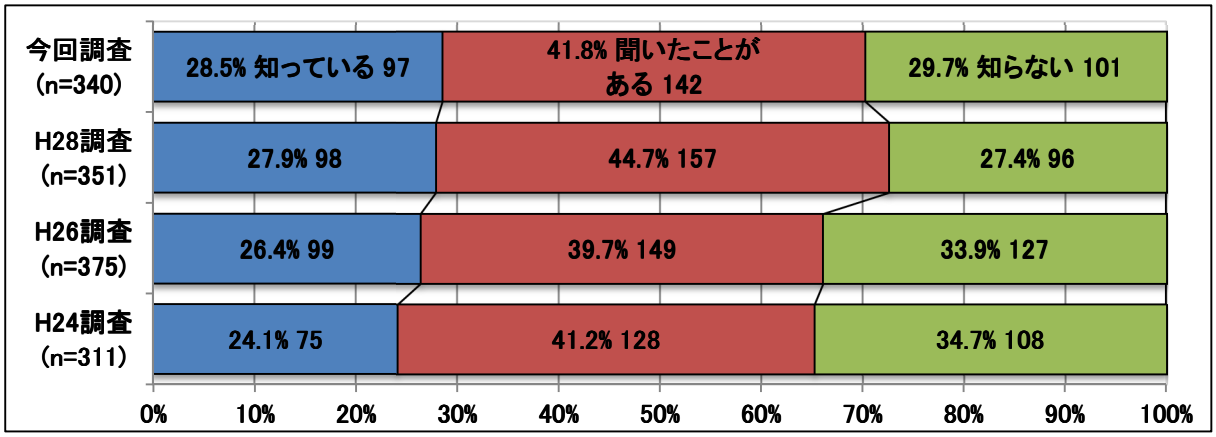
平成 24(2012)年度のアンケート調査から継続している質問です。

「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は 70.3%となっています。



３－２　過去の調査との比較(Web 調査)

「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は 70.3%で、前回調査よりも 2.3 ポイント減少していますが、平成 24(2012)年度調査では 65.3%、平成 26(2014)年度調査では 66.1%でしたので、一定の認知度は確保されていることが伺えます。

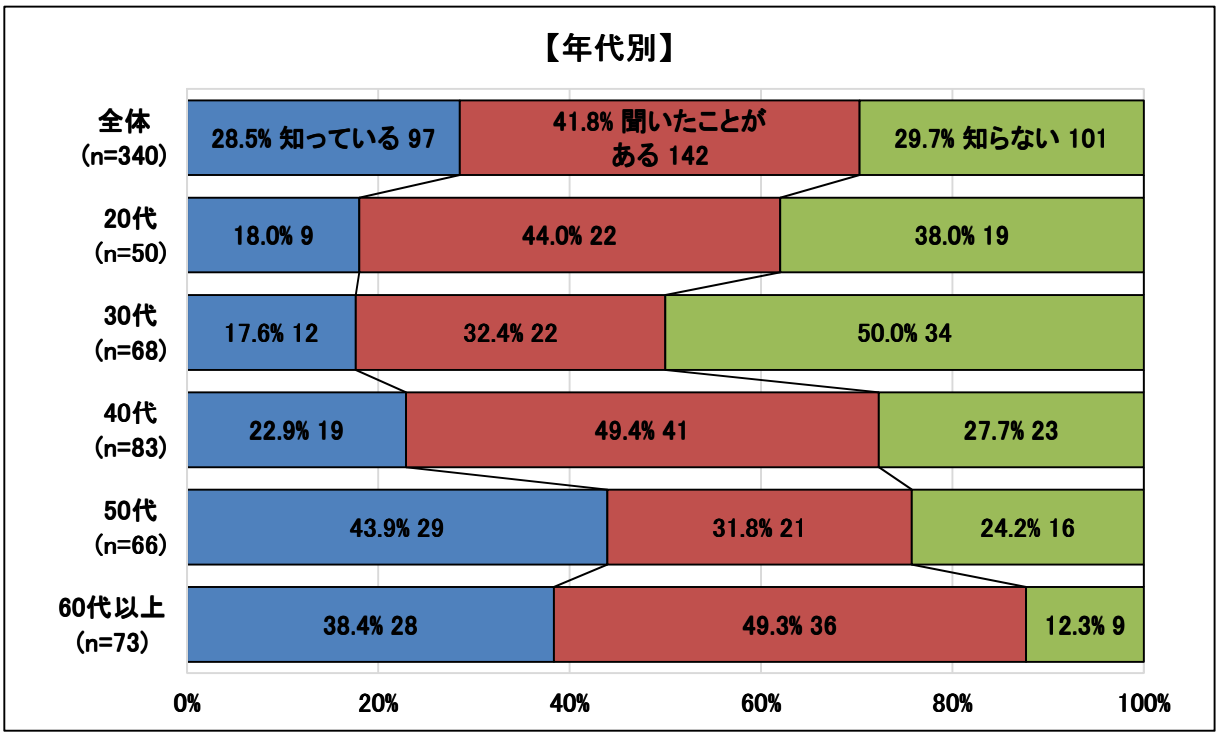


３－３　年代別及び性別の比較

(1)　年代別

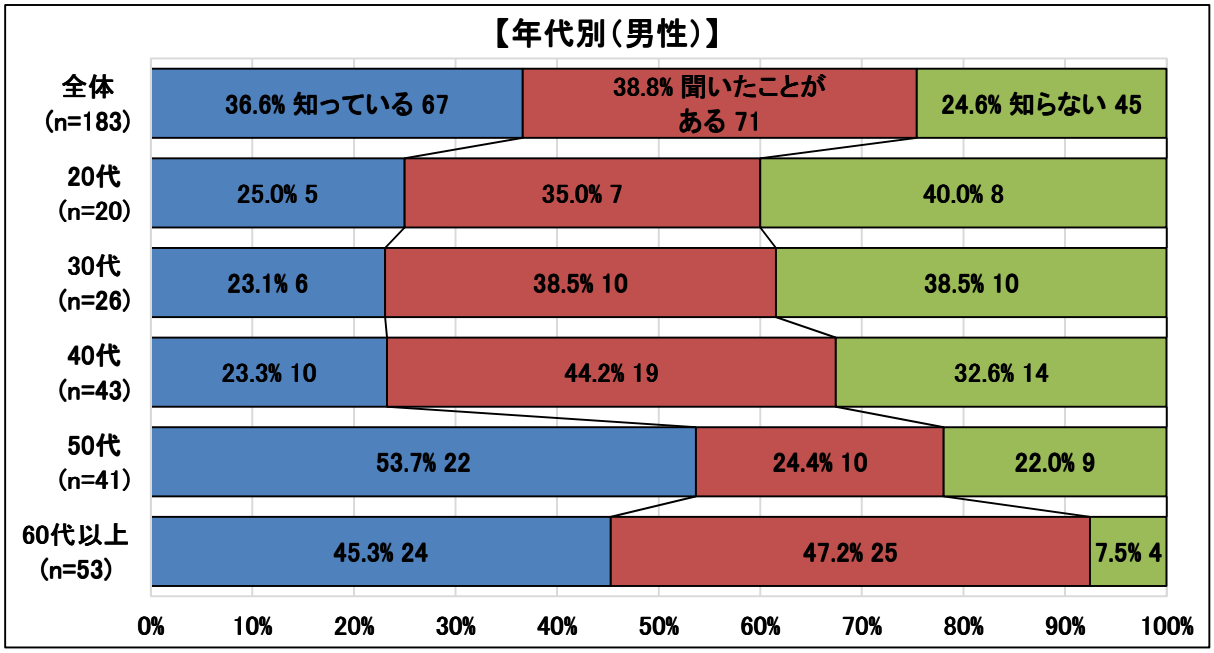
「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60 代以上が 87.7%と最も高くなっています。

また、「知らない」と答えた人の割合は、30 代が 50.0%と最も高く、次に割合が高い 20 代を 12.0%上回っています。



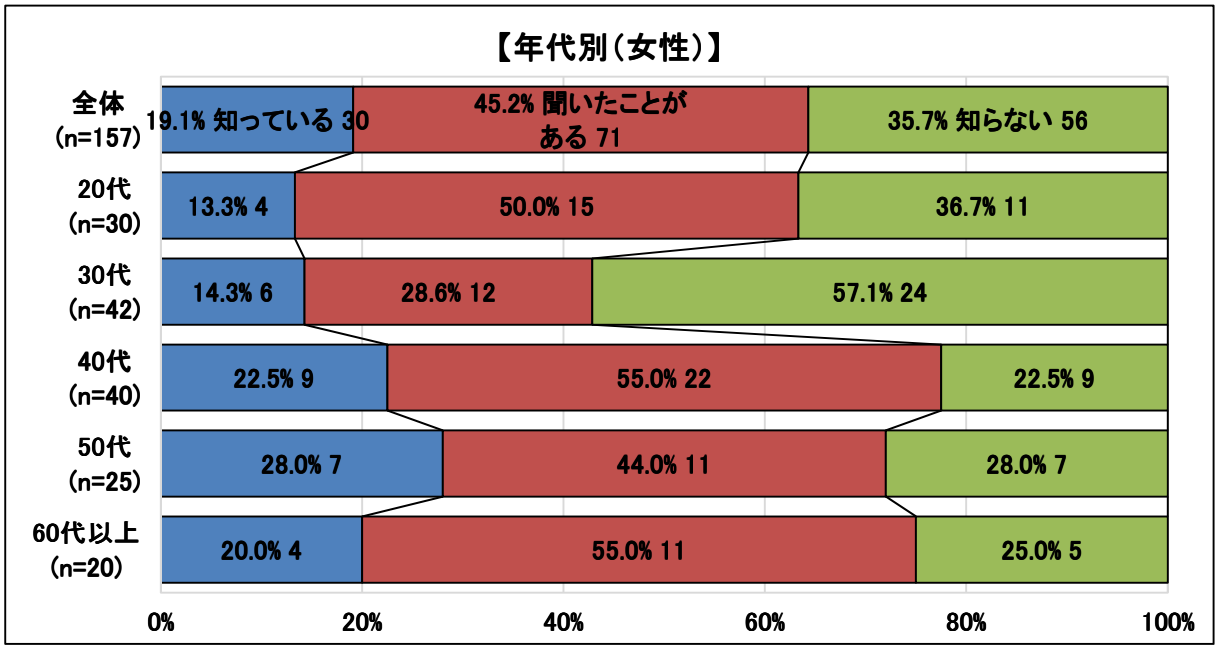
(2)　男性

「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60 代以上が 92.5%と最も高く、50 代が 78.1%と続いています。男性全体で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は 75.4%で、男女を合わせた全体の認知度より 5.1%高くなっています。男性では、50 代を境に認知度が上がっています。



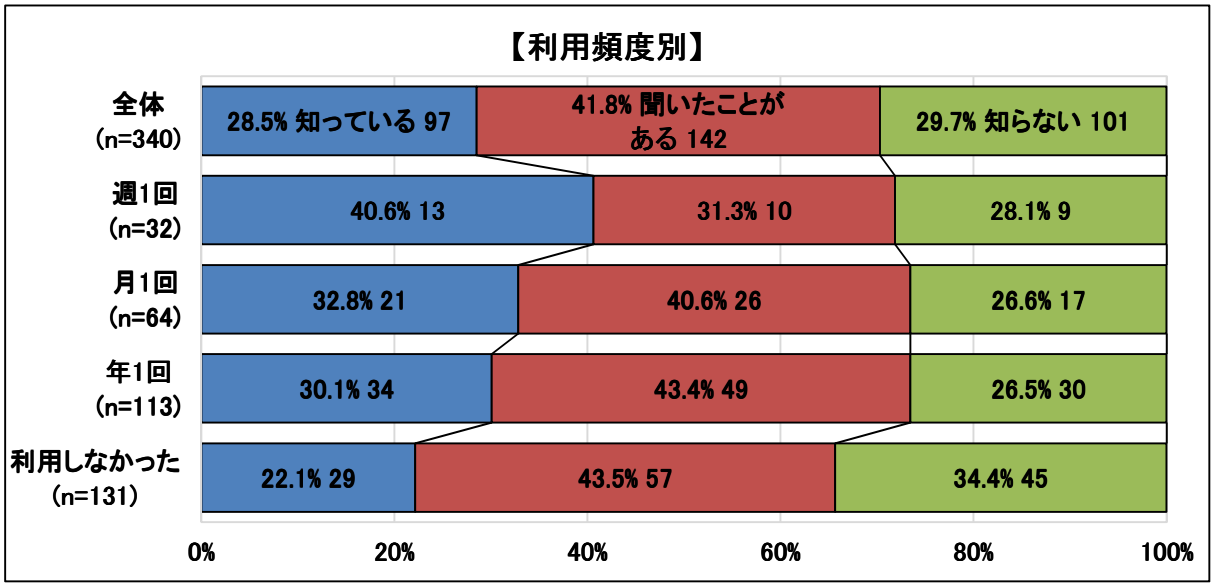
(3)　女性

「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、40 代が 77.5%と最も高く、50 代及び 60 代以上も 70%を超えています。女性全体で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は 64.3%で、男性ほど認知度は高くありませんが、40 代以上の世代で高い認知度となっていることが伺えます。



３－４　公共施設利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度別に「公共施設更新問題の認知度」を見てみると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、「月 1 回以上利用した」と回答した人が 73.5%、「年 1 回以上利用した」と回答した人が 73.4%と高くなり、「週 1 回以上利用した」と回答した人は 71.9%と少し低くなりました。「利用しなかった」と答えた人の割合も 65.6%なので、「公共施設更新問題の認知度」に関して、利用頻度の違いによる大きな差は見られません。

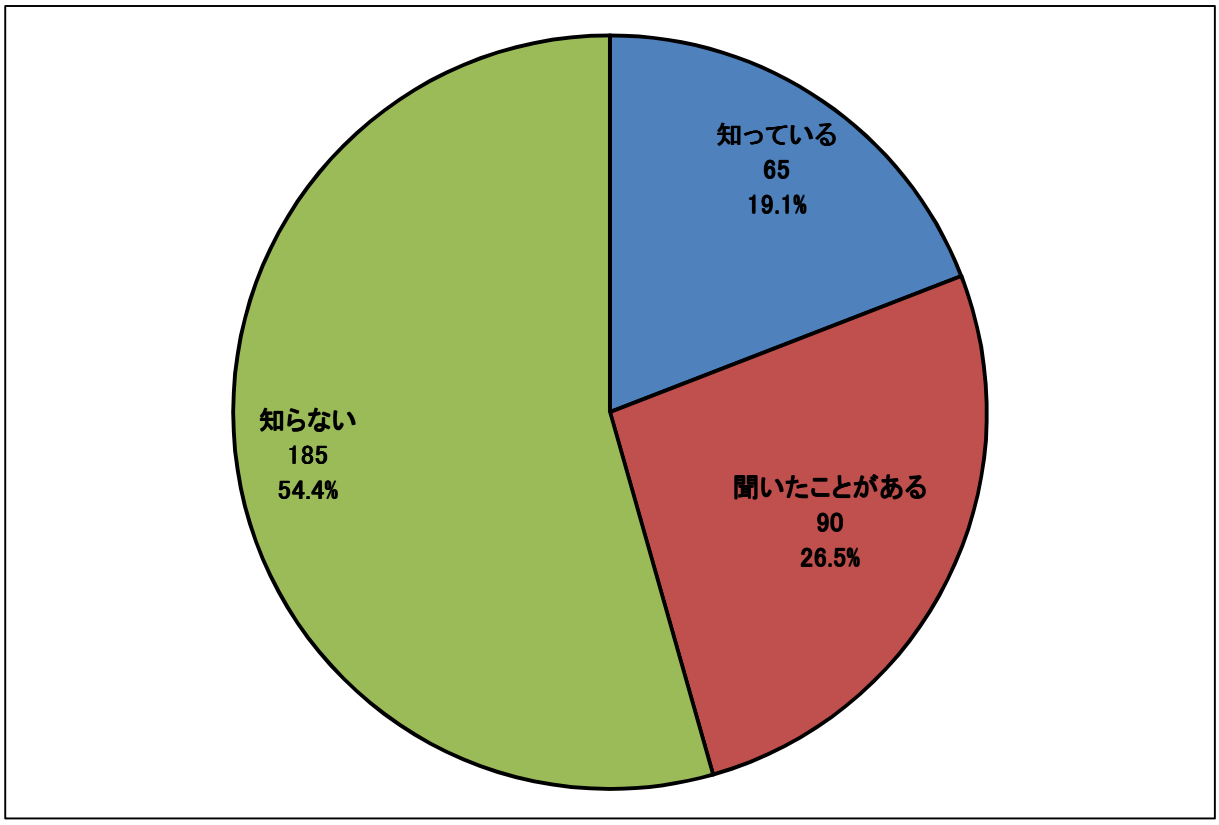


問４　現在秦野市は、前問の「公共施設の更新問題（老朽化問題）」に対応するため、「公共施設の再配置」を進めています。あなたは、このことをご存知でしたか。

①　知っている。　②　なんとなく聞いたことがある。　③　知らない。

４－１　調査結果

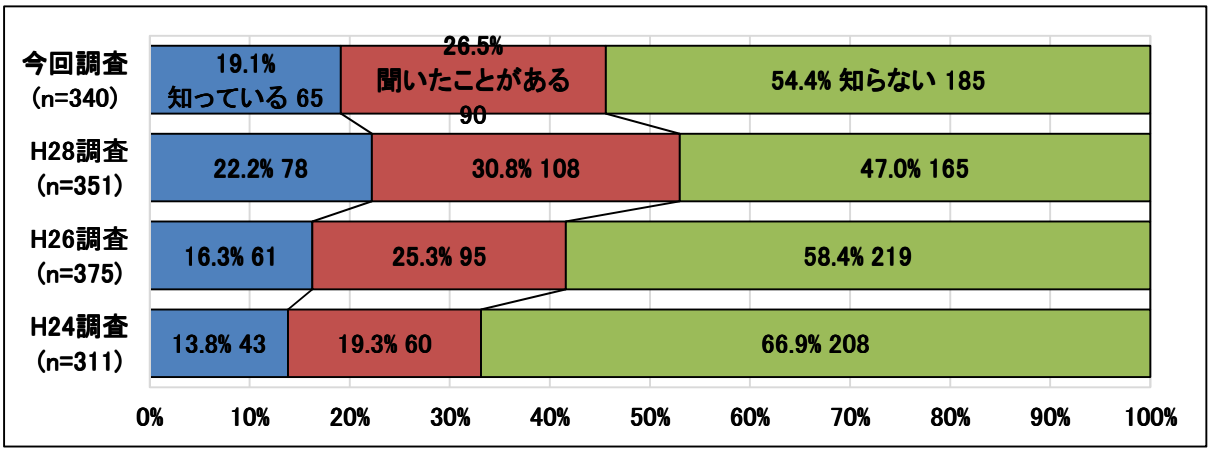
問３と同じく、平成 24(2012)年度のアンケート調査から継続している質問ですが、「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は合わせて 45.6%となっています。



４－２　過去の調査との比較(Web 調査)

「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、平成 24(2012)年度調査から平成 28(2016)年度調査まで増加していましたが、今回の調査では 45.6%と、前回調査よりも 7.4 ポイント減少しています。

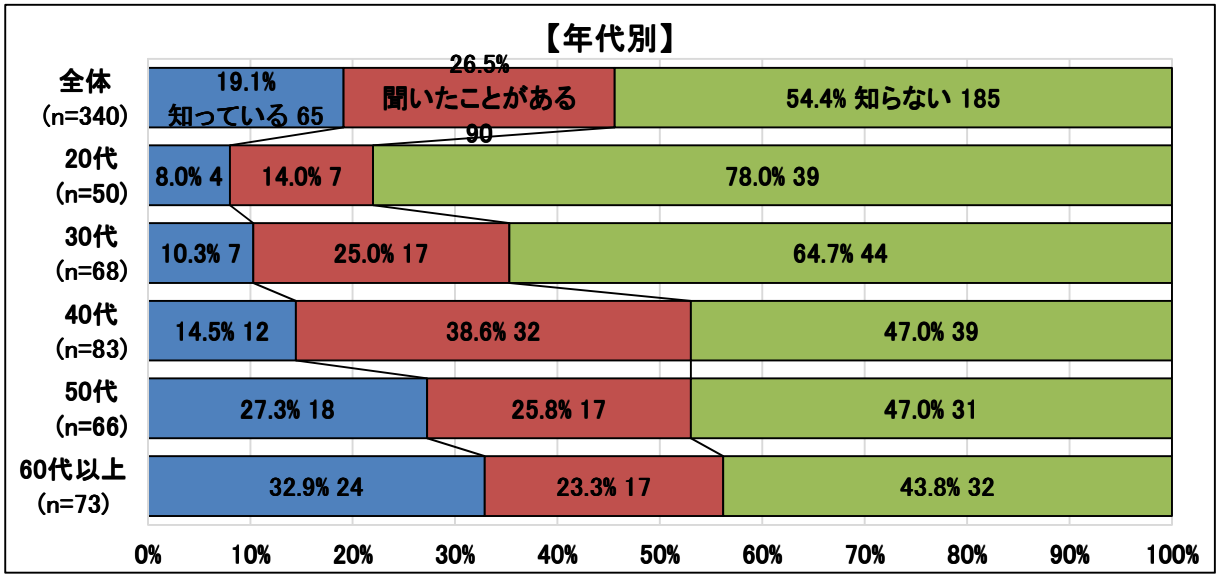
前回の調査では、このアンケートに連続(H26,28)して回答した人が 189 名(53.8%)、そのうち 3 回連続(H24,26,28)して回答した人が 82 名(23.4%)となっていましたが、今回の調査では連続(H28,30)して回答した人は 172 名(50.6%)、そのうち 3 回連続(H26,28,30)して回答した人が 105 名(30.9%)でした。3 回連続して回答した人の割合は増加していますが、連続して回答した人の割合が減少したということは、初めて回答した人の割合が増加したということであり、この割合の増加が認知度が減少している原因と考えられます。



４－３　年代別及び性別の比較

(1)　年代別

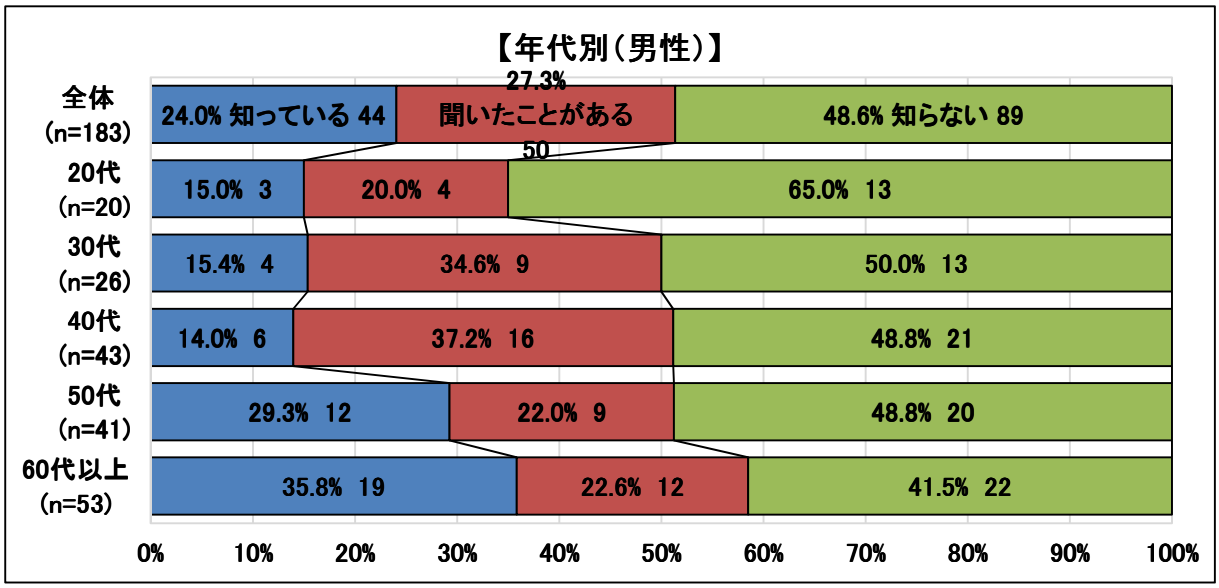
「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60 代以上が 56.2%で最も高くなりました。40 代及び 50 代は 53.1%ですが、30 代は 35.3%、20 代は 22.0%と、若い世代ほど本市の「公共施設再配置」の取り組みの認知度が低いことが分かります。



(2)　男性

男性で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、51.3%で男女を合わせた全体の割合より5.7ポイント高くなっています。公共施設の再配置の取組みに関する認知度は、男性の方が高いことがわかります。

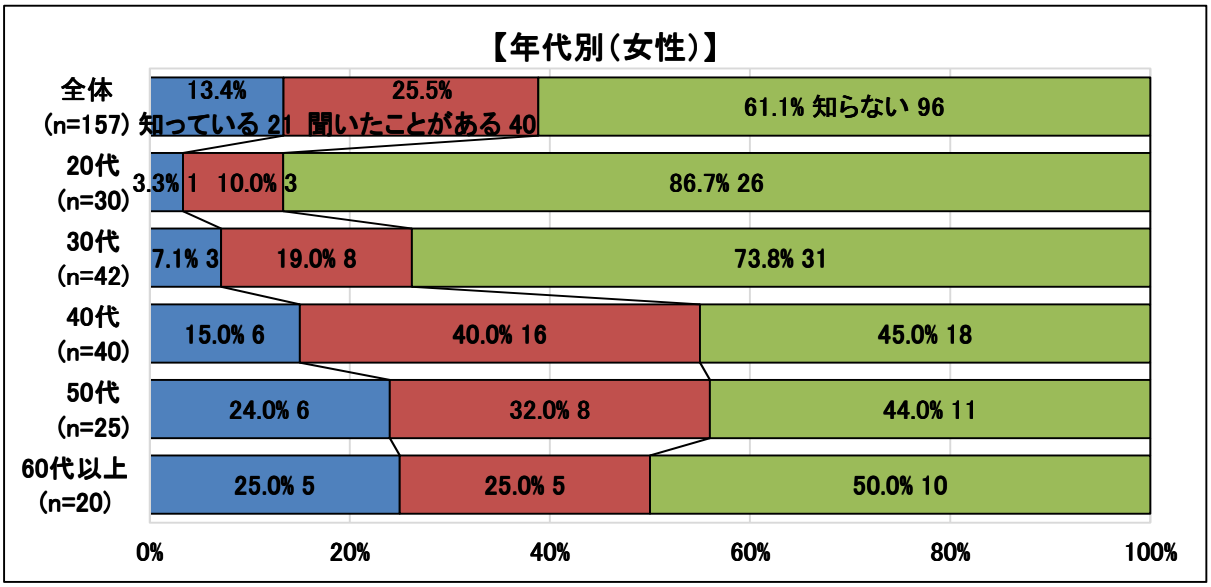
年代別で見ると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も高くなったのは、60代以上の58.4%でした。30代から50代までは約50%の割合となっていますが、20代は35.0%と著しく認知度が低い結果となりました。



(3)　女性

女性で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、38.9%で、男女を合わせた全体の割合より6.7ポイント低くなっています。

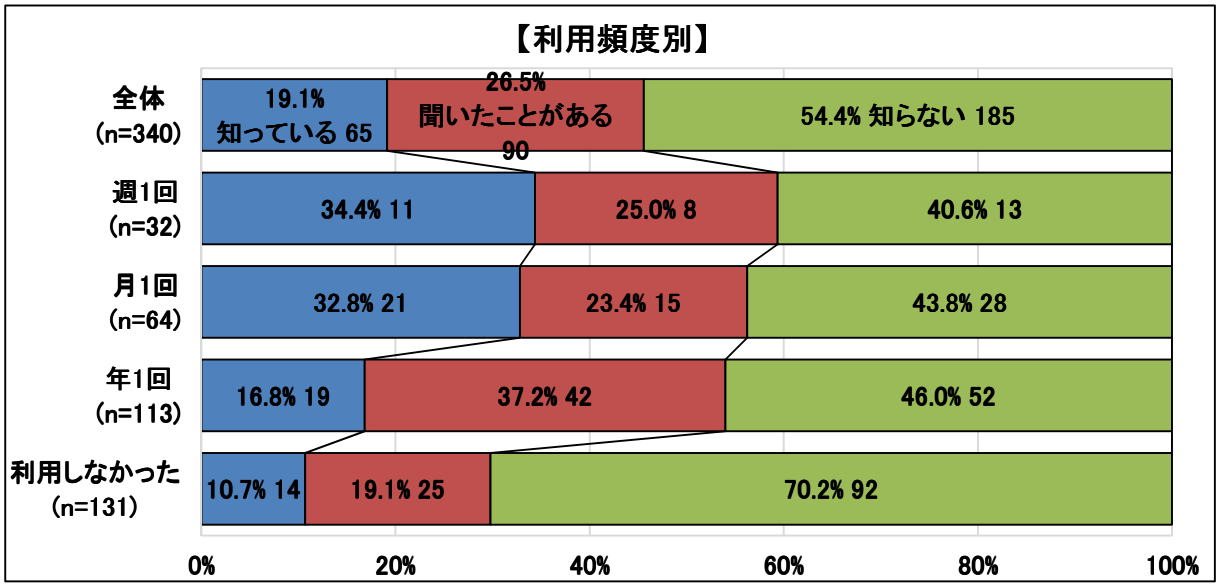
年代別で見ると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も高くなったのは、50代の56.0%で、40代の55.0%、60代以上の50.0%と続きますが、30代では26.1%、20代では13.3%と、若い世代の認知度の低下が男性よりも顕著になっています。



４－４　公共施設利用頻度別の比較

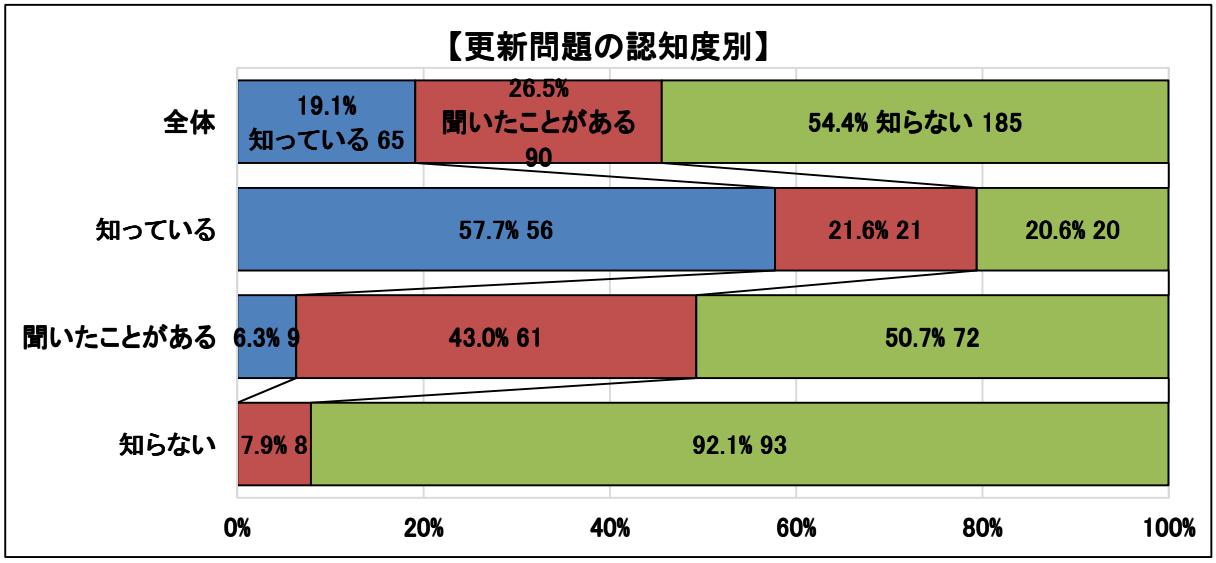
公共施設の利用頻度が高くなるほど、「公共施設の再配置の取組み」を「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合も高くなる傾向が見られますが、「年に 1 回以上利用した」人でもその割合は 54.0%と、全体の割合を 8.4 ポイント上回っています。

「利用しなかった」人では、「知らない」と回答した人の割合が 70.2%にも達していることから、施設の利用頻度よりも利用の有無によって「公共施設再配置の取組み」の認知度に差が表れていると考えられます。



４－５　公共施設更新問題認知度別の比較

「公共施設更新問題」の認知度と、「公共施設の再配置の取組み」の認知度は、密接に関係していることが分かります。「公共施設更新問題」を「知っている」人では、「公共施設の再配置の取組み」を「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した割合は 79.3%に達していますが、「公共施設更新問題」を「知らない」人では、この割合は 7.9%（取組みを「知っている」割合は 0%）に激減しています。



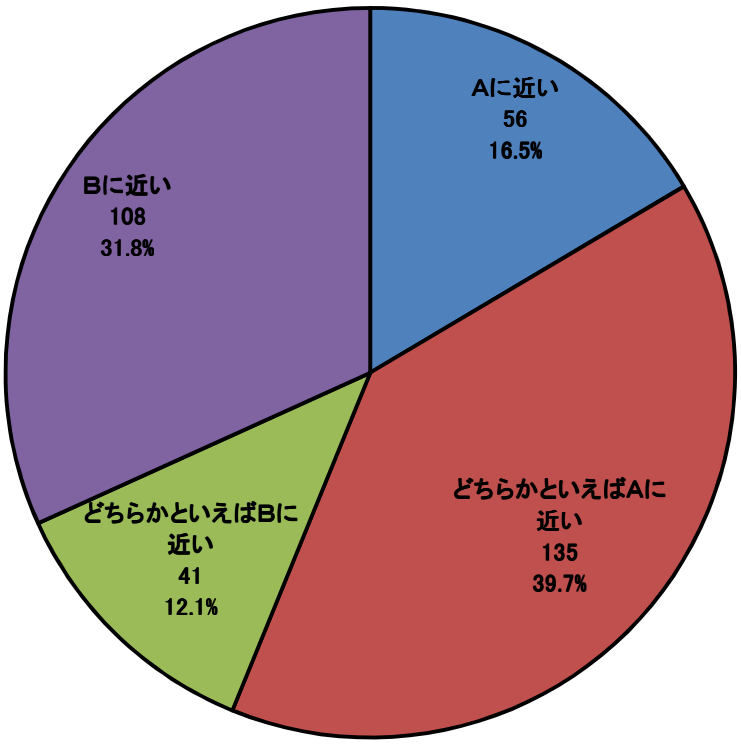
問５　秦野市では、「公民連携によるサービスの充実」を公共施設再配置計画のシンボル事業のひとつに位置付け、これまでに市役所敷地内へのコンビニエンスストアの誘致、保健福祉センター内への郵便局の設置、統合後の保育園跡地を賃貸した障害者福祉施設の民営化、老人いこいの家すずはり荘及び沼代児童館の自治会への譲渡など、公民連携の手法を取り入れた公有財産の活用に取り組んできました。今後も「公共施設の再配置」を進めるためには、施設が持つ機能を少ない経費で最大限に発揮するとともに、より使いやすい施設とすることを目的として、公共施設の管理運営主体が民間企業や地域の自治会などに変更される可能性もあります。しかし、管理運営主体が民間企業や地域自治会に移行した場合、経営悪化や自治会員の減少などにより施設の運営が不安定になる可能性もあります。次の２つの考えのうち、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

Ａ	**多少のリスクがあったとしても、魅力的な施設運営を行えるのであれば公民連携をもっと進めるべきである。**
Ｂ	**公共施設は安定的な運営を第一に考えるべきであり、施設の運営はできるだけ市が行うべきである。**

①　Ａの考えに近い。　②　どちらかといえば、Ａの考えに近い。
③　どちらかといえば、Ｂの考えに近い。　④　Ｂの考えに近い。

５－１　調査結果

これまで本市が進めてきた「公民連携」に関する市民の意識を把握し、平成33(2021)年を始期とする「公共施設再配置計画第２期基本計画」策定の参考資料とするために新設した質問です。

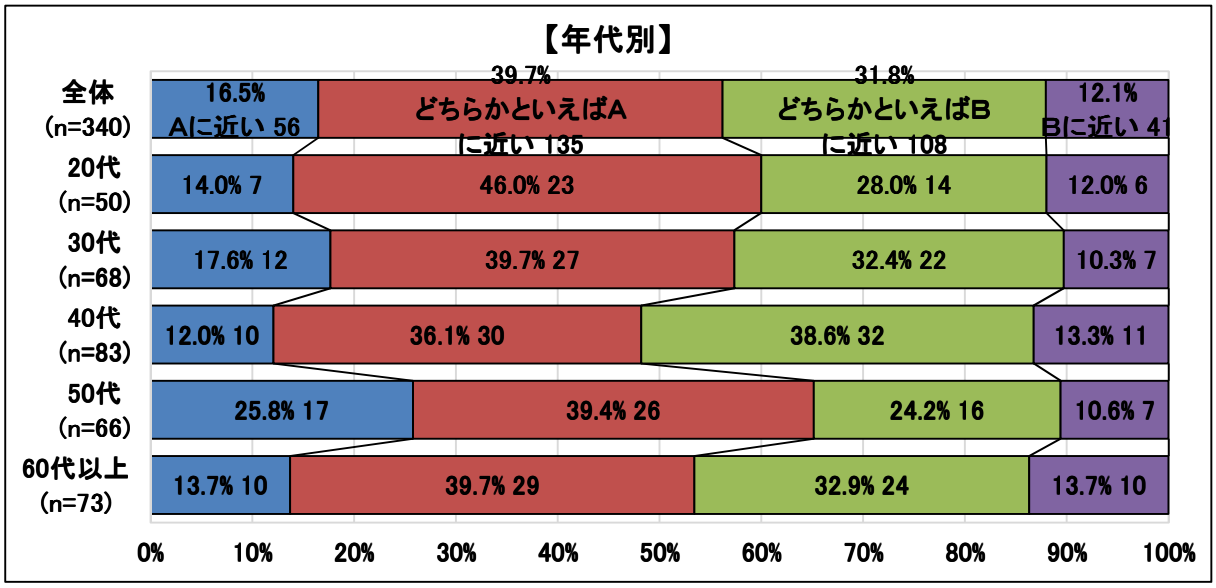


公民連携の推進に賛成となる「Ａに近い」と回答した人の割合は 16.5%でしたが、「どちらかといえばＡに近い」と回答した人の割合を合わせると 56.2%となり、「施設運営は市で行うべき」と考える人の割合を上回る結果となりました。

５－２　年代別及び性別の比較

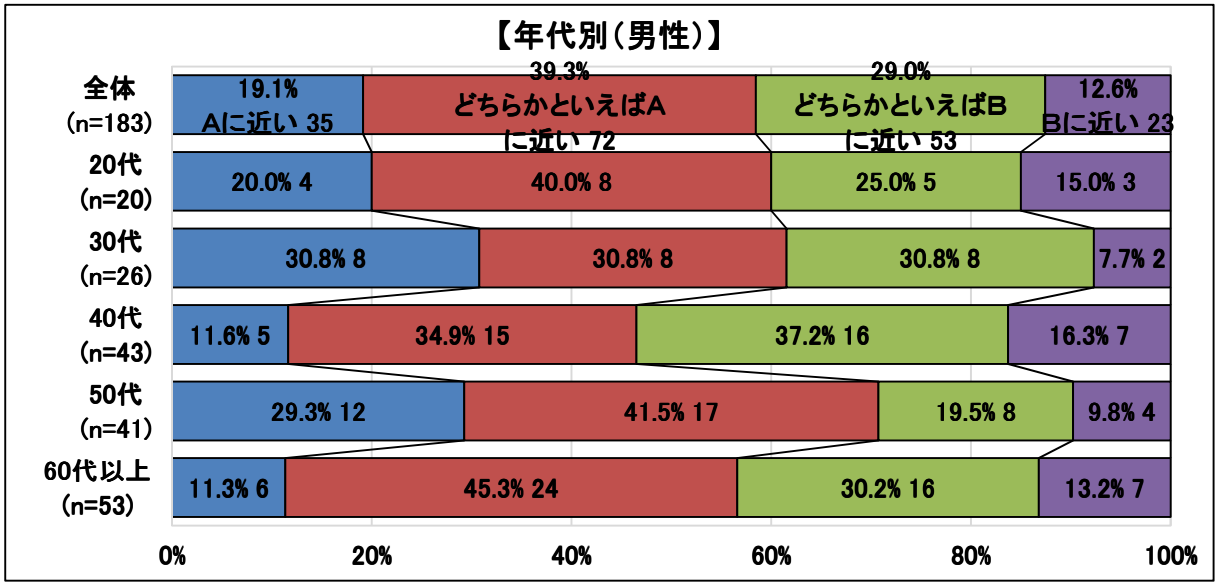
(1)　年代別

「Ａに近い」と回答した人の割合は 50 代が 25.8%と最も高く、40 代及び 60 代以上は 20 代及び 30 代よりも低くなっています。「どちらかといえばＡに近い」と回答した人も含めると、公民連携の推進に賛成している人の割合は、50 代の 65.2%が最も高く、次いで 20 代及び 30 代となっています。



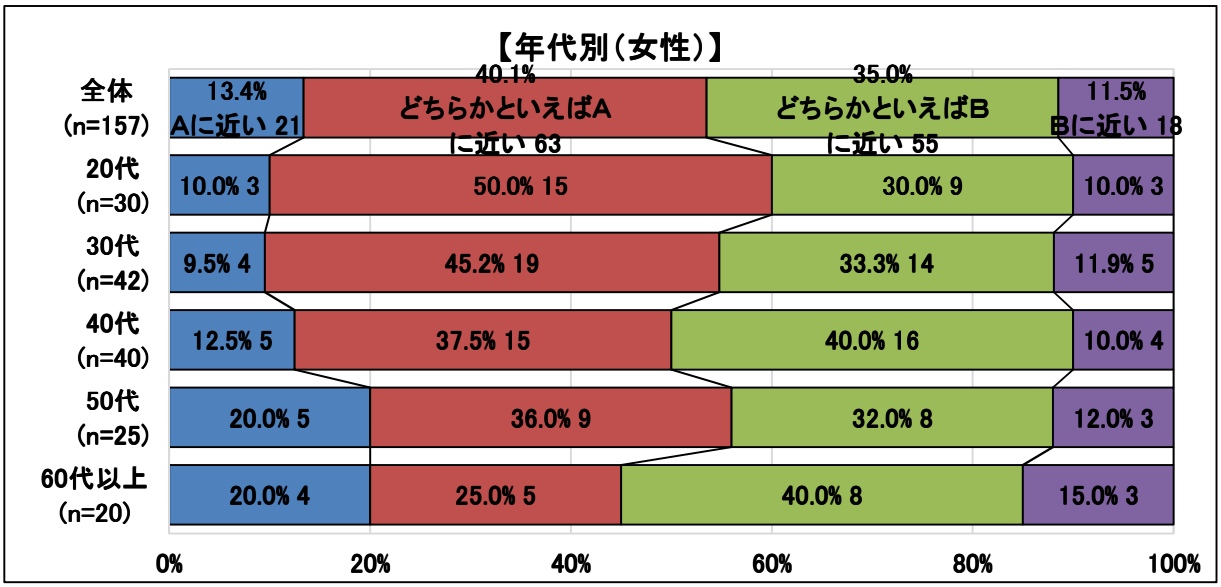
(2)　男性

男女を合わせた全体の傾向と同じく、公民連携の推進に賛成している人の割合は、50 代が最も高く 70.8%となっています。また、「Ａに近い」と回答した人の割合は、30 代及び 50 代で約 30%と高くなっています。



(3)　女性

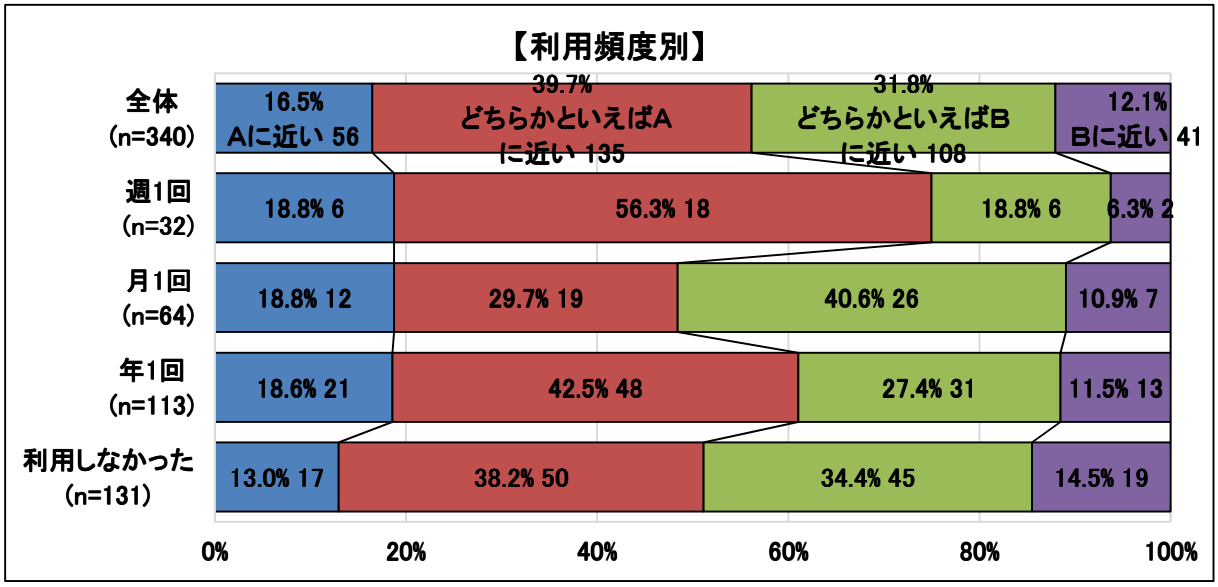
「Ａに近い」と回答した人の割合は、50 代及び 60 代以上が 20.0%と高くなっていますが、「どちらかといえばＡに近い」と回答した人も含めた、公民連携の推進に賛成している人の割合では、20 代が 60.0%と最も高く、男性とは異なる傾向であることが伺えます。



５－３　公共施設利用頻度別の比較

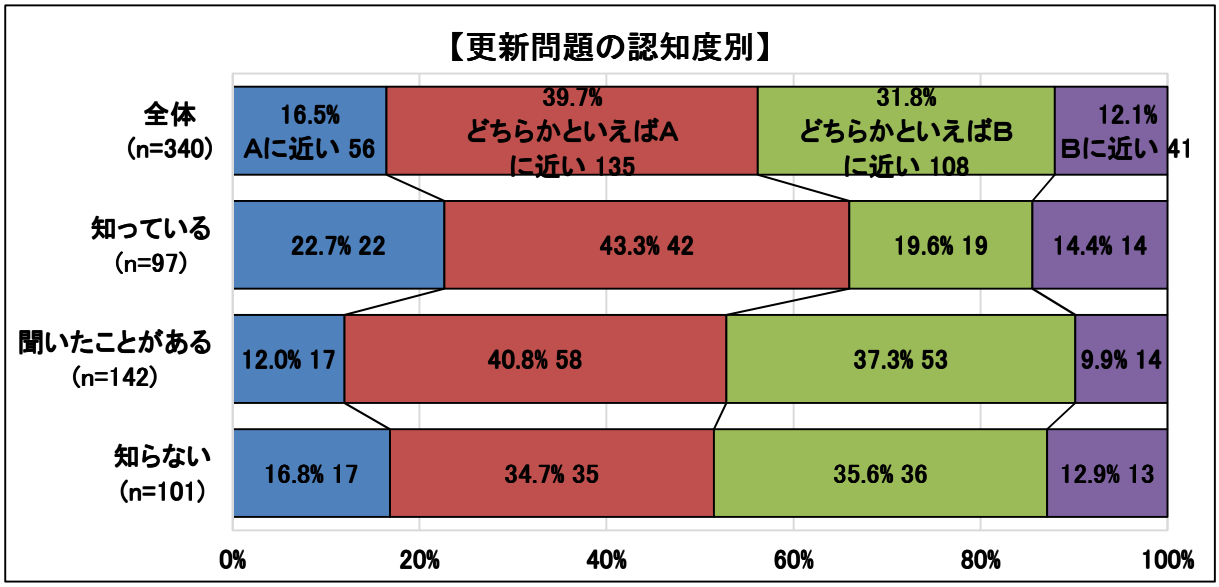
「Ａに近い」と回答した人の割合は、「利用しなかった」人だけが 13.0%と低く、それ以外の区分では約 19%となっています。

「どちらかといえばＡに近い」と回答した人を含めた、公民連携の推進に賛成している人の割合は、「週 1 回以上利用した」人が 75.1%と最も高くなっています。公共施設を頻繁に利用する人ほど、公民連携による施設運営であっても、「いつもの施設を継続して使いたい」という気持ちが強く、このことが高い割合となって表れていると考えられます。



５－４　公共施設更新問題認知度別の比較

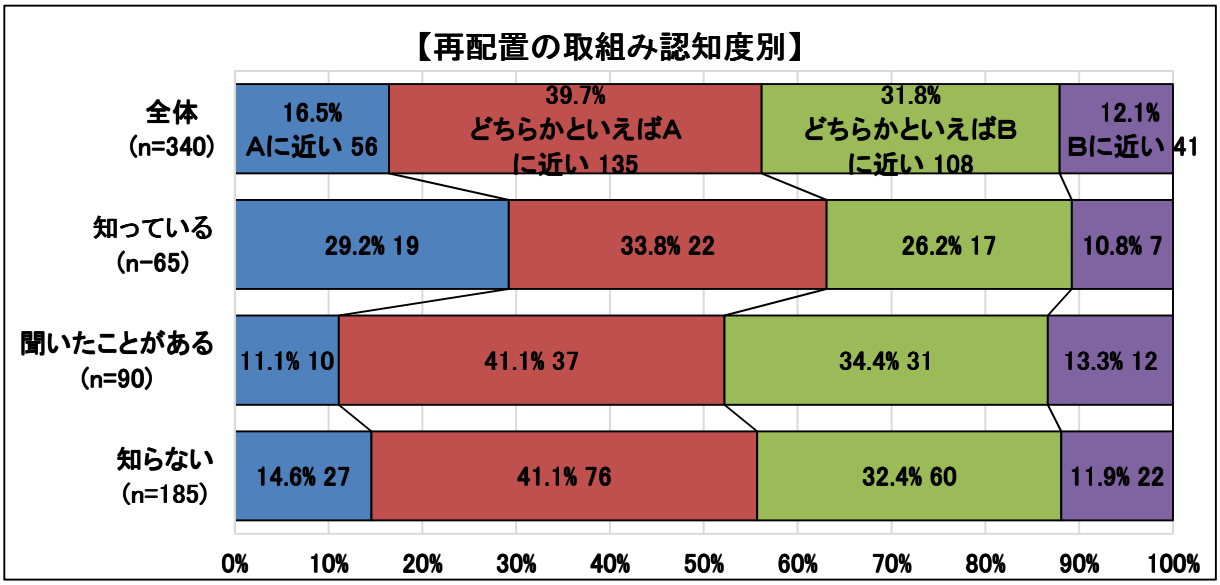
公共施設更新問題を「知っている」人では、「Ａに近い」及び「どちらかといえばＡに近い」と回答した人の割合は合わせて 66.0%で、公共施設更新問題の認知度と公民連携の推進に賛成している人の割合には、一定の関係性が見られます。しかし、公共施設更新問題を「聞いたことがある」人と「知らない」人の間には明確な差は見られませんでした。



５－５　公共施設再配置の取組み認知度別の比較

「Ａに近い」及び「どちらかといえばＡに近い」と回答した、公民連携の推進に賛成している人の割合は、公共施設再配置の取組みを「知っている」人が 63.0%と最も高くなっていますが、「知らない」人が「聞いたことがある」人を 3.5 ポイント上回っています。

公共施設再配置の取組みを「知っている」人は、再配置の内容を理解したうえで、また、「知らない」人は一般論的な立場から、公民連携の推進に賛成していると考えられます。



問６　秦野市では、将来にわたって公共施設を適正に維持していくため、15%程度だった施設の管理運営費（コスト）に対する利用者負担割合の適正化を目指し、平成29年10月に使用料の見直しを行いました。しかし、今回の見直しでは従前の使用料等の 2 倍を引き上げの限度としたため、目標とする１／３の負担割合に達していない施設もあります。今後も秦野市では、使用料見直しの効果を定期的に確認することにしており、その結果によっては再度の見直しを行うことも考えられます。次の２つの考えのうち、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

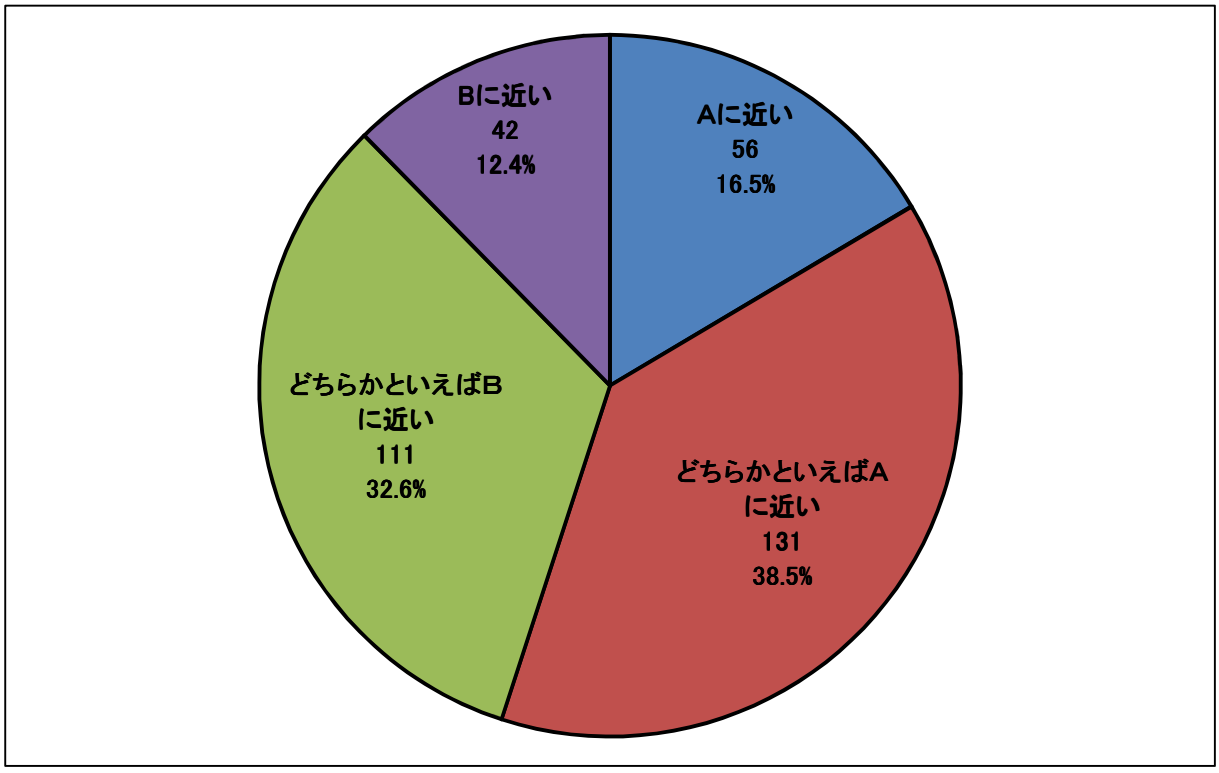
A	公共施設を適正に維持・管理していくためには、利用者が応分の負担をすべきであり、今後も実態に応じて使用料の見直しを行うべきである。
B	公共施設の適正維持も大切だが、昨年度の見直しにより多くの施設で使用料が引き上げられ、利用しにくくなった人もいるため、これ以上の見直しは行うべきではない。

①　Ａの考えに近い。　②　どちらかといえば、Ａの考えに近い。
③　どちらかといえば、Ｂの考えに近い。　④　Ｂの考えに近い。

６－１　調査結果

本市では、公共施設の利用者負担の見直しを行い、平成29(2017)年10月から新料金体系に移行していますが、今後の利用者負担のあり方の参考とするために今回の調査で新設した質問です。

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Ａに近い」又は「どちらかといえばＡに近い」と回答した人の割合は、合わせて55.0%で、再度の見直しに反対となる、「Ｂに近い」又は「どちらかといえばＢに近い」と回答をした人の割合を10.0ポイント上回っています。

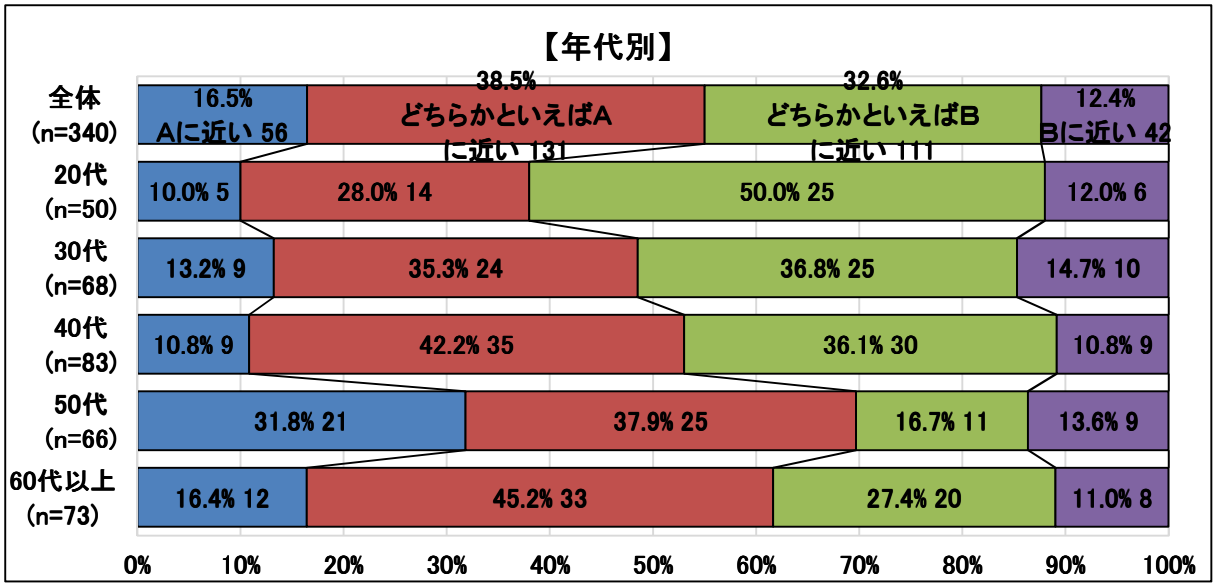


６－２　年代別及び性別の比較

(1)　年代別

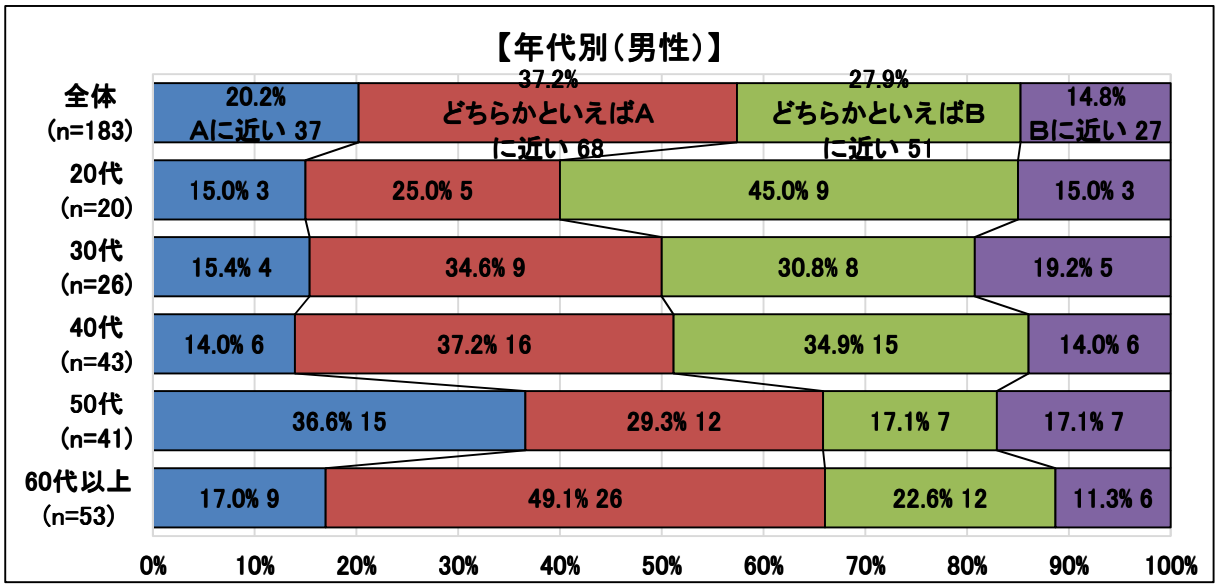
「Ａに近い」と回答した人の割合は、50 代が 31.8%と最も高く、その他の世代では全体の割合よりも低くなっています。「どちらかといえばＡに近い」と回答した人も含めた、実態に応じた使用料の見直しに賛成と回答した人は、50 代が 69.7%と最も高く、次いで 60 代以上が 61.6%となっています。

実態に応じた使用料の見直しに関して、年齢が高い世代では賛成の割合が多く、若い世代では反対の割合が多い傾向となっています。



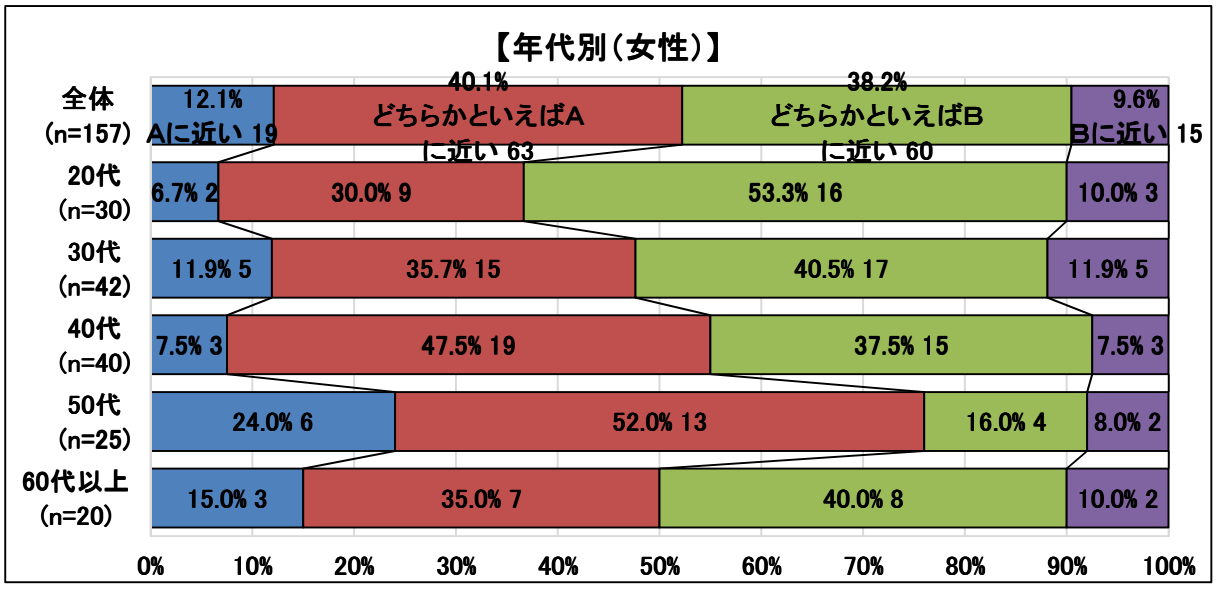
(2)　男性

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Ａに近い」又は「どちらかといえばＡに近い」と回答した人の割合は、50 代及び 60 代以上が約 66%と高くなっています。特に、50 代では「Ａに近い」と回答した人の割合が、その他の世代の倍以上の 36.6%と非常に高くなっています。



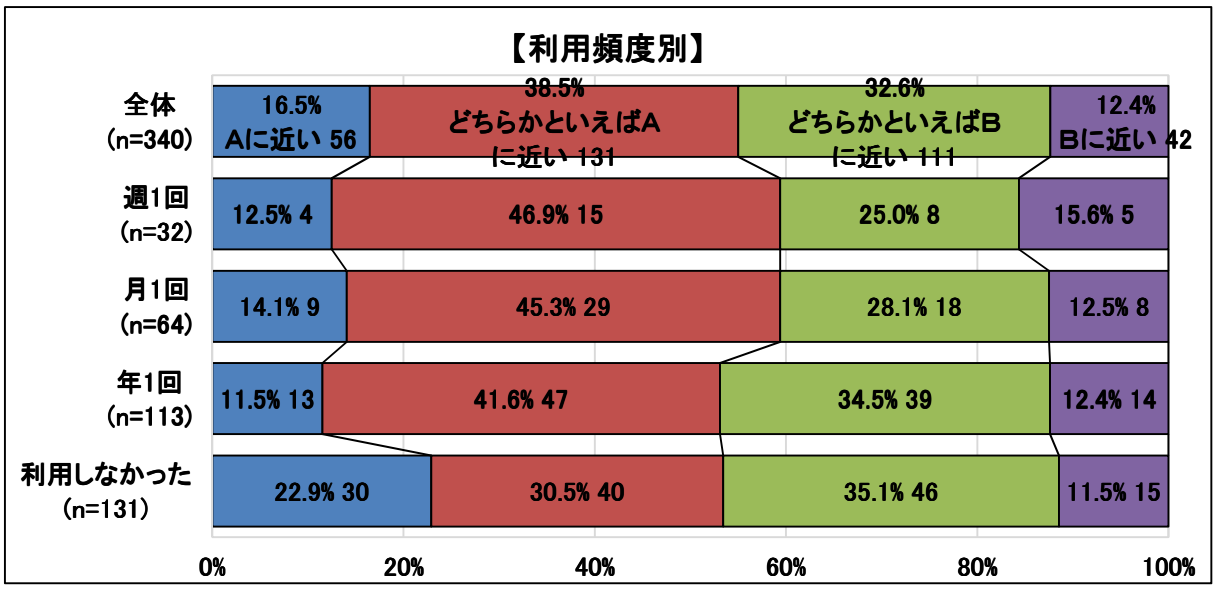
(3)　女性

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Ａに近い」又は「どちらかといえばＡに近い」と回答した人の割合は、男性と比較して 60 代以上は 16.1 ポイント低い 50.0%となっていますが、50 代では 0.1 ポイントではありますが男性を上回る 66.0%となっています。また、40 代では男性より高くなっていますが、20 代と 30 代では低くなるなど、一定の傾向は見られず、50 代が突出して高い割合となった理由も不明です。



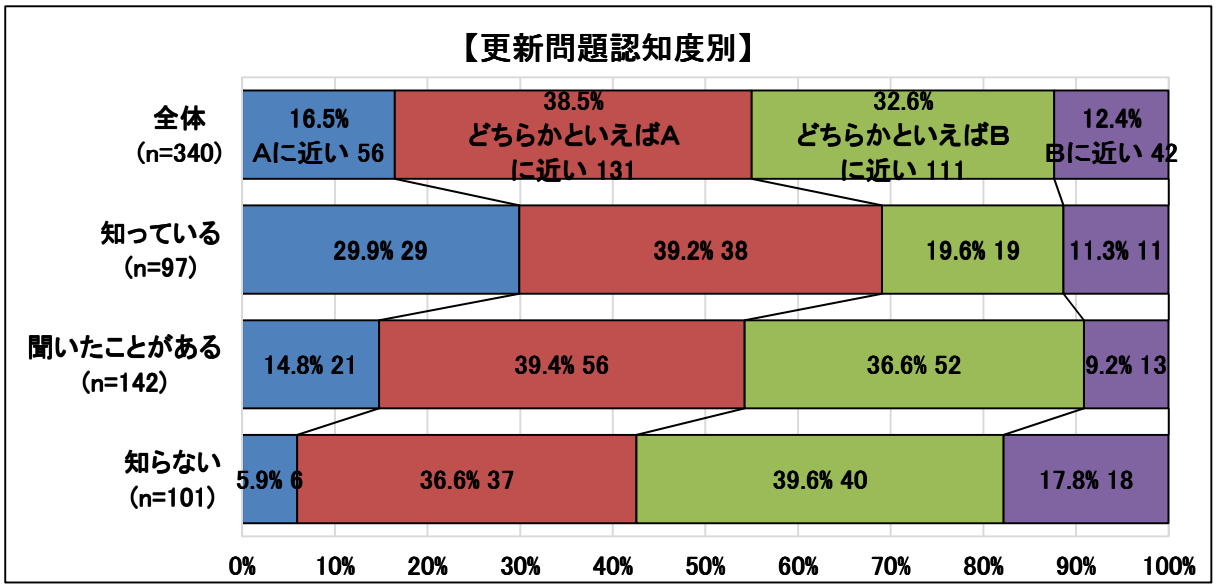
６－３　公共施設の利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度別で見ると、「週に 1 回以上利用した」人と「月に１回以上利用した」人を合わせた定期的利用者では、実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Ａに近い」又は「どちらかといえばＡに近い」と回答した人の割合はともに 59.4%と高い割合となりました。定期的利用者の方が、そうでない人よりも実態に応じた使用料の見直しに理解を示していることが伺えます。



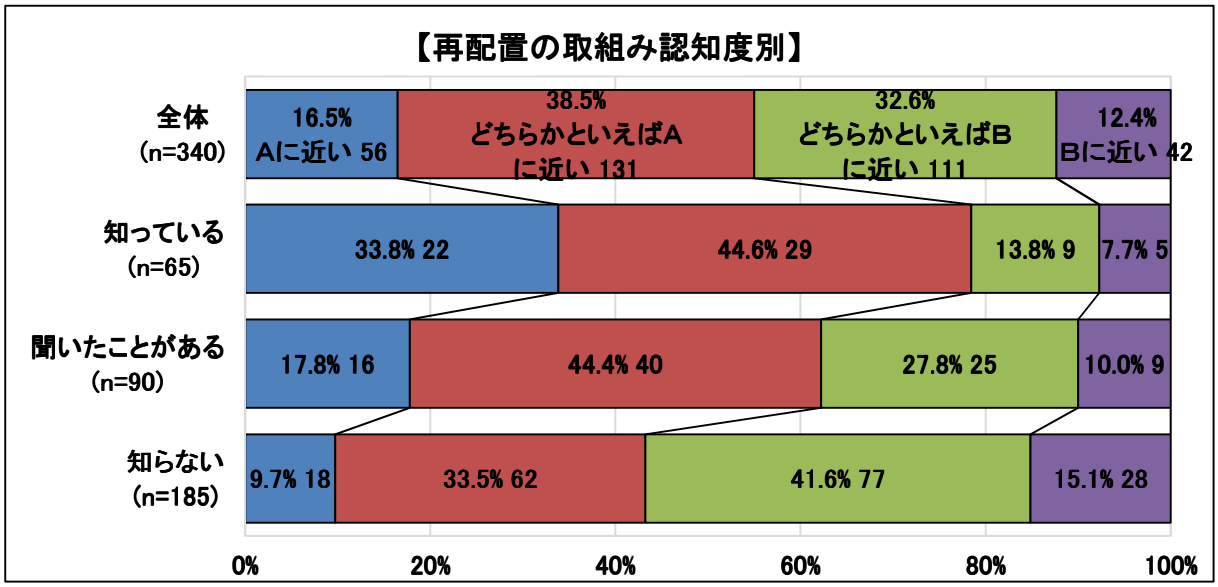
６－４　公共施設更新問題認知度別の比較

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Ａに近い」又は「どちらかといえばＡに近い」と回答した人の割合は、公共施設更新問題を「知っている」人が、69.1%と最も高くなりました。公共施設更新問題の認知度と使用料の見直しに対する考え方には関連性があることが伺えます。



６－５　公共施設再配置の取組み認知度別の比較

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Ａに近い」又は「どちらかといえばＡに近い」と回答した人の割合は、公共施設再配置の取組みを「知っている」人が、78.4%と最も高くなりました。６－４と同様に、公共施設更再配置の取組み認知度と使用料の見直しに対する考え方には関連性があることが伺えます。



問７　不特定の市民が利用できる公共施設のうち、あなたが将来にわたり、優先的に維持するべきと考える公共施設を５つまで選び、優先順位を付けてください。

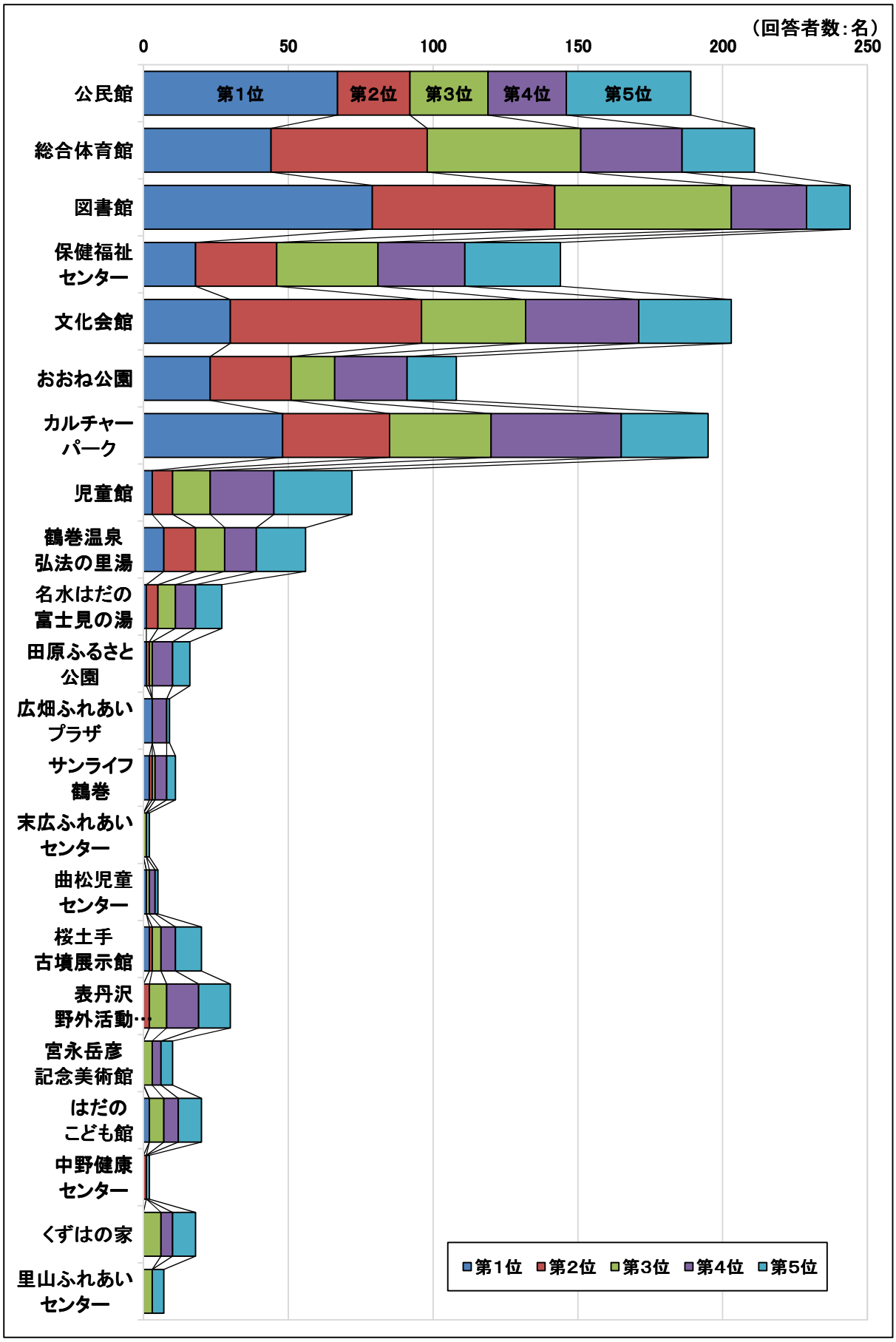
①　各地区の公民館	②　総合体育館	③　図書館
④　保健福祉センター	⑤　文化会館	⑥　おおね公園
⑦　カルチャーパーク（中央運動公園）	⑧　各地区の児童館	⑨　鶴巻温泉弘法の里湯
⑩　名水はだの富士見の湯	⑪　田原ふるさと公園	⑫　広畑ふれあいプラザ
⑬　サンライフ鶴巻	⑭　末広ふれあいセンター	⑮　曲松児童センター
⑯　桜土手古墳展示館	⑰　表丹沢野外活動センター	⑱　宮永岳彦記念美術館
⑲　はだのこども館	⑳　中野健康センター	㉑　くずはの家
㉒　里山ふれあいセンター	㉓　この中にはない	

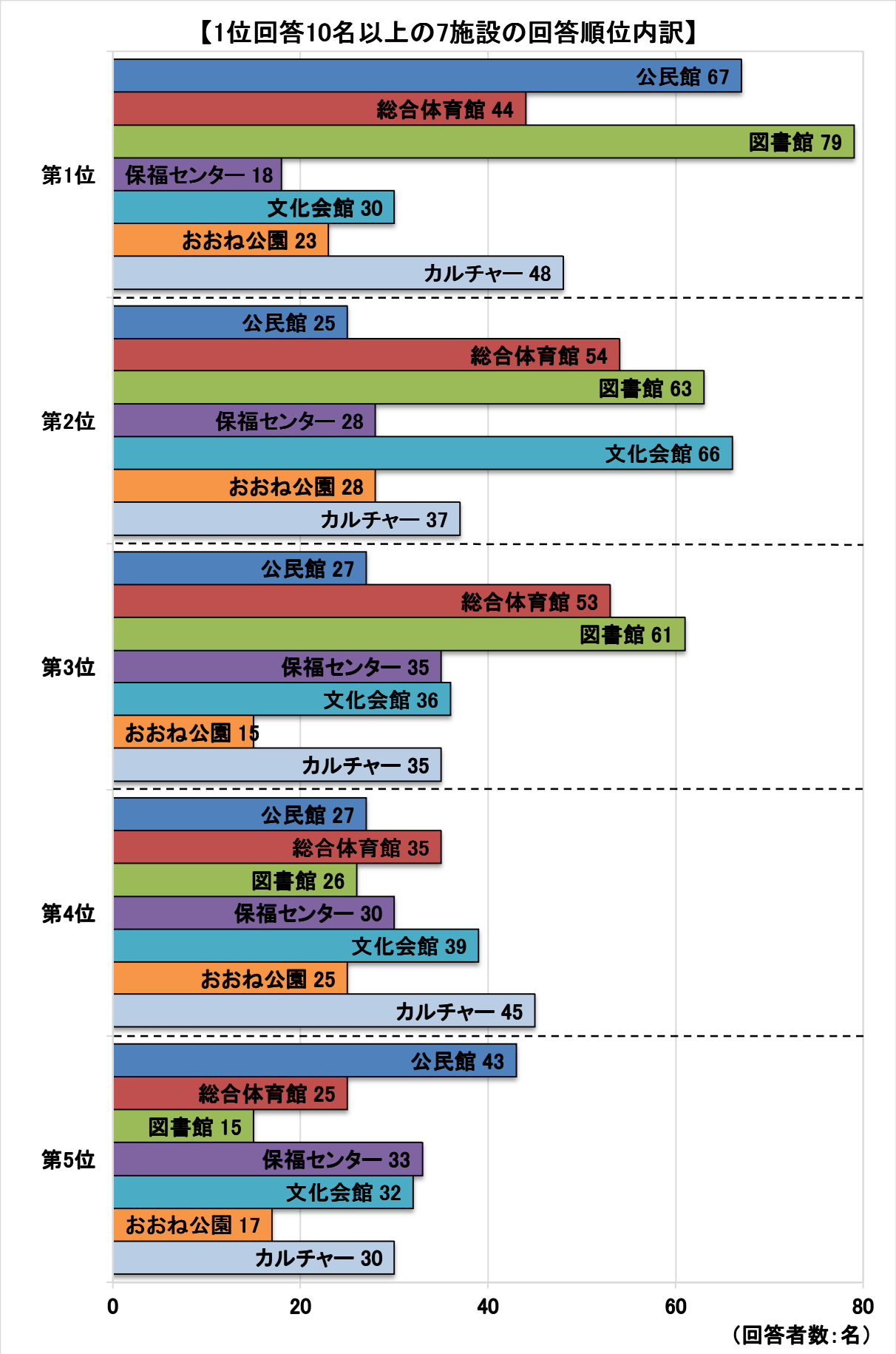
７－１　調査結果

第１位と回答された割合が最も高かった施設は、過去の調査結果と同じく「図書館」となりました。以下、「各地区の公民館」、「カルチャーパーク（中央運動公園）」、「総合体育館」、「文化会館」となっています。

また、第 1 位と回答した人が 10 名以上となった施設は、「各地区の公民館」、「総合体育館」、「図書館」、「保健福祉センター」、「文化会館」、「おおね公園」及び「カルチャーパーク（中央運動公園）」の７施設となっています。

順位 / 施設名		第１位		第２位		第３位		第４位		第５位	
		回答	%	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%
1	各地区の公民館	67	19.7%	25	7.4%	27	7.9%	27	7.9%	43	12.6%
2	総合体育館	44	12.9%	54	15.9%	53	15.6%	35	10.3%	25	7.4%
3	図書館	79	23.2%	63	18.5%	61	17.9%	26	7.6%	15	4.4%
4	保健福祉センター	18	5.3%	28	8.2%	35	10.3%	30	8.8%	33	9.7%
5	文化会館	30	8.8%	66	19.4%	36	10.6%	39	11.5%	32	9.4%
6	おおね公園	23	6.8%	28	8.2%	15	4.4%	25	7.4%	17	5.0%
7	カルチャーパーク(中央運動公園)	48	14.1%	37	10.9%	35	10.3%	45	13.2%	30	8.8%
8	各地区の児童館	3	0.9%	7	2.1%	13	3.8%	22	6.5%	27	7.9%
9	鶴巻温泉弘法の里湯	7	2.1%	11	3.2%	10	2.9%	11	3.2%	17	5.0%
10	名水はだの富士見の湯	1	0.3%	4	1.2%	6	1.8%	7	2.1%	9	2.6%
11	田原ふるさと公園	1	0.3%	1	0.3%	1	0.3%	7	2.1%	6	1.8%
12	広畑ふれあいプラザ	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	5	1.5%	1	0.3%
13	サンライフ鶴巻	2	0.6%	1	0.3%	1	0.3%	4	1.2%	3	0.9%
14	末広ふれあいセンター	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%
15	曲松児童センター	1	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.6%	1	0.3%
16	桜土手古墳展示館	2	0.6%	1	0.3%	3	0.9%	5	1.5%	9	2.6%
17	表丹沢野外活動センター	0	0.0%	2	0.6%	6	1.8%	11	3.2%	11	3.2%
18	宮永岳彦記念美術館	0	0.0%	0	0.0%	3	0.9%	3	0.9%	4	1.2%
19	はだのこども館	2	0.6%	0	0.0%	5	1.5%	5	1.5%	8	2.4%
20	中野健康センター	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%
21	くずはの家	0	0.0%	0	0.0%	6	1.8%	4	1.2%	8	2.4%
22	里山ふれあいセンター	0	0.0%	0	0.0%	3	0.9%	0	0.0%	4	1.2%
23	この中にはない	9	2.6%	11	3.2%	19	5.6%	27	7.9%	35	10.3%


（回答者数：名）
0
50
100
150
200
250
公民館
総合体育館
図書館
保健福祉センター
文化会館
おおね公園
カルチャーパーク
児童館
鶴巻温泉弘法の里湯
名水はだの富士見の湯
田原ふるさと公園
広畑ふれあいプラザ
サンライフ鶴巻
末広ふれあいセンター
曲松児童センター
桜土手古墳展示館
表丹沢野外活動…
宮永岳彦記念美術館
はだのこども館
中野健康センター
くずはの家
里山ふれあいセンター
第1位
第2位
第3位
第4位
第5位


【1位回答10名以上の7施設の回答順位内訳】
第1位
公民館 67
総合体育館 44
図書館 79
保福センター 18
文化会館 30
おおね公園 23
カルチャー 48
第2位
公民館 25
総合体育館 54
図書館 63
保福センター 28
文化会館 66
おおね公園 28
カルチャー 37
第3位
公民館 27
総合体育館 53
図書館 61
保福センター 35
文化会館 36
おおね公園 15
カルチャー 35
第4位
公民館 27
総合体育館 35
図書館 26
保福センター 30
文化会館 39
おおね公園 25
カルチャー 45
第5位
公民館 43
総合体育館 25
図書館 15
保福センター 33
文化会館 32
おおね公園 17
カルチャー 30
0
20
40
60
80
（回答者数：名）

７－２　得点化による順位付け

次の算式により回答を得点化して集計したところ、優先的に維持すべきと考える施設の第 1 位は「図書館」、第 2 位は「総合体育館」、第 3 位は「文化会館」となりました。

【算式】
各施設の得点＝第 1 位回答数×5 点+第 2 位回答数×4 点…第 5 位回答数×1 点

「第 1 位」と回答した人が 10 名以上となった 7 施設が、得点化の集計においても上位を占める結果となっています。

順位・変動		施設名	得点
1	←	図書館(1)	897
2	←	総合体育館(4)	690
3	←	文化会館(5)	632
4	←	各地区の公民館(2)	613
5	←	カルチャーパーク（中央運動公園）(3)	613
6	←	保健福祉センター(7)	400
7	←	おおね公園(6)	339
8	↑	各地区の児童館	153
9	↓	鶴巻温泉弘法の里湯	148
10	↑	名水はだの富士見の湯	62
11	↓	表丹沢野外活動センター	59
12	←	はだのこども館	43
13	↓	桜土手古墳展示館	42
14	←	くずはの家	34
15	↓	田原ふるさと公園	32
16	↓	サンライフ鶴巻	28
17	↓	広畑ふれあいプラザ	26
18	↑	宮永岳彦記念美術館	19
19	↓	曲松児童センター	13
20	↓	里山ふれあいセンター	13
21	↓	中野健康センター	5
22	↓	末広ふれあいセンター	4

【凡　例】
←：前回と順位が同じもの
↑：前回より順位が上がったもの
↓：前回より順位が下がったもの
(数字)：第 1 位回答が 10 名以上だった施設とその順位

【集計結果内訳】

施設名	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	得点	順位
各地区の公民館	67	25	27	27	43	613	4
総合体育館	44	54	53	35	25	690	2
図書館	79	63	61	26	15	897	1
保健福祉センター	18	28	35	30	33	400	6
文化会館	30	66	36	39	32	632	3
おおね公園	23	28	15	25	17	339	7
カルチャーパーク（中央運動公園）	48	37	35	45	30	613	5
各地区の児童館	3	7	13	22	27	153	8
鶴巻温泉弘法の里湯	7	11	10	11	17	148	9
名水はだの富士見の湯	1	4	6	7	9	62	10
田原ふるさと公園	1	1	1	7	6	32	15
広畑ふれあいプラザ	3	0	0	5	1	26	17
サンライフ鶴巻	2	1	1	4	3	28	16
末広ふれあいセンター	0	0	1	0	1	4	22
曲松児童センター	1	0	1	2	1	13	19
桜土手古墳展示館	2	1	3	5	9	42	13
表丹沢野外活動センター	0	2	6	11	11	59	11
宮永岳彦記念美術館	0	0	3	3	4	19	18
はだのこども館	2	0	5	5	8	43	12
中野健康センター	0	1	0	0	1	5	21
くずはの家	0	0	6	4	8	34	14
里山ふれあいセンター	0	0	3	0	4	13	20
この中にはない	9	11	19	27	35	—	—

７－３　過去の調査(Web 調査)との比較

「図書館」は、これまでの 5 回の調査全てで第 1 位となっています。上位を占める 7 つの施設は、その順位に多少の変動はあるものの、構成はずっと同じです。

第 8 位以下の施設については、新設の「名水はだの富士見の湯」が第 10 位となったことで、それより下位では順位を下げている施設が多く見られますが、大きな変動は見られませんでした。

順位		施設名	得点	前回調査		H26調査		H24調査		H21調査
1	←	図書館	897	1	←	1	←	1	←	1
2	←	総合体育館	690	2	←	2	←	2	↑	4
3	←	文化会館	632	3	↑	5	↓	3	←	3
4	←	各地区の公民館	613	4	↓	3	↑	4	↑	5
5	←	カルチャーパーク（中央運動公園）	613	5	↓	4	↑	5	↓	2
6	←	保健福祉センター	400	6	←	6	←	6	↑	7
7	←	おおね公園	339	7	←	7	←	7	↓	6
8	↑	各地区の児童館	153	9	←	9	←	9	←	9
9	↓	鶴巻温泉弘法の里湯	148	8	←	8	←	8	←	8
10	↑	名水はだの富士見の湯	62	－	－	－	－	－	－	－
11	↓	表丹沢野外活動センター	59	10	←	10	←	10	↑	11
12	←	はだのこども館	43	12	↓	11	↑	14	↑	20
13	↓	桜土手古墳展示館	42	11	↑	15	↓	11	↓	10
14	←	くずはの家	34	14	↑	16	↓	13	←	13
15	↓	田原ふるさと公園	32	12	←	12	↑	17	↓	12
16	↓	サンライフ鶴巻	28	15	↓	13	↑	15	↓	14
17	↓	広畑ふれあいプラザ	26	16	↓	14	↓	12	↑	15
18	↑	宮永岳彦記念美術館	19	20	↑	21	↓	20	↓	17
19	↓	曲松児童センター	13	17	←	17	↑	21	↓	20
20	↓	里山ふれあいセンター	13	18	↑	19	↓	16	↑	19
21	↓	中野健康センター	5	19	↓	18	←	18	←	18
22	↓	末広ふれあいセンター	4	21	↓	20	↑	22	←	22

【凡例】

←：前回と順位が同じもの

↑：前回より順位が上がったもの

↓：前回より順位が下がったもの

７－４　性別及び年代別の比較

「図書館」は、20 代女性と 60 代以上の男女以外で第 1 位となっています。「総合体育館」は、若い世代の支持が高い傾向がありますが、同じスポーツ施設である「おおね公園」は 30 代以下の男性と 50 代以上の女性の支持が高くなっているほか、「カルチャーパーク（中央運動公園）」は、30 代以下の女性の支持が高くなっています。「文化会館」は男女ともに年齢の上昇に合わせて支持が高くなる傾向があり、「公民館」は男性より女性の支持が高い傾向があります。「保健福祉センター」には、性別及び年代別による傾向は見られません。

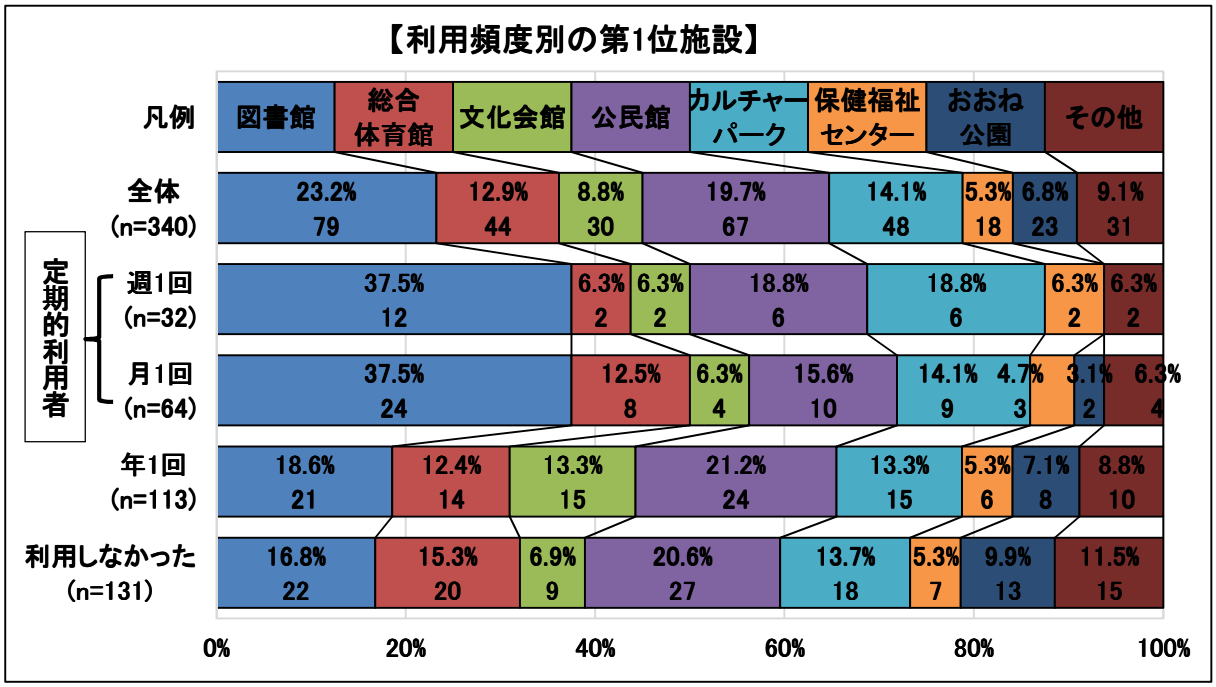
年代＼性別		男性		女性		合計	
		施設名	得点	施設名	得点	施設名	得点
20 代	1	図書館	55	総合体育館	83	図書館	128
	2	総合体育館	34	図書館	73	総合体育館	117
	3	おおね公園	32	カルチャーパーク(中央運動公園)	56	カルチャーパーク(中央運動公園)	77
	4	公民館	29	公民館	42	公民館	71
	5	文化会館	23	保健福祉センター	37	おおね公園	55
	6	カルチャーパーク(中央運動公園)	21	文化会館	29	文化会館	52
30 代	1	図書館	87	図書館	109	図書館	196
	2	総合体育館	68	カルチャーパーク(中央運動公園)	100	カルチャーパーク(中央運動公園)	163
	3	カルチャーパーク(中央運動公園)	63	公民館	82	総合体育館	147
	4	文化会館	39	総合体育館	79	公民館	108
	5	おおね公園	38	文化会館	59	文化会館	98
	6	保健福祉センター	31	保健福祉センター	56	保健福祉センター	87
40 代	1	図書館	112	図書館	116	図書館	228
	2	公民館	93	総合体育館	91	総合体育館	164
	3	カルチャーパーク(中央運動公園)	92	文化会館	85	文化会館	163
	4	文化会館	78	カルチャーパーク(中央運動公園)	71	カルチャーパーク(中央運動公園)	163
	5	総合体育館	73	公民館	69	公民館	162
	6	保健福祉センター	54	保健福祉センター	48	保健福祉センター	102
50 代	1	図書館	96	図書館	73	図書館	169
	2	文化会館	75	文化会館	67	文化会館	142
	3	総合体育館	72	公民館	62	総合体育館	134
	4	カルチャーパーク(中央運動公園)	68	総合体育館	62	公民館	126
	5	公民館	64	おおね公園	30	カルチャーパーク(中央運動公園)	88
	6	保健福祉センター	36	カルチャーパーク(中央運動公園)	20	おおね公園	62
60 代以上	1	文化会館	133	公民館	46	文化会館	177
	2	図書館	132	図書館	44	図書館	176
	3	総合体育館	101	保健福祉センター	44	公民館	146
	4	公民館	100	文化会館	44	総合体育館	128
	5	カルチャーパーク(中央運動公園)	100	おおね公園	37	カルチャーパーク(中央運動公園)	122
	6	保健福祉センター	64	総合体育館	27	保健福祉センター	108
合計	1	図書館	482	図書館	415	図書館	897
	2	総合体育館	348	総合体育館	342	総合体育館	690
	3	文化会館	348	公民館	301	文化会館	632
	4	カルチャーパーク(中央運動公園)	344	文化会館	284	公民館	613
	5	公民館	312	カルチャーパーク(中央運動公園)	269	カルチャーパーク(中央運動公園)	613
	6	保健福祉センター	198	保健福祉センター	202	保健福祉センター	400

７－５　公共施設の利用頻度との関係

得点化した場合の上位 7 施設(図書館、総合体育館、文化会館、公民館、カルチャーパーク(中央運動公園)、保健福祉センター、おおね公園)について、公共施設の利用頻度別に「優先的に維持すべき施設」の第１位の施設を集計しました。

利用頻度が高い人ほど、実際の利用者数も多い上位 7 施設のいずれかを第 1 位と回答する人が多く、定期的利用者では 93.7%となっています。このことから、自身が日ごろ利用している施設を第１位とする傾向が伺えます。

また、「利用しなかった」と回答した人でも、上位 7 施設が第 1 位に占める割合は 88.5%と非常に高く、全体でも 90.9%となっていることから、市民が優先的に維持したいと考える施設は、この上位７施設のいずれかであることが分かります。

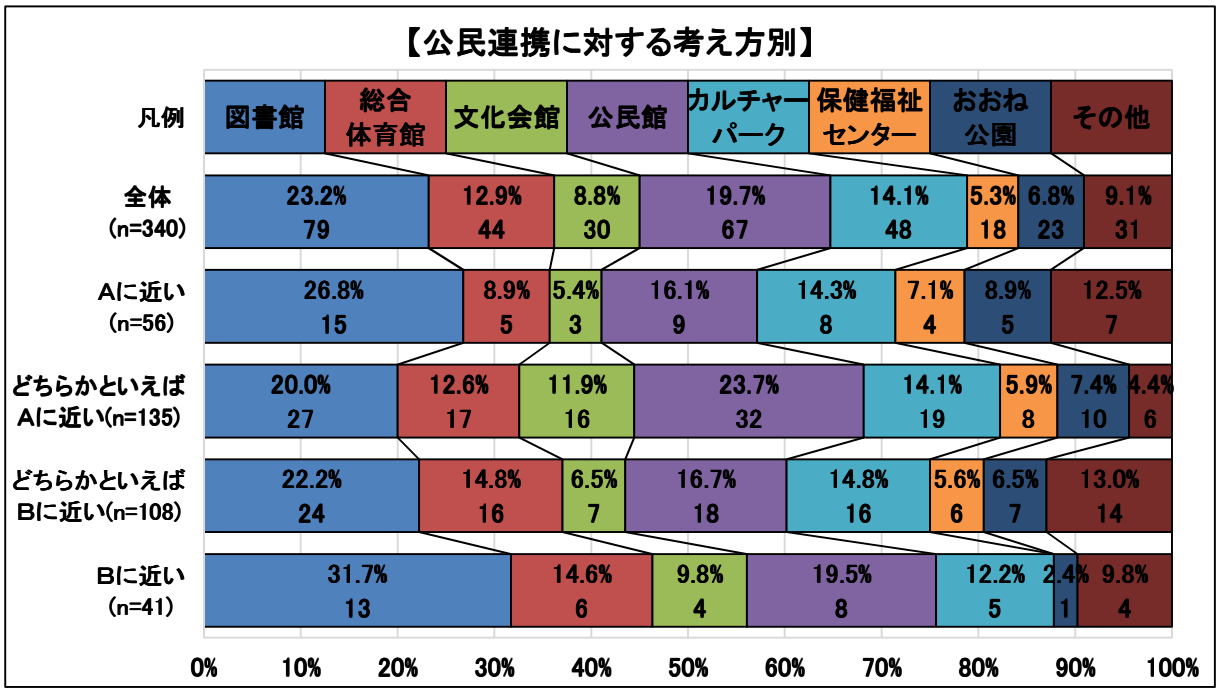


７－６　公民連携の推進に対する考え方との関係

得点化した場合の上位 7 施設(図書館、総合体育館、文化会館、公民館、カルチャーパーク(中央運動公園)、保健福祉センター、おおね公園)について、公民連携の推進に対する考え方別に「優先的に維持すべき施設」の第 1 位の施設を集計しました。

上位 7 施設の割合では、公民連携の推進に賛成となる「Ａに近い」及び「どちらかといえばＡに近い」と回答した人では、反対となる「どちらかといえばＢに近い」及び「Ｂに近い」と回答した人よりも、「保健福祉センター」及び「おおね公園」の割合が高く、「総合体育館」の割合が低い傾向が見られます。

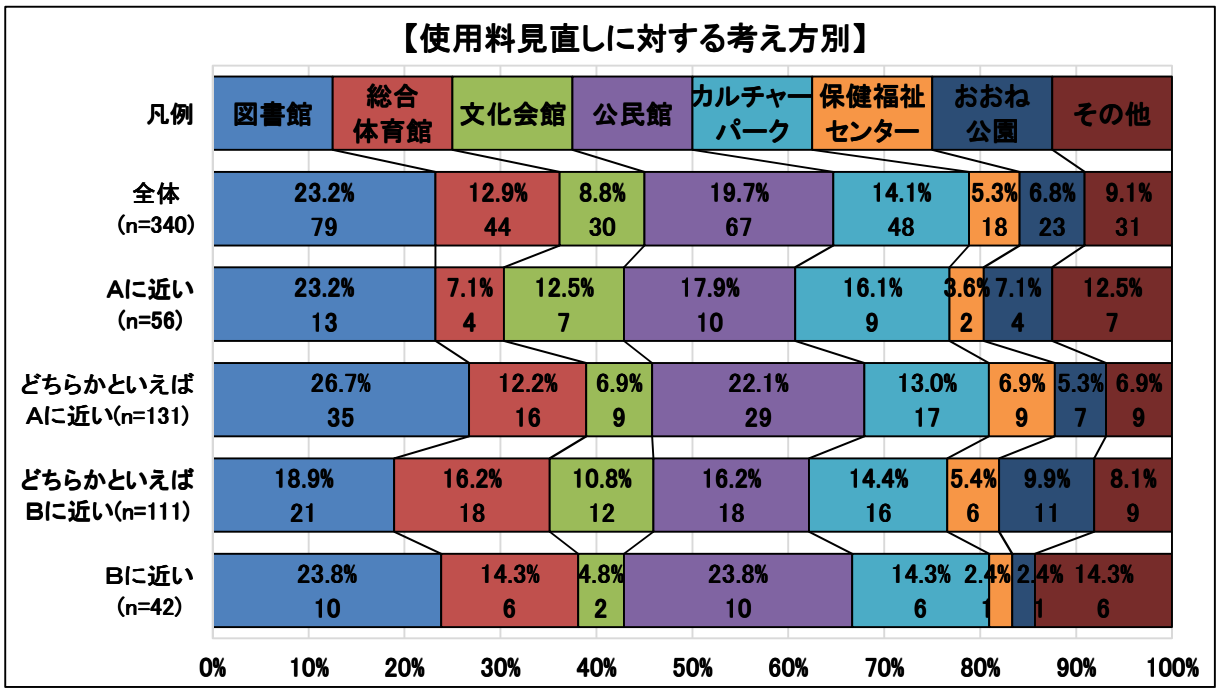
また、上位 7 施設以外の「その他の施設」を第 1 位と回答した人の割合は、公民連携の推進に反対している人では、賛成の人よりも 5.9 ポイント高い 22.8%となっており、反対している人は、比較的小規模な施設を優先的に維持したい、と考えている傾向が伺えます。



７－７　使用料見直しに対する考え方との関係

得点化した場合の上位 7 施設(図書館、総合体育館、文化会館、公民館、カルチャーパーク(中央運動公園)、保健福祉センター、おおね公園)について、使用料見直しに対する考え方別に、「優先的に維持すべき施設」の第 1 位の施設を集計しました。

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる「Ａに近い」及び「どちらかといえばＡに近い」と回答した人では、「図書館」及び「文化会館」の割合が高く、反対の人では「総合体育館」の割合が高い傾向が見られます。また、「公民館」及び「カルチャーパーク」は、賛成の人と反対の人でほぼ同じ割合となっています。



問８　秦野市では、平成２３年（２０１１年）から平成３２年（２０２０年）までの１０年間を「公共施設再配置計画第１期基本計画」の期間として、「公共施設の再配置」を進めています。この計画の基本方針として、「義務教育、子育て支援、行政事務スペース」はその機能の維持を最優先することとし、最優先の機能に次ぐ「優先的に維持していく機能」は、市民ニーズ等を踏まえたうえで順位付けを行う予定です。不特定の市民が利用できる公共施設の機能のうち、あなたが将来的に廃止又は縮小しても良いと考える施設の機能を３つまで選び、廃止又は縮小しても良いと考える順に順位をつけてください。

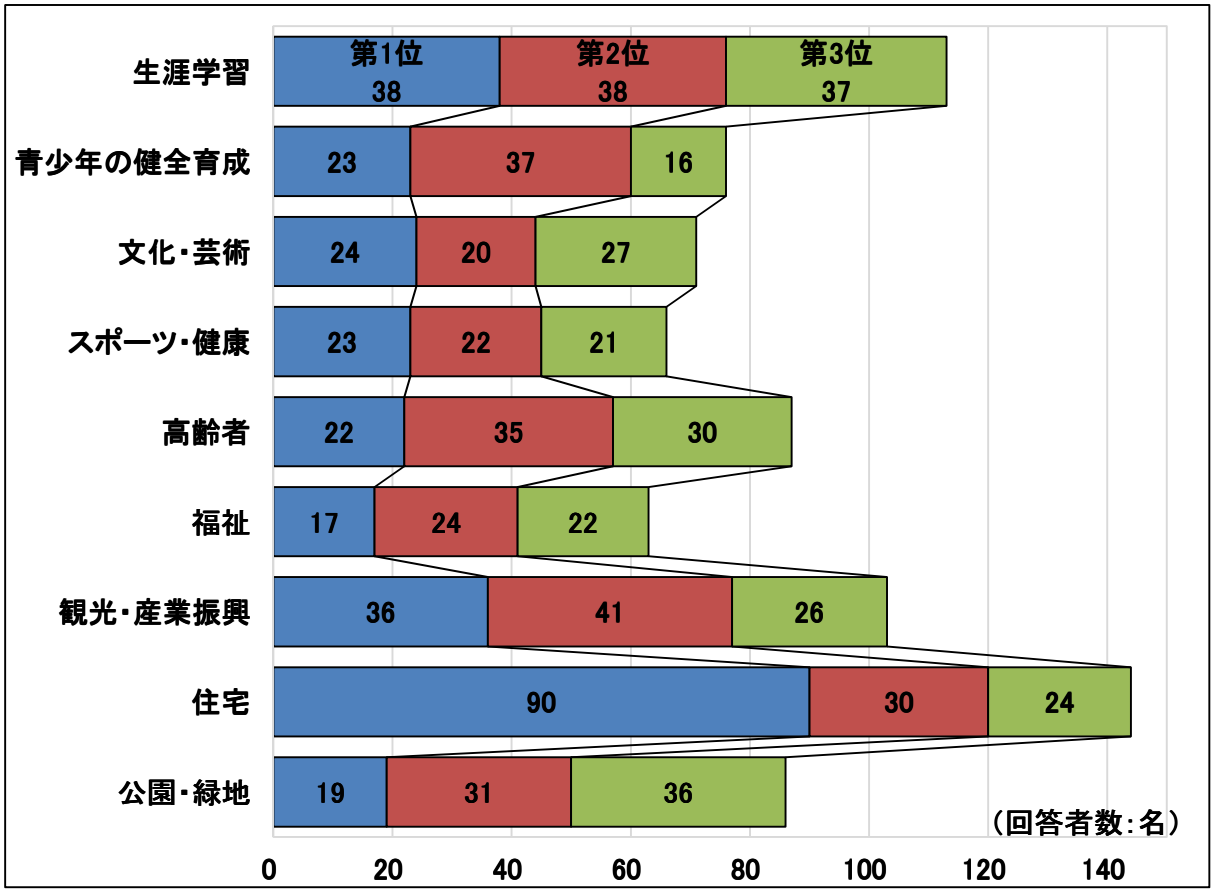
①　生涯学習に関する機能（公民館）
②　青少年の健全育成に関する機能（児童館、こども館、表丹沢野外活動センターなど）
③　文化芸術に関する機能（文化会館、図書館など）
④　スポーツ・健康に関する機能（総合体育館、カルチャーパーク、おおね公園など）
⑤　高齢者に関する機能（広畑ふれあいプラザ、末広ふれあいセンター、老人いこいの家）
⑥　福祉に関する機能（保健福祉センター）
⑦　観光・産業振興に関する機能（温泉・入浴施設、田原ふるさと公園、里山ふれあいセンター、駐車場）
⑧　住宅に関する機能（公営住宅）
⑨　公園・緑地に関する機能（公園・緑地、くずはの家など）
⑩　この中にはない

８－１　調査結果

平成 33(2021)年を始期とする「公共施設再配置計画第２期基本計画」策定の参考とするために新設した質問です。

第 1 位と回答された割合が最も高かった機能は、「住宅に関する機能」で 26.5%となっています。「この中にはない」を除くと、「生涯学習に関する機能」が 11.2%、「観光・産業に関する機能」が 10.6%と続いています。

順位 / 機能		第 1 位		第 2 位		第 3 位	
		回答	%	回答	%	回答	%
1	生涯学習に関する機能	38	11.2%	38	11.2%	37	10.9%
2	青少年の健全育成に関する機能	23	6.8%	37	10.9%	16	4.7%
3	文化芸術に関する機能	24	7.1%	20	5.9%	27	7.9%
4	スポーツ･健康に関する機能	23	6.8%	22	6.5%	21	6.2%
5	高齢者に関する機能	22	6.5%	35	10.3%	30	8.8%
6	福祉に関する機能	17	5.0%	24	7.1%	22	6.5%
7	観光･産業振興に関する機能	36	10.6%	41	12.1%	26	7.6%
8	住宅に関する機能	90	26.5%	30	8.8%	24	7.1%
9	公園･緑地に関する機能	19	5.6%	31	9.1%	36	10.6%
10	この中にはない	48	14.1%	62	18.2%	101	29.7%



８－２　得点化による順位付け

次の算式により回答を得点化して集計したところ、廃止又は縮小しても良いと考える施設の第 1 位は「住宅に関する機能」、第 2 位は「生涯学習に関する機能」、第 3 位は「観光・産業振興に関する機能」となりました。

【算式】
各施設の得点＝第 1 位回答数×3 点+第 2 位回答数×2 点+第 3 位回答数×1 点

「第 1 位」と回答した割合の上位 3 機能が、得点化の集計においても上位を占める結果となっています。

順位	施設名	得点
1	住宅に関する機能	354
2	生涯学習に関する機能	227
3	観光・産業振興に関する機能	216
4	高齢者に関する機能	166
5	青少年の健全育成に関する機能	159
6	公園・緑地に関する機能	155
7	文化・芸術に関する機能	139
8	スポーツ・健康に関する機能	134
9	福祉に関する機能	121

【集計結果内訳】

機能	第 1 位	第 2 位	第 3 位	得点	順位
生涯学習に関する機能	114	76	37	227	2
青少年の健全育成に関する機能	69	74	16	159	5
文化・芸術に関する機能	72	40	27	139	7
スポーツ・健康に関する機能	69	44	21	134	8
高齢者に関する機能	66	70	30	166	4
福祉に関する機能	51	48	22	121	9
観光・産業振興に関する機能	108	82	26	216	3
住宅に関する機能	270	60	24	354	1
公園・緑地に関する機能	57	62	36	155	6
この中にはない	144	124	101	—	—

８－３　性別及び年代別の比較

点数化による上位 3 機能を見ると、「住宅に関する機能」は、20 代男女及び 30 代男性以外で第 1 位で、「生涯学習に関する機能」は、若い世代のほうが順位が高い傾向が伺えます。逆に「観光・産業振興に関する機能」は、50 代以上で順位が高くなっています。

そのほかの機能では、「高齢者に関する機能」は 20 代だけで順位が高くなっているほか、「福祉に関する機能」は 40 代だけで高い順位となっています。

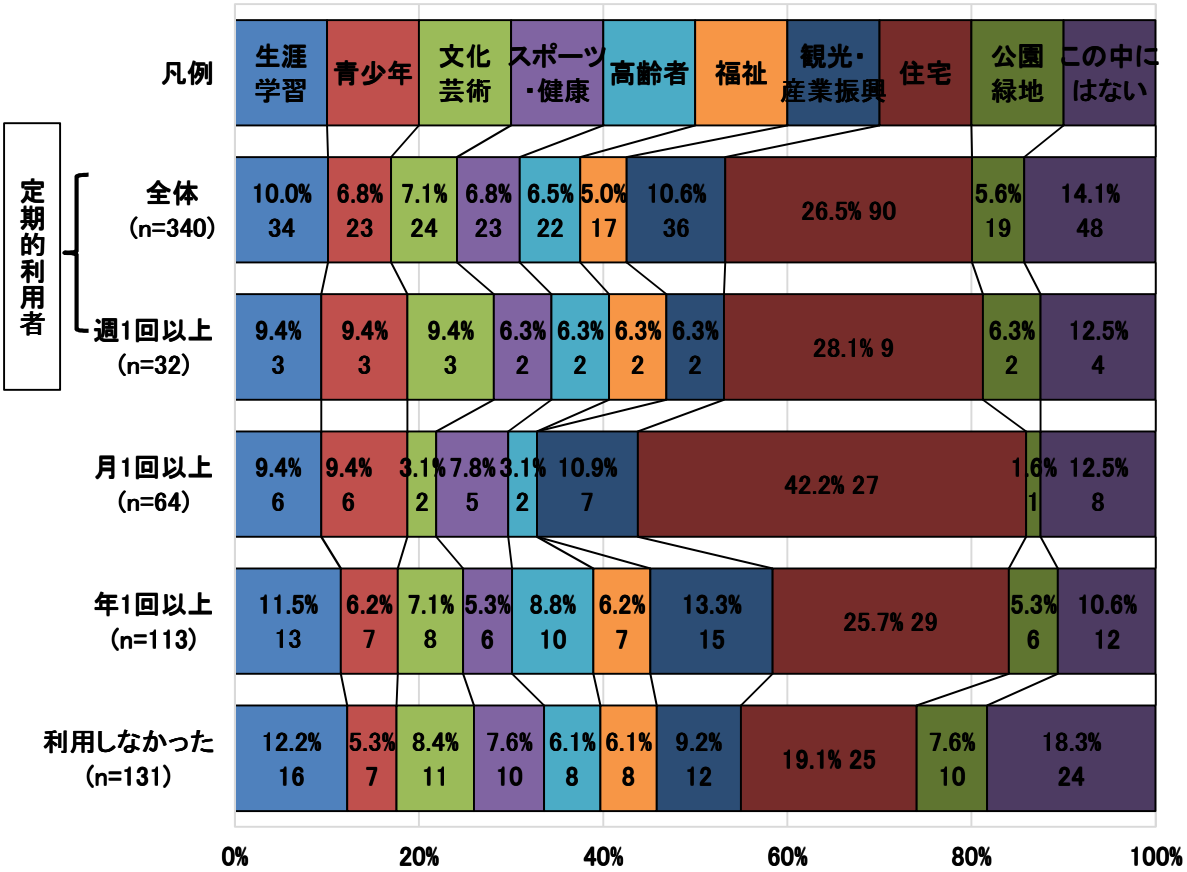
年代＼性別		男性		女性		合計	
		施設名	得点	施設名	得点	施設名	得点
20 代	1	生涯学習	21	スポーツ･健康	21	生涯学習	40
	2	住宅	15	生涯学習	19	高齢者	31
	3	高齢者	13	高齢者	18	住宅　公園･緑地	29
30 代	1	生涯学習	29	住宅	46	住宅	71
	2	住宅	25	生涯学習	24	生涯学習	53
	3	観光･産業振興	19	文化･芸術	22	観光･産業振興	39
40 代	1	住宅	45	住宅	41	住宅	86
	2	文化･芸術	26	福祉	28	福祉	53
	3	福祉	25	生涯学習	22	生涯学習	44
50 代	1	住宅	54	住宅	33	住宅	87
	2	観光･産業振興	37	青少年	18	観光･産業振興	54
	3	生涯学習	35	観光･産業振興	17	生涯学習	51
60 代以上	1	住宅	61	観光･産業振興	22	住宅	81
	2	観光･産業振興	47	住宅	20	観光･産業振興	69
	3	生涯学習	30	公園･緑地	15	高齢者	44
合計	1	住宅	200	住宅	154	住宅	354
	2	生涯学習	137	観光･産業振興	91	生涯学習	227
	3	観光･産業振興	125	生涯学習	90	観光･産業振興	216

８－４　公共施設の利用頻度との関係

公共施設の利用頻度別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第 1 位と回答した機能を集計しました。

定期的利用者では、利用頻度の低い人に比べて、青少年に関する機能を第 1 位とした割合が高く、利用頻度の低い人では、定期的利用者に比べて、生涯学習に関する機能を第 1 位と回答した人の割合が高くなっていますが、そのほかの機能については、利用頻度による違いはありますが、公共施設の利用頻度と「廃止又は縮小しても良い機能」の第１位の回答に、一定の傾向や関係性は見られません。

【利用頻度別の第1位機能】



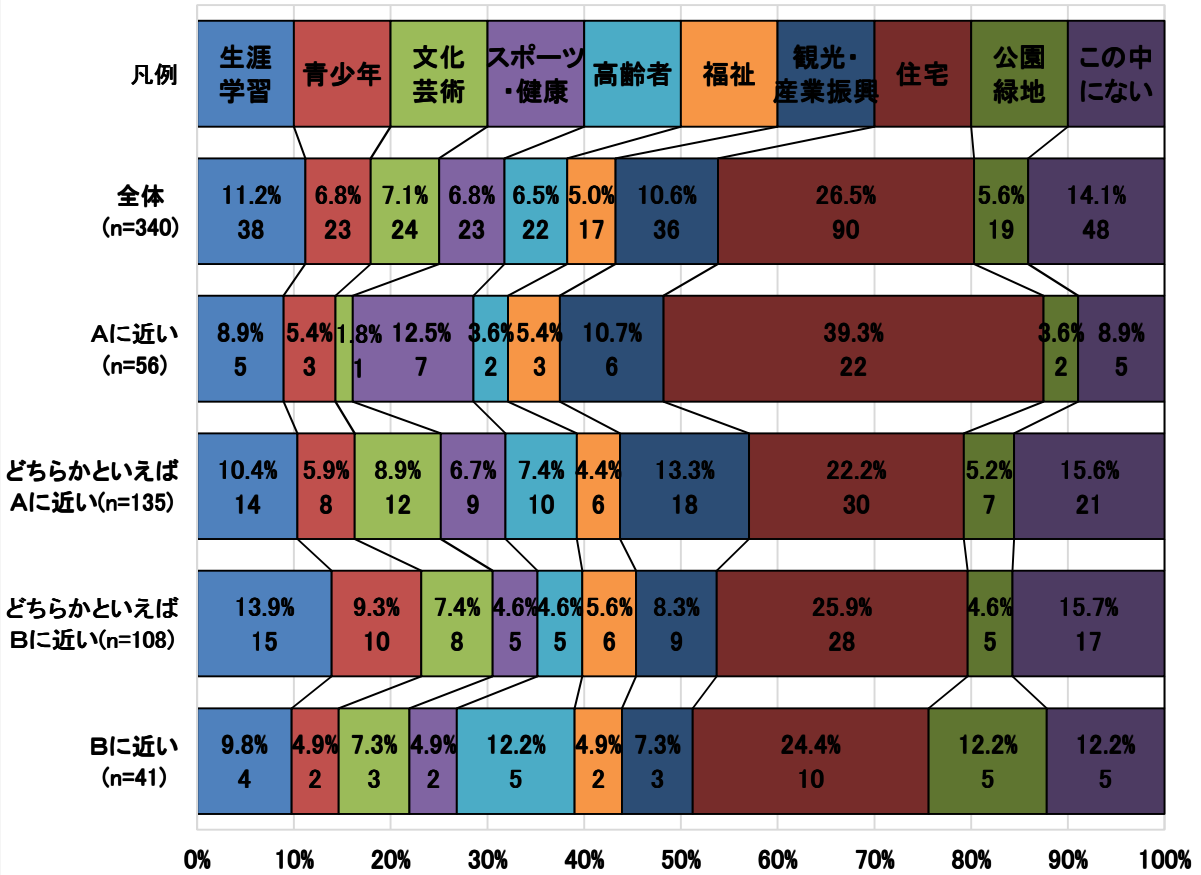
８－５　公民連携の推進に対する考え方との関係

公民連携の推進に対する考え方別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第 1 位と回答した機能を集計しました。

公民連携の推進に賛成となる「Ａに近い」又は「どちらかとえいばＡに近い」と回答した人では、そうではない人と比べて、スポーツ・健康に関する機能、観光・産業に関する機能を第１位と回答した割合が高くなっています。

また、「Ａに近い」と回答した人では、第 1 位と回答された割合及び得点化による順位ともに第 1 位となった、住宅に関する機能を第 1 位と回答した割合が特に高くなっています。住宅に関する機能を廃止・縮小する際には、公民連携の推進の視点から検討することで、市民の理解が得やすいことを示していると考えられます。

【公民連携に対する考え方別】



８－６　使用料見直しに対する考え方との関係

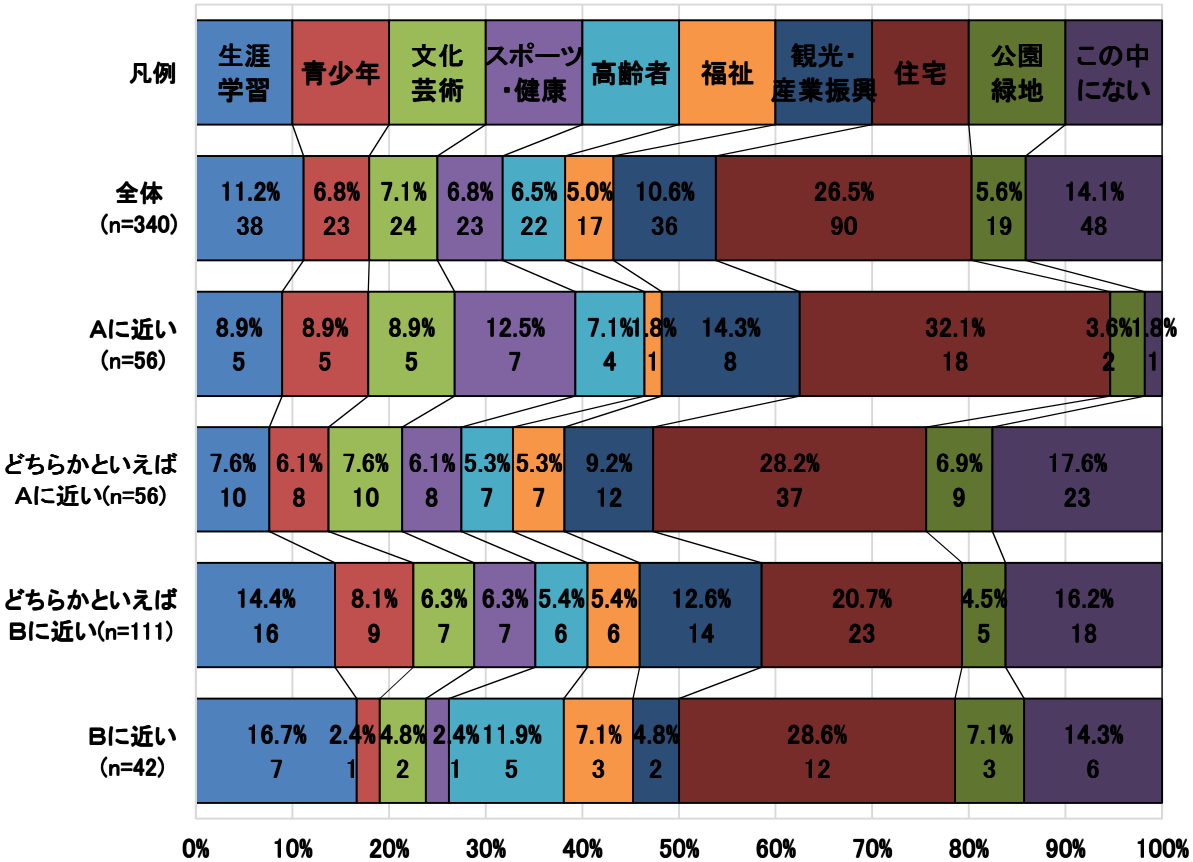
使用料見直しに対する考え方別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第 1 位の機能を集計しました。

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Ａに近い」又は「どちらかとえいばＡに近い」と回答した人では、そうではない人に比べて、文化・芸術に関する機能、スポーツ・健康に関する機能を第 1 位と回答した割合が高く、有料施設が多い機能の廃止・縮小に積極的な傾向が伺えます。

実態に応じた使用料の見直しに反対の立場となる、「Ｂに近い」又は「どちらかといえばＢに近い」と回答した人では、そうではない人に比べて、生涯学習に関する機能、高齢者に関する機能を第１位と回答した割合が高くなっています。

また、使用料の見直しに積極的に賛成している「Ａに近い」と回答した人では、この中にはない、と回答した人の割合が他に比べて著しく低くなっています。

【使用料見直しに対する考え方別】



問９　秦野市では「公共施設再配置計画」の基本方針において「原則として、新規の公共施設（ハコモノ）は建設しない。建設する場合には、更新予定施設の更新を同面積（コスト）だけ取りやめる」として、４０年間で公共施設の床面積を３１．３%削減する目標を掲げています。しかし、少子高齢化が進行していく中にあっては、既存の施設にはない新たな機能を持った施設や、既存の施設において現在あまり注目されていない機能の拡充などが必要になるかもしれません。将来的に財政状況の好転が見込まれない状態にあっても、あなたが「今後の秦野市に必要だ」と考える「新たな機能」や「拡充が必要な機能」があれば記入してください。

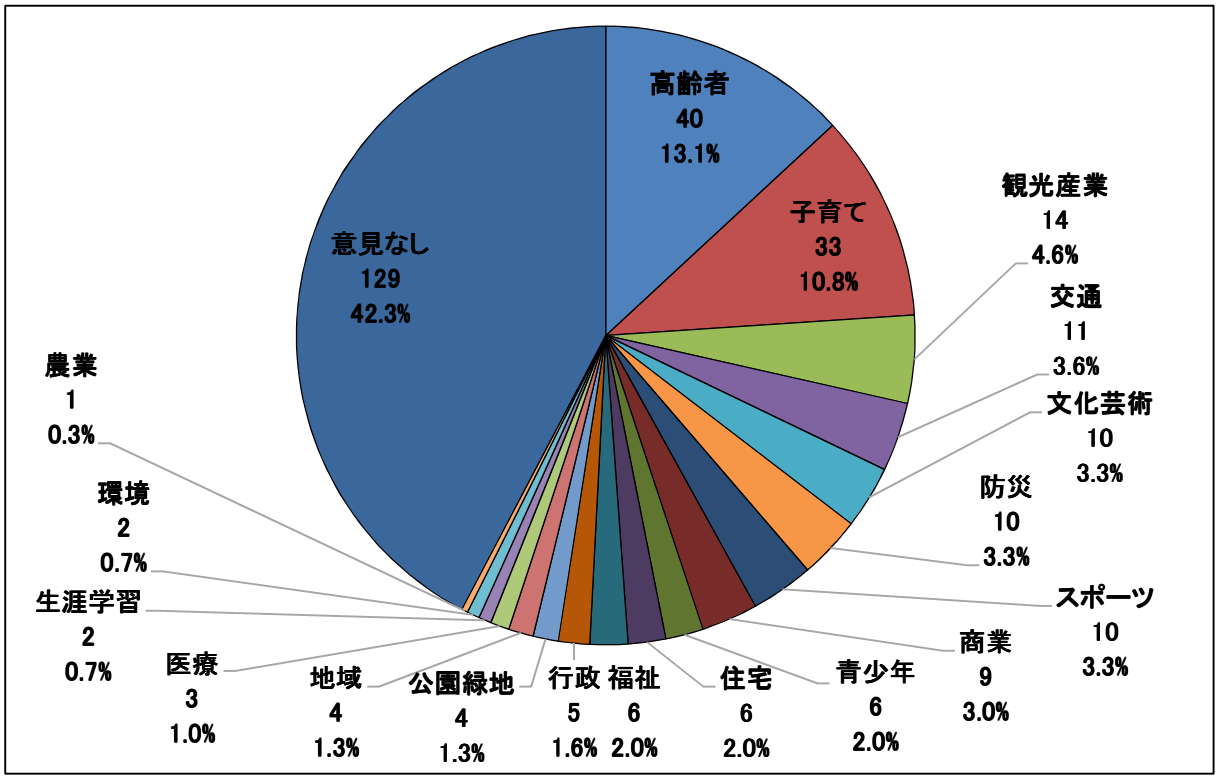
９－１　調査結果

問８と同じく、平成 33(2021)年を始期とする「公共施設再配置計画第２期基本計画」策定の参考とするために新設した質問で、少子高齢化の進行に伴い、将来的に必要となる「新たな機能」や「拡充が必要な機能」について、自由記載形式で意見をいただきました。

アンケート回答者 340 人のうち、自由意見を記入した人数は 267 人(78.5%)で、延べ 279 件の意見があり、内容を機能別に分類したところ、全部で 305 件の意見となりました。

このうち、市への要望や「特になし」とする記載、「新たな機能」や「拡充が必要な機能」に該当しない意見 129 件(42.3%)を「意見なし」として、その他の機能を集計したところ、最も高い割合となった機能は「高齢者に関する機能」で、次に高かった機能は「子育てに関する機能」でした。このふたつの機能が全体の 23.9%、「意見なし」を除いた回答の 41.5%を占める結果となりました。

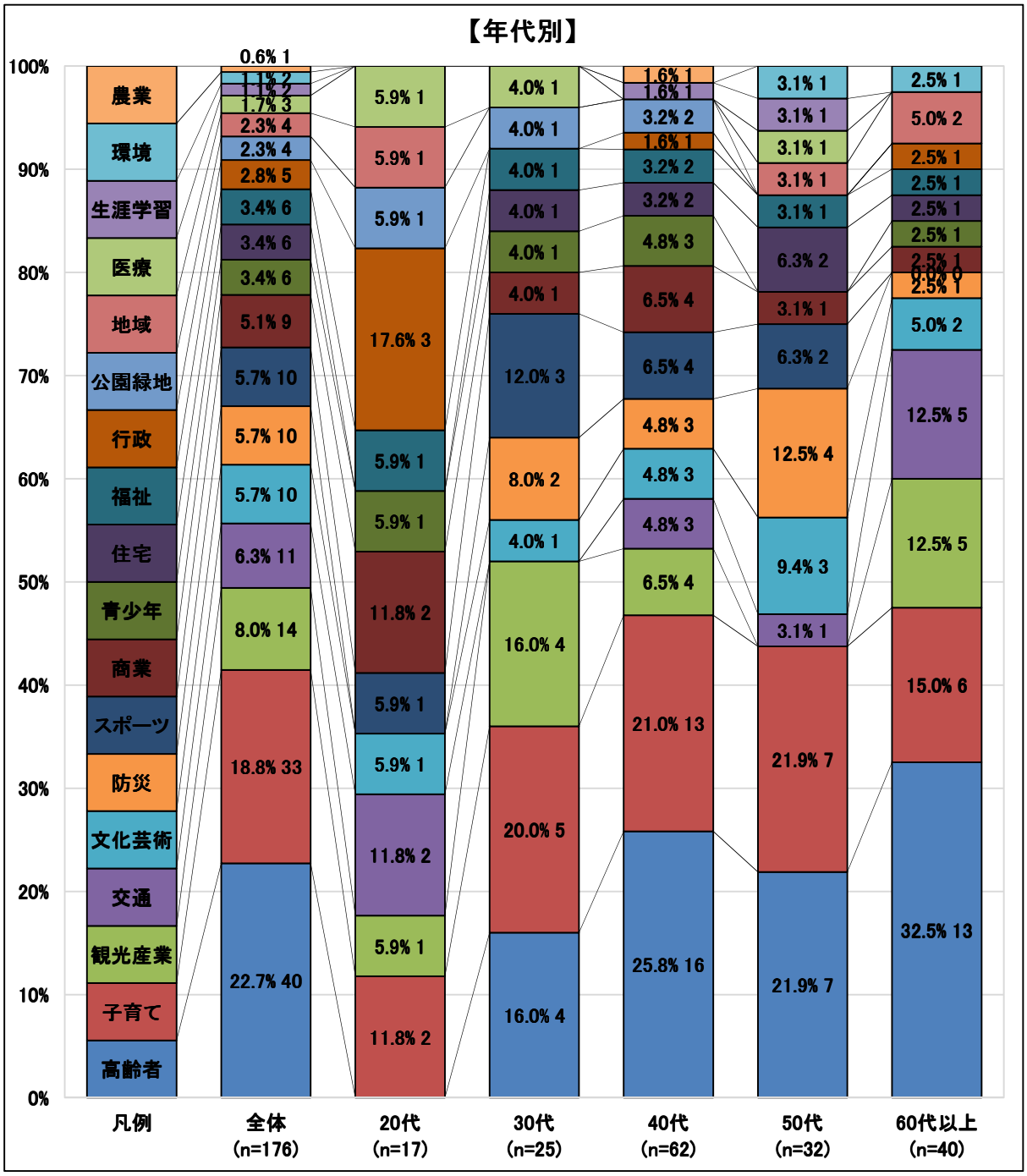
９－２　年代別及び性別の比較



(1)　年代別

「意見なし」を除いた 175 件の意見を年代別に集計しました。各年代で最も多かった機能は、20 代が「行政に関する機能」、30 代が「子育てに関する機能」、40 代以上では「高齢者に関する機能」となっています。

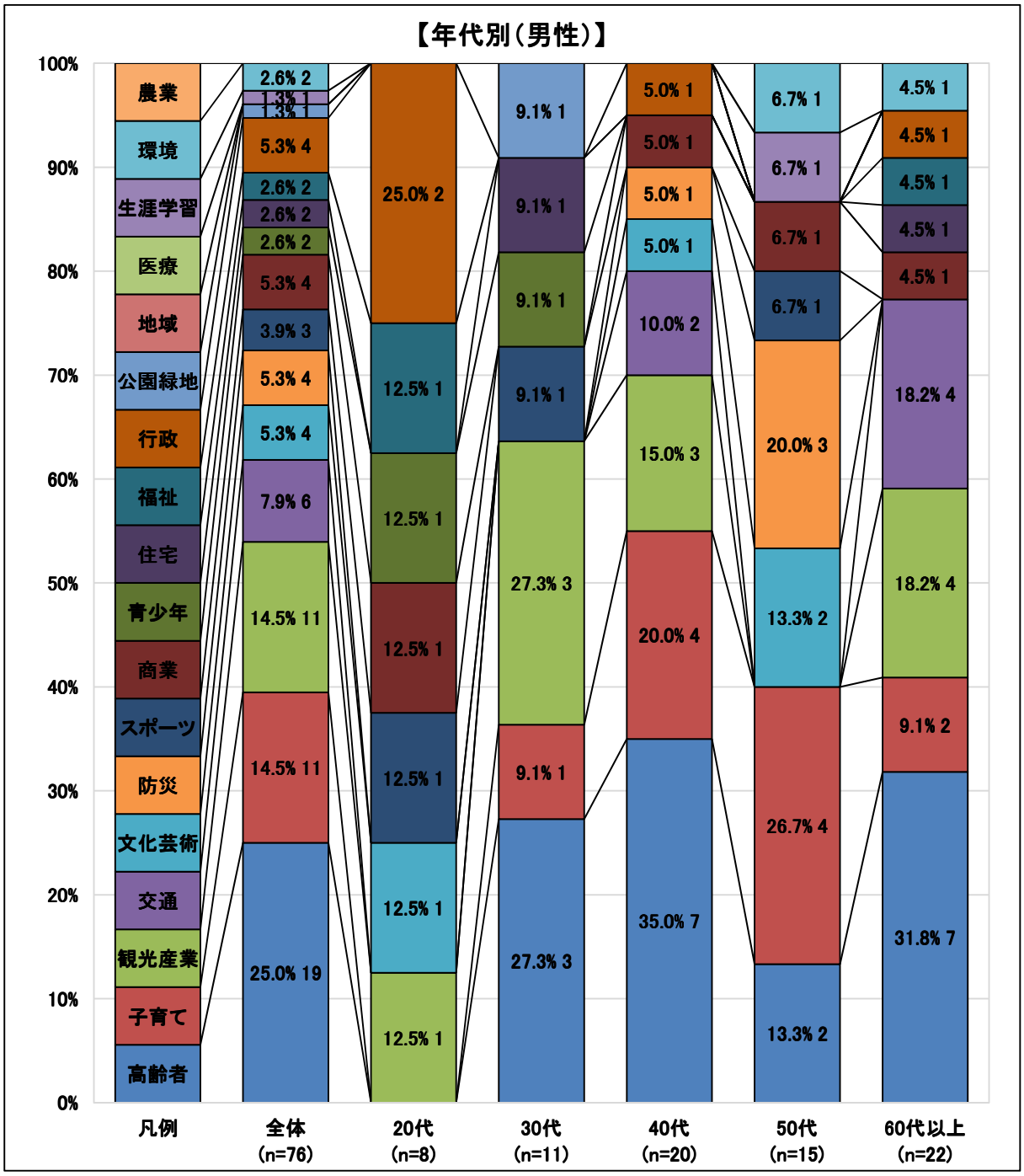
将来的に必要となる機能についての質問でしたが、20 代では「高齢者に関する機能」や「防災に関する機能」の割合が 0%となっているほか、60 代以上では「交通に関する機能」の割合が高くなるなど、現在の年齢における興味や関心が意見に強く反映されているように見受けられます。



(2) 男性

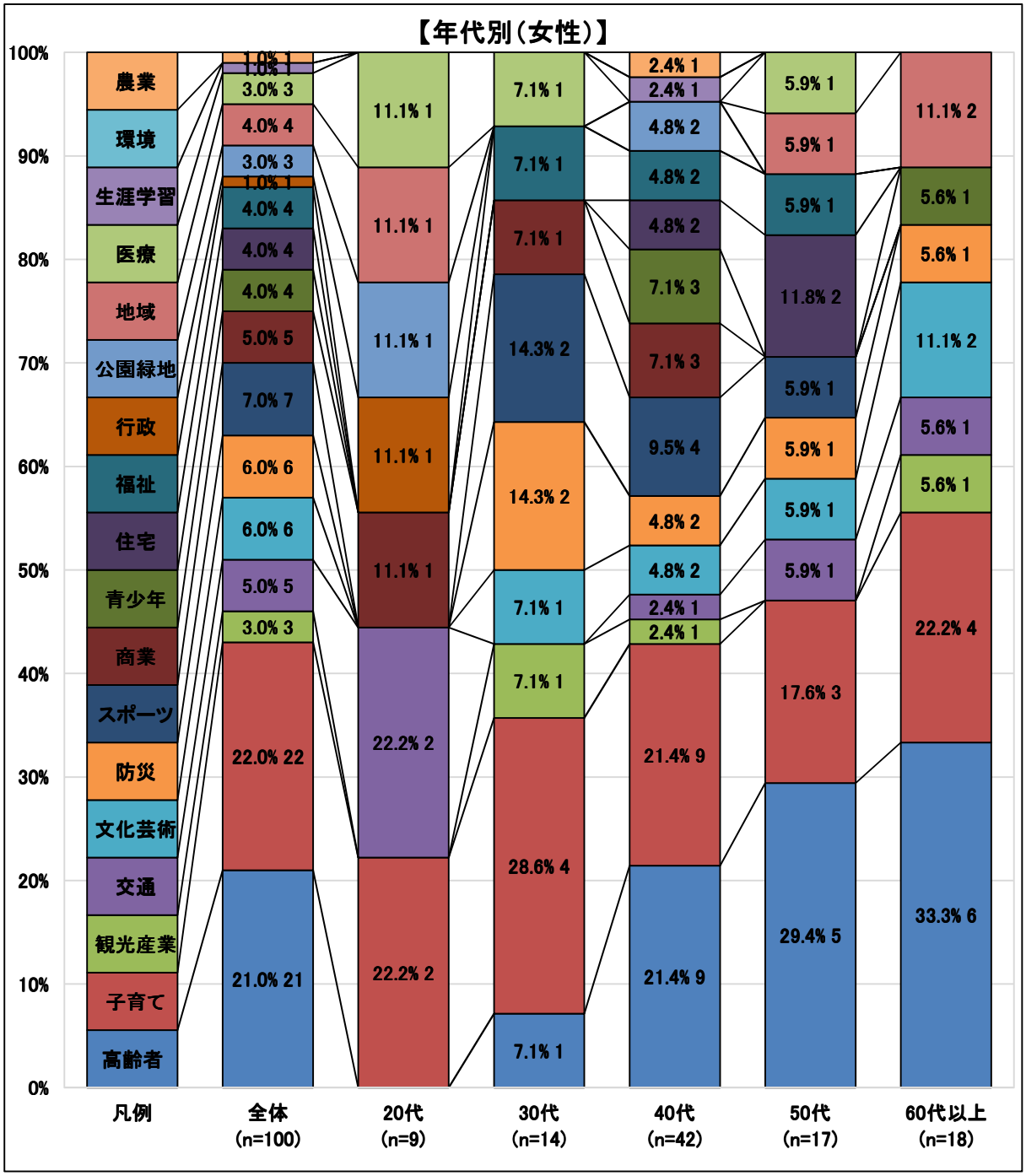
20 代では、「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」の割合は 0%となり、他の年代とは明らかな違いが見られます。30 代以上では全体と同じく「高齢者に関する機能」と「子育てに関する機能」が多く回答されている傾向が見られます。

また、30 代では「観光産業に関する機能」の割合が、50 代では「防災に関する機能」の割合が、60 代以上では「観光産業に関する機能」及び「交通に関する機能」の割合がそれぞれ高くなっています。



(3)　女性

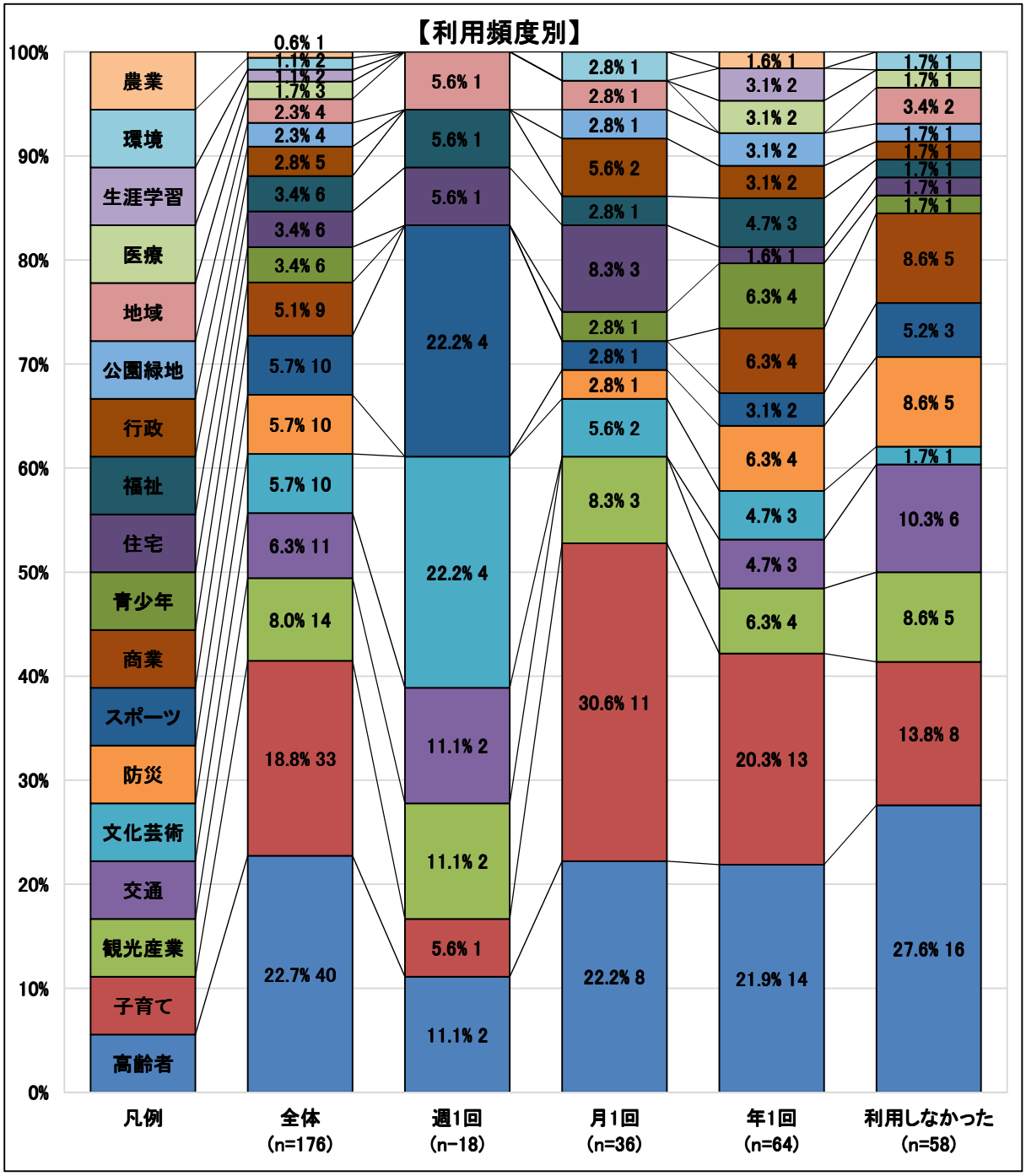
20 代では、「高齢者に関する機能」の割合が 0%となり、「子育てに関する機能」及び「交通に関する機能」の割合が高くなっています。30 代以上では、「高齢者に関する機能」が年代の上昇に伴って割合も高くなっているほか、「子育てに関する機能」も高い割合となっています。



９－３　公共施設の利用頻度別の比較

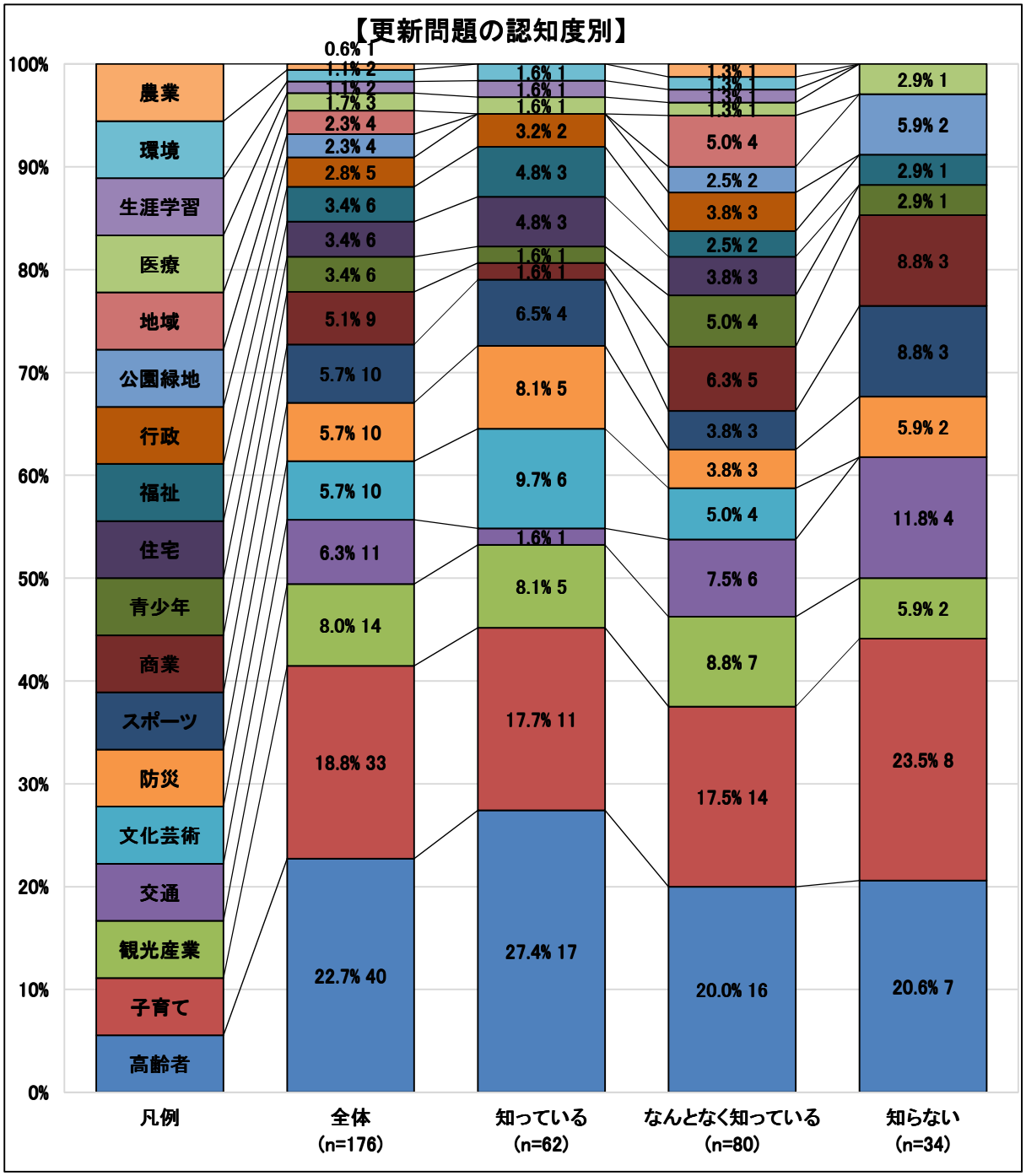
「週に 1 回以上利用した」と回答した人では、その他の人と比べて「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」の割合が低くなり、「文化芸術に関する機能」及び「スポーツに関する機能」の割合が高くなっています。

しかし、「月に 1 回利用した」と回答した人では、「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」の割合が高くなっていますので、公共施設を比較的頻繁に利用している定期的利用者も含めて、将来的に必要となる機能としてこの 2 つの機能を重視している傾向が伺えます。



９－４　公共施設更新問題認知度別の比較

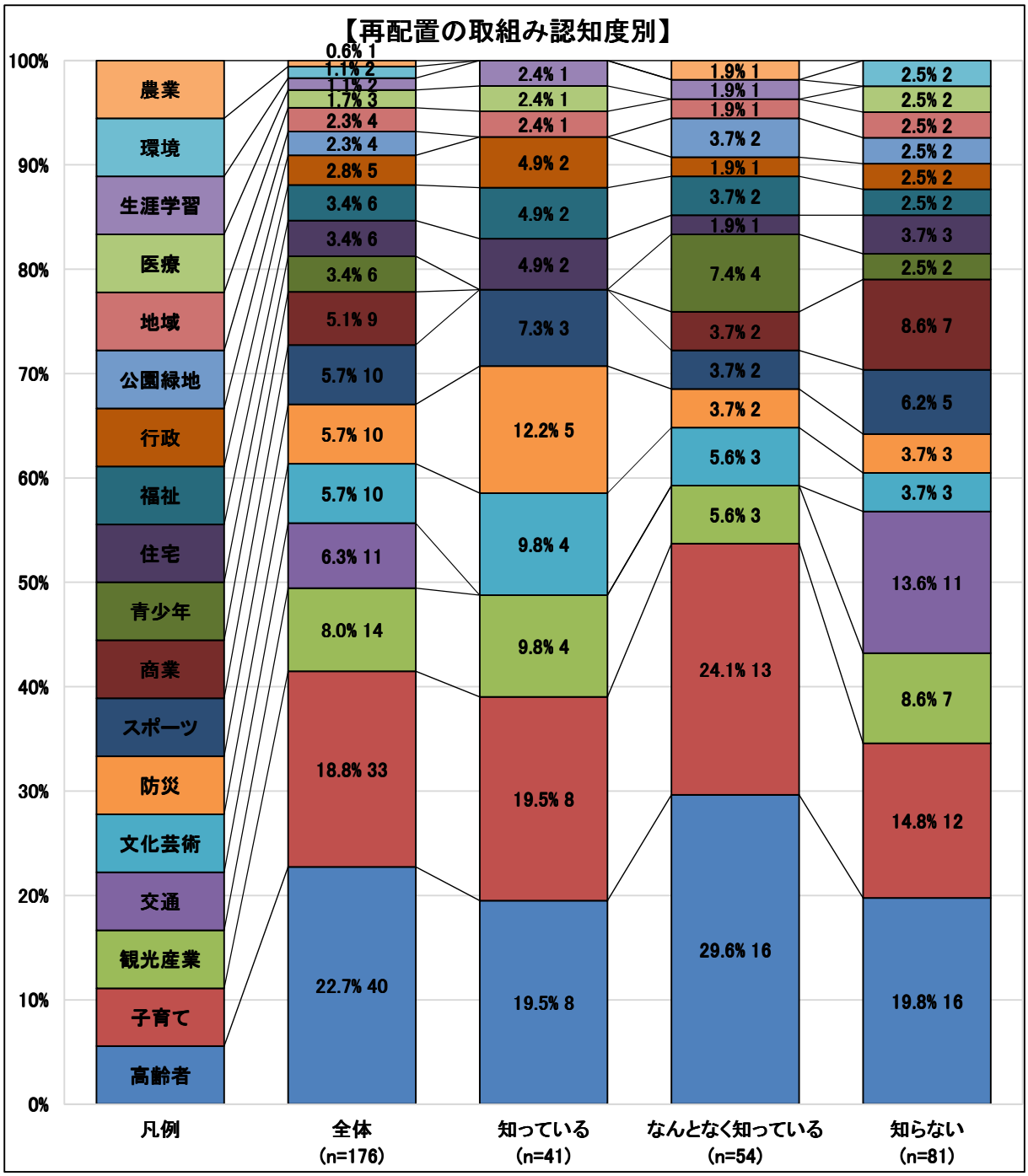
公共施設更新問題を「知っている」と回答した人では、「高齢者に関する機能」が高い割合となっています。また、「知らない」と回答した人では、「子育てに関する機能」の割合が高くなっていますが、認知度の違いによる傾向は見られません。



９－５　公共施設再配置の取組み認知度別の比較

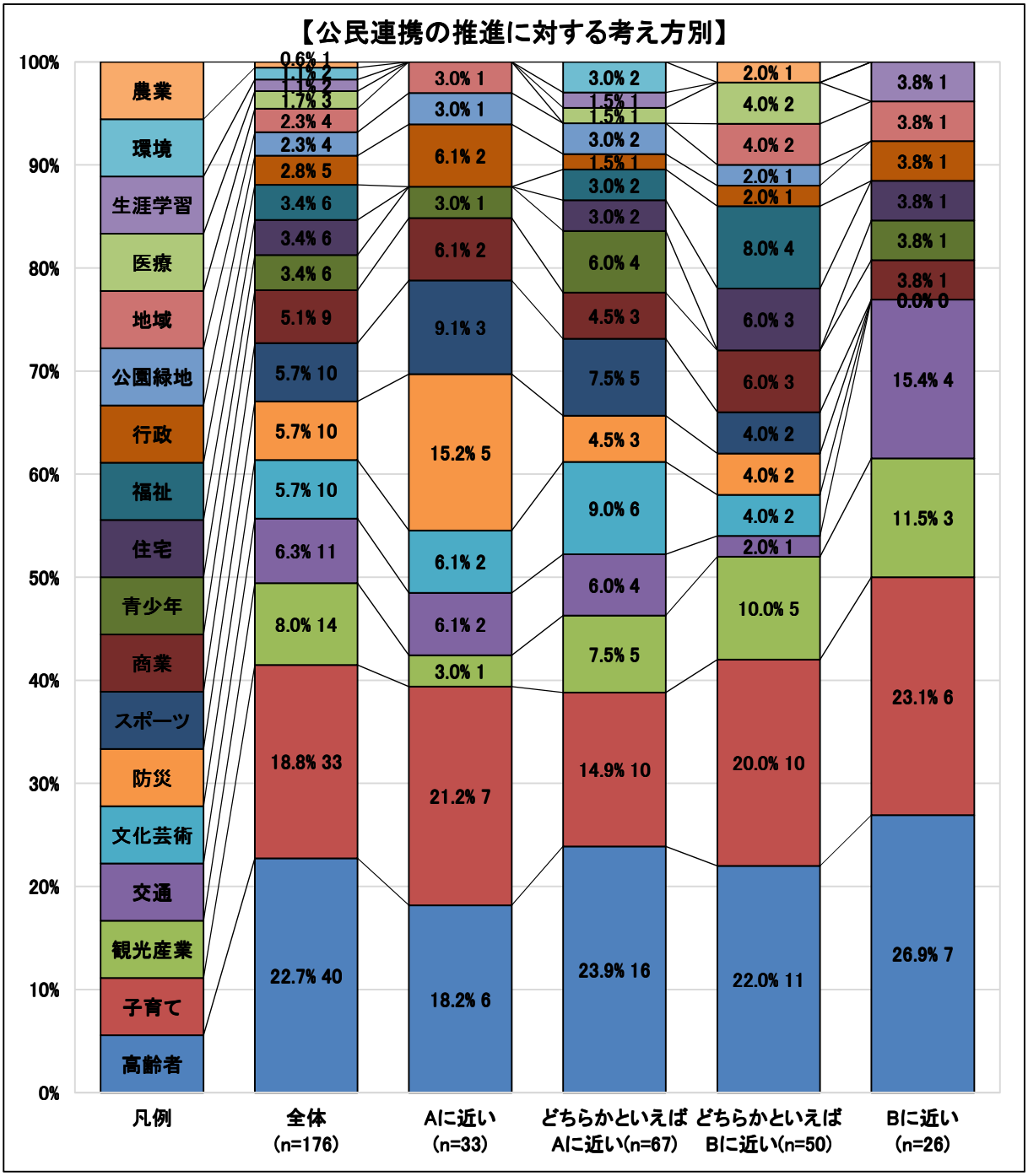
「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」の割合が高くなったのは、公共施設再配置の取組みに関して、「なんとなく知っている」と回答した人となっています。

「知っている」及び「知らない」と回答した人では、「高齢者に関する機能」はほぼ同じ割合で、「子育てに関する機能」は「知らない」と回答した人が「知っている」と回答した人の割合を上回っています。



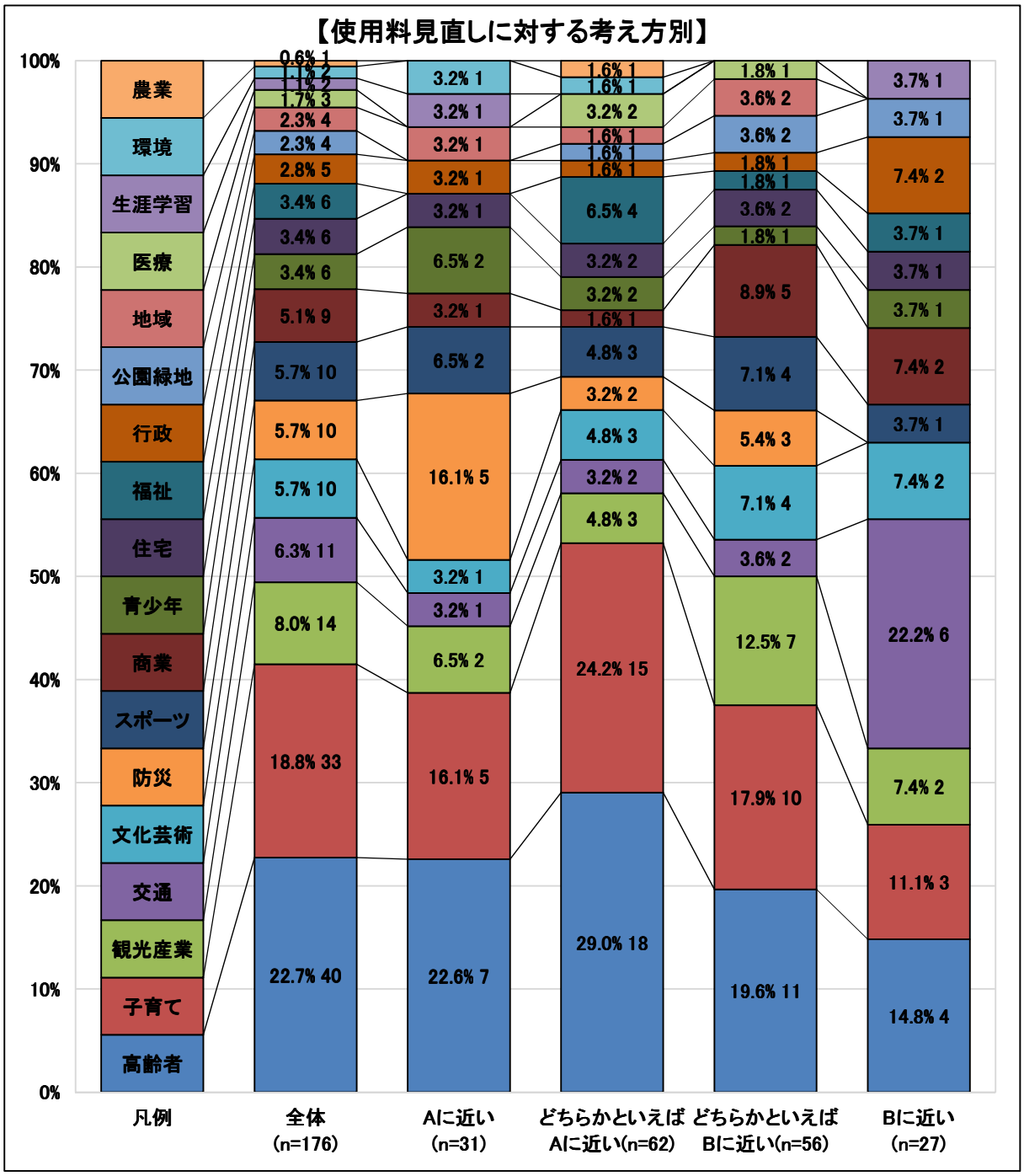
９－６　公民連携の推進に対する考え方別の比較

公民連携の推進ついて反対の立場となる「Ｂに近い」と回答した人で、「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」の割合が最も高くなっていますが、考え方の違いによる傾向は見られません。



９－７　使用料見直しに対する考え方別の比較

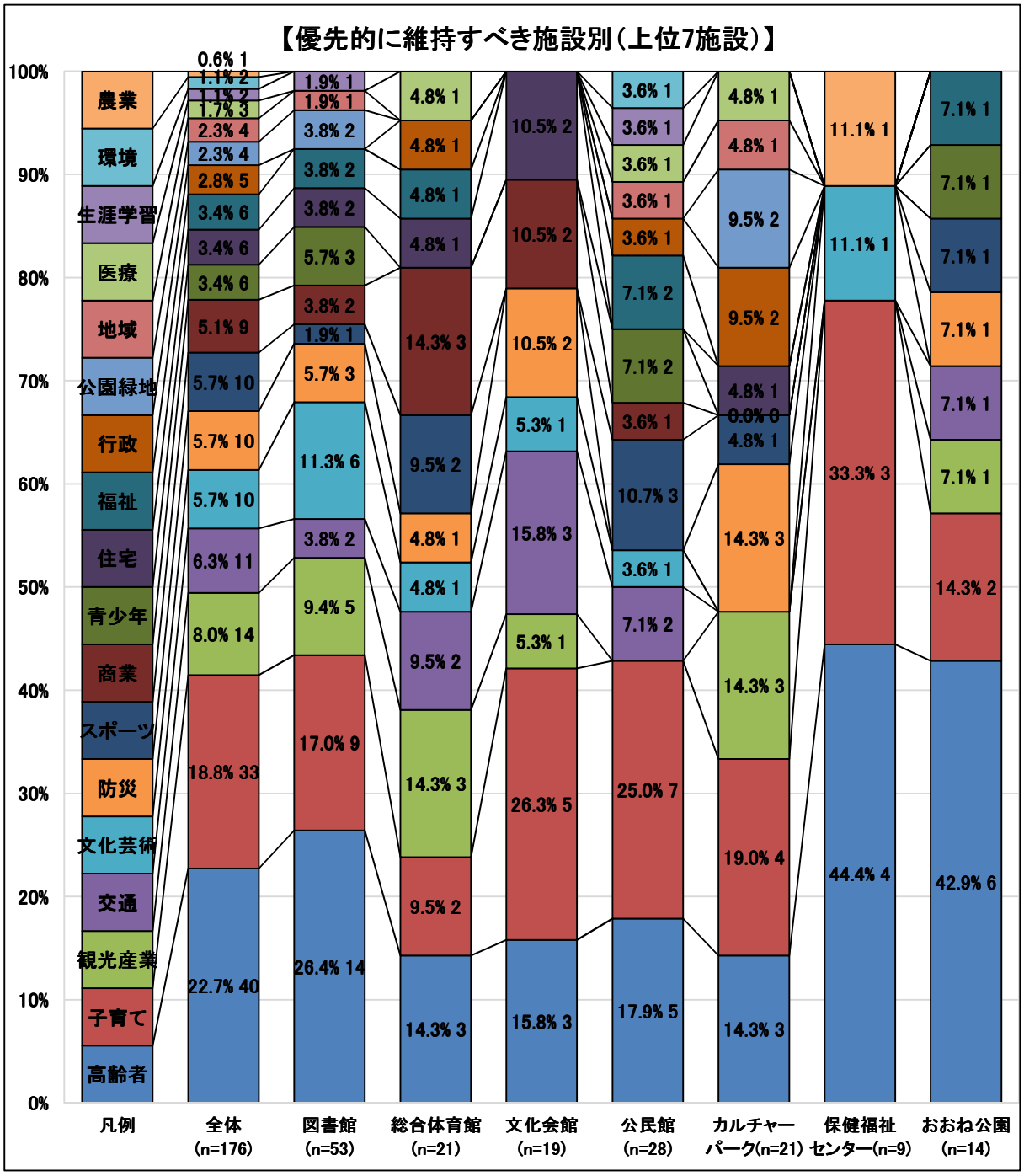
実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Ａに近い」と回答した人では、「防災機関する機能」の割合が高く、使用料見直しに反対となる「Ｂに近い」と回答した人では、「交通に関する機能」の割合が高くなっています。「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」の割合が最も高かったのは、「どちらかといえばＡに近い」と回答した人で、この２つの機能の割合は、実態に応じた使用料の見直しに賛成の立場の考え方の人で高い傾向が伺えます。



９－８　優先的に維持すべき施設別の比較

優先的に維持すべき施設で、第 1 位と回答された割合が高かった 7 施設（図書館、総合体育館、文化会館、公民館、カルチャーパーク（中央運動公園）、保健福祉センター、おおね公園）別に集計しました。

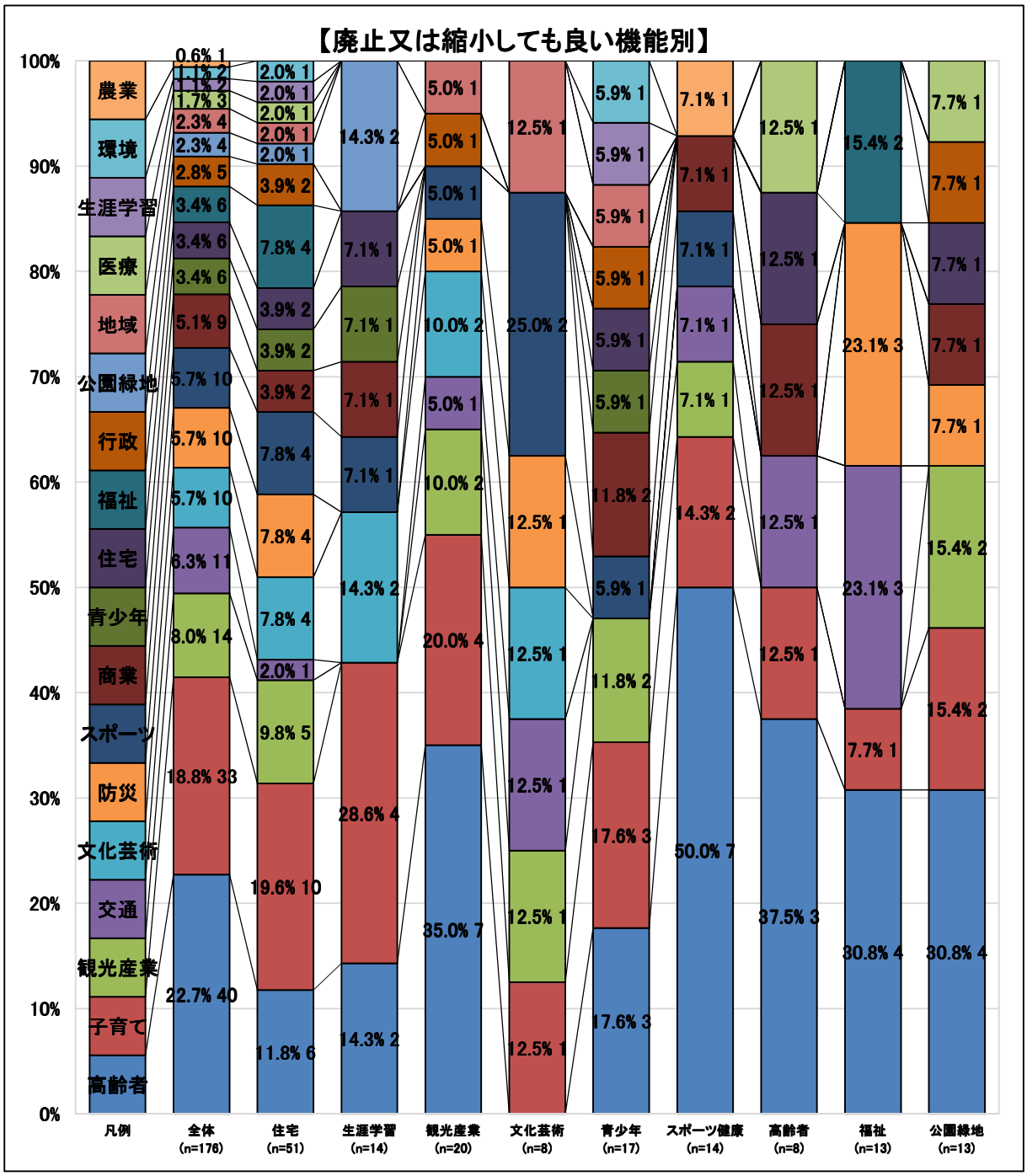
スポーツ系の施設を第 1 位と回答した人では、「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」の割合が低くなる傾向が見られます。また、「保健福祉センター」を第 1 位と回答した人では、「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」の割合が合わせて 77.7%と非常に高くなっていますが、その他の施設では、第 1 位と回答した施設と、将来的に拡充したい機能との間に関係性は見られません。



９－９　廃止又は縮小しても良い機能別の比較

廃止又は縮小して良い機能で、第 1 位と回答された機能別に集計しました。どの機能でも「高齢者に関する機能」及び「子育てに関する機能」は高い割合となっていますが、「文化芸術に関する機能」を廃止又は縮小しても良いと回答した人では、「高齢者に関する機能」の割合が 0%となっています。

また、廃止又は縮小しても良い機能で第 1 位と回答していながら、拡充が必要な機能として同じ機能を挙げている回答も見受けられます。



９－１０　機能別の意見

回答された意見を「意見なし」と分類したものも含めて、機能別にまとめました。基本的に記入されたまま記載していますが、誤字脱字等については一部修正しています。

(1)　高齢者に関する機能【40 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	これから増えるであろう高齢者のための施設	男性	52	自由業
2	公営の老人ホーム	男性	41	無職
3	老人ホームと託児所が一緒になった施設	女性	49	専業主婦(主夫)
4	公共施設ではないかもしれないが、特養や老健といった介護施設は必要だと思う。	男性	38	会社員(事務系)
5	特に必要なし。強いて言えば、孤独高齢者や孤独困窮（生活保護に満たない）などの受け入れ態勢などが出来る施設。	男性	40	パート･アルバイト
6	一人高齢者と幼児の見守りの複合機能。	男性	68	無職
7	子供と高齢者の住みやすい町	男性	48	会社員(その他)
8	地域で高齢者の支援を行う拠点	男性	57	自由業
9	高齢者が出入りしやすい施設	男性	64	経営者･役員
10	高齢者対象の収容コミュニティ施設	男性	61	会社員(技術系)
11	高齢者向け施設の充実	男性	45	会社員(技術系)
12	高齢化社会に対応できる人にやさしい環境	男性	49	会社員(その他)
13	高齢者用の管理アパートやマンション。管理者が緊急時にかけつけてくれるようなシステム付。パブリックスペースで、定期的にエクササイズできるようなプログラム付。	女性	41	会社員(その他)
14	高齢社会による働き手不足を補うための、高齢者向けの職業訓練施設や就労支援施設	男性	39	会社員(技術系)
15	今後ますます高齢化が進むであろうから高齢者のための施設や機能はどうしても拡充しなければならない。	男性	39	自営業
16	高齢化社会に対応できる施設の拡充	男性	72	パート･アルバイト
17	高齢者対策　コンパクトシティ	男性	65	自営業
18	こども食堂のように孤食になるこどもや高齢者のためにみんなで食事ができる場所が有ると良いと思う。そこで退職した中高年の方を雇用したらいかがでしょうか。	女性	40	専業主婦(主夫)
19	高齢者向けの施設･児童用施設･障害者用施設と分けるのではなく一緒に楽しめる施設が必要だと思う。異なった環境や異なった年齢の人と接することの出来る公共施設が人を育てていくと思う。	女性	53	専業主婦(主夫)
20	東海大学の存在により若い方や外国人も多い。お年寄りとの交流の場を設けてほしい。	女性	45	会社員(技術系)
21	高齢者向けの施設は、必要になってくると思うので、高齢者に特化したもの	女性	66	専業主婦(主夫)
22	子供とお年寄りの為の施設は必要。	女性	43	専業主婦(主夫)
23	高齢者向け集合住宅。訪問介護による介護費用を抑え、お互い手助けし合いながら生活を支え合い、それでも必要なところは専門職に依頼することとする。また、空き家にせず、若年層に売却するシステムにし人口の流出を抑える。	女性	55	専業主婦(主夫)
24	高齢化社会で今後、益々、諸々の施設が必要になると考えられます。少しでも利用者の負担が少なく利用できる施設が増えれば良いと思います。	女性	65	自由業
25	高齢化が進むと思うので、高齢者が気軽に交流できる場所があるといいと思います。	女性	40	専業主婦(主夫)
26	少子高齢化に向けて、働く親が安心して遊んだり学ぶ事ができる子供たちの空間やこれから更に増えていくであろう高齢者の憩いの場となるような空間は必要だと思いました。	男性	40	その他
27	子供からお年寄りまで様々な方々が一緒に学びに遊びに活動できる場所として、既存の公共施設を多目的に利用できればいいのではないかと思います。	女性	43	専業主婦(主夫)
28	健康寿命を延ばす施設	男性	69	無職
29	高齢者、障害者が利用しやすいエスカレーターやエレベーターの設置。バスやタクシーの利用料を補助。買い物の補助。	女性	45	パート･アルバイト
30	子供から老人まで利用できる健康促進のための指導施設	女性	61	パート･アルバイト

No.	意見	性別	年齢	職業
31	学校を老人が入居できる施設にできるような仕組みづくり。階段しかない学校にエレベーターを設置するなど。	女性	50	会社員(事務系)
32	高齢者でも元気なら働けるような職場を作る。	女性	68	無職
33	高齢者のための施設。介護のための施設。機能維持のための施設	男性	60	会社員(事務系)
34	老人福祉施設と保育園や児童館機能の合体	女性	60	公務員
35	今後も老人が増え続けるので、介護保険適用までに至らない老人の健康維持、機能維持に取り組む仕組みを作ることが将来の財政圧迫を防ぐと思います。	女性	59	専業主婦(主夫)
36	高齢者の施設。	女性	55	会社員(事務系)
37	吊り橋やカルチャーパークのリニューアルは必要ないと思われる。少子高齢化社会に対する施設の拡充が今後必要	男性	48	会社員(技術系)
38	高齢者が住みやすい環境は必要。	女性	41	会社員(その他)
39	特養老人ホーム！個人経営のホームは年金だけでは利用が難しい！子供世代に金銭面が頼れない！	女性	61	専業主婦(主夫)
40	子供を産みやすく育てやすい環境は継続、高齢者が住みやすく長生きしやすい環境整備を望みます。働く世代の人たちは負担が大きいが、そのぶん何かで還元されるような仕組みがあるとよいと思う。	女性	31	会社員(その他)

(2) 子育てに関する機能【33 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	増やさねばならない子ども・青少年のための施設	男性	52	自由業
2	就園前の子供達が遊べる子供支援センターの充実	女性	64	専業主婦(主夫)
3	老人ホームと託児所が一緒になった施設	女性	49	専業主婦(主夫)
4	保育所の設置です。	女性	24	会社員(技術系)
5	保育園、預かり所などの増設	女性	31	パート・アルバイト
6	削減するだけでは、縮小均衡に陥るだけなのでは？人口増のために、子育て支援が充実していると良いと思います。実現可能かは分かりませんが、公立で 3 年保育の幼稚園(既存幼稚園の拡張でも)があると助かります。	男性	41	会社員(技術系)
7	一人高齢者と幼児の見守りの複合機能。	男性	68	無職
8	子供と高齢者の住みやすい町	男性	48	会社員(その他)
9	秦野市は子育てしやすい環境だと思うので、子育てに関係する施設を減らすのは反対です。	女性	38	専業主婦(主夫)
10	施設より保育園の設置が必要だと感じます。通いにくいようなところに新しく出来ても意味がありません。	女性	28	専業主婦(主夫)
11	こども食堂のように孤食になるこどもや高齢者のためにみんなで食事ができる場所が有ると良いと思う。そこで退職した中高年の方を雇用したらいかがでしょうか。	女性	40	専業主婦(主夫)
12	高齢者向けの施設・児童用施設・障害者用施設と分けるのではなく一緒に楽しめる施設が必要だと思う。異なった環境や異なった年齢の人と接することの出来る公共施設が人を育てていくと思う。	女性	53	専業主婦(主夫)
13	保育所	男性	59	会社員(事務系)
14	私は小学生の子供がいます。秦野市では中学がお弁当だと聞いたので、給食センターができるとありがたいです。あと子どもの医療費を通院も中学生まで拡大してほしいです。財政状況が好転になる見込みがなければ、新しいものを作るより、既存のものを新しく生まれ変わらせる事が出来ればいいのかなと思います。	女性	40	専業主婦(主夫)
15	子供とお年寄りの為の施設は必要。	女性	43	専業主婦(主夫)
16	少子高齢化に向けて、働く親が安心して遊んだり学ぶ事ができる子供たちの空間やこれから更に増えていくであろう高齢者の憩いの場となるような空間は必要だと思いました。	男性	40	その他
17	子育て支援	男性	54	会社員(事務系)
18	中学校の給食実施	女性	40	パート・アルバイト
19	子供からお年寄りまで様々な方々が一緒に学びに遊びに活動できる場所として、既存の公共施設を多目的に利用できればいいのではないかと思います。	女性	43	専業主婦(主夫)

No.	意見	性別	年齢	職業
20	将来をになう子供に関する施設	男性	69	無職
21	子供から老人まで利用できる健康促進のための指導施設	女性	61	パート・アルバイト
22	空き家や団地を利用して託児所や保育園を増やし、子供を産んでも働ける環境作り。	女性	68	無職
23	老人福祉施設と保育園や児童館機能の合体	女性	60	公務員
24	子供が遊べる施設	女性	42	パート・アルバイト
25	子育て環境を充実させる機能を持った施設を増やして、流入人口の増加を目指すべきだと思う。	男性	57	その他
26	若者夫婦の秦野市への移住を促進できるような駅近くのマンション、その近くの保育所、土日にファミリーが過ごせるような魅力的なショッピングモール、映画館、登山客をより呼び込めるような宿泊施設	女性	41	会社員(事務系)
27	子育てに関する施設	女性	54	パート・アルバイト
28	小さな子どもと親が、施設内で学んだり遊べたりする場所	女性	50	公務員
29	子供が安心して遊べる室内スペースは確保してほしい。児童館でなく、公民館の一部屋でもいいと思う。	女性	38	パート・アルバイト
30	吊り橋やカルチャーパークのリニューアルは必要ないと思われる。少子高齢化社会に対する施設の拡充が今後必要	男性	48	会社員(技術系)
31	子どもを守り、育てる機能	男性	39	公務員
32	義務教育の間は医療費無料。中学を給食にする。中学からお金が沢山かかるのに、未就学児の保証ばかりで不公平。	女性	42	パート・アルバイト
33	子供を産みやすく育てやすい環境は継続、高齢者が住みやすく長生きしやすい環境整備を望みます。働く世代の人たちは負担が大きいが、そのぶん何かで還元されるような仕組みがあるとよいと思う。	女性	31	会社員(その他)

(3) 観光産業に関する機能【14 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	観光客が来るような施設。	男性	38	会社員(その他)
2	自然を武器にした施設	男性	36	公務員
3	第二東名開通に伴い、観光・自然の充実が必要。	男性	66	会社員(技術系)
4	観光施設が乏しく、市民からの税金で補うには限界がある。初期投資として考え、秦野市に道の駅を作って欲しい。新東名高速道路のインターチェンジもできることにより、人を呼び込むチャンスと捉えるべき	男性	36	会社員(技術系)
5	温泉や山登りに来る人を受け入れる施設	男性	25	学生
6	秦野市は観光客に力を入れるべき。せっかくの登山客も飲食店とかないのでもったいない	女性	64	専業主婦(主夫)
7	新東名のサービスアリアを利用し観光、温泉、ショッピンモールを備え観光客を呼び込む。	男性	71	無職
8	恵まれた自然環境を首都圏の人に満喫してもらうような総合的な施設（宿泊も可能、リピーターを増やす）をコストを抑えてつくるべきである。	男性	75	無職
9	丹沢の玄関口としての観光施設の充実。	男性	40	自由業
10	人を呼ぶことができる政策が必要です。豊かな自然を生かした施設整備など。新東名と戸川公園の活用、新東名と温泉施設、鶴巻温泉の活性化など。	男性	73	無職
11	第二東名開通による、サービスエリアに隣接した施設建設には興味があります。サービスエリア利用者を取り込めるのではないでしょうか？	男性	46	会社員(その他)
12	桜、登山関連の観光施設	男性	48	会社員(技術系)
13	若者夫婦の秦野市への移住を促進できるような駅近くのマンション、その近くの保育所、土日にファミリーが過ごせるような魅力的なショッピングモール、映画館、登山客をより呼び込めるような宿泊施設	女性	41	会社員(事務系)
14	ドックランを作った方がいい。他の地域からも来るのでいいと思う。	女性	33	自営業

(4)　交通に関する機能【11 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	運転免許を返上する高齢者層の増加に対する交通・運輸機能面の充足が必須であろう	男性	65	無職
2	コミニュティーバスの充実。	男性	46	会社員(技術系)
3	高齢の方が多くなっているので、タクシーサービスみたいな高齢者の足になれるサービスがあってもいいと思う。	女性	24	会社員(その他)
4	公共による市内循環バスの拡充	男性	72	パート・アルバイト
5	無料シャトルバス	女性	23	学生
6	高齢者のバスのフリーパス　市営のリムジンバス	女性	57	専業主婦(主夫)
7	秦野駅の中心を北口から南口にし。市役ション（東京の区役ション）を作り。駅を中心とした街にして活性化を図り、小田急以外の鉄道（JR)など）・高速バスを乗り入れて。県央の交通ハブとなるようにし、東京、羽田へのアクセスを大幅向上をしてほしい。今は、東京・横浜・羽田へのアクセスが主に小田急しかなく非常に不便。理想は、東京・羽田まで 1 ｼﾞｶﾝ 50 分以内。	男性	63	無職
8	自家用車以外の移動手段。箱ものがいくら充実しても、実際に行けない	女性	60	パート・アルバイト
9	子供達に安全な通学路や、市内の駅や病院などの施設を循環する市営バスなど。	男性	48	その他
10	コミュニティバスなどの小型バスで料金が安く乗れるバスは、高齢者も利用しやすいと思う。	女性	41	会社員(その他)
11	高齢者向け交通機関の整備	男性	60	パート・アルバイト

(5)　文化芸術に関する機能【10 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	大和市の図書館の事を TV で最近見ました。似たようなことを秦野でもできないでしょうか	女性	63	専業主婦(主夫)
2	市が発展しない要因としていくつか考えられますがその一つが図書館が古い事、本の数があまりにも少ないこと。子供から大人まで学び育つ環境で重要な施設が置き去りにされている点を見直すことが必須	女性	62	専業主婦(主夫)
3	図書館の充実	女性	39	公務員
4	年代別に区切らないで利用できる文化やスポーツなどを支援する施設とシステム	女性	49	パート・アルバイト
5	歴史博物館など。	男性	40	自由業
6	大根鶴巻地区にも図書館やコンサートホールが欲しい	女性	55	専業主婦(主夫)
7	スポーツや野外施設に対して文化教養を育む施設が貧弱に見える。例えば図書館についていえば、本当に魅力ある児童文学の蔵書が古く、買い替えや配置換えの時期に来ている。良いものほど借りてもらえない状況では育つものも育たず残念だと思う。リストの配布などして各家庭への協力をはかることもできる。児童館や公民館、小中学校との連携を行いながら、施設の使い方も指導紹介するシステムがあるとよい。	女性	47	専業主婦(主夫)
8	文化芸術への資源配分が少ない。青少年育成の観点でも、箱物だけでなく予算的な支援を拡充するべき。	男性	59	会社員(技術系)
9	複合的な施設。スポーツも出来て読書も出来て、ショッピングもできて、人が集まりやすい機能。	男性	58	会社員(その他)
10	図書館の本の貯蔵の増加、学生が勉強できる個室スペースを設けた図書館	男性	24	会社員(その他)

(6)　防災に関する機能【10 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	これから起こるであろう災害時の避難場所としての機能。	女性	51	専業主婦(主夫)
2	曲松児童センターに避難所機能を持たせること。桜土手史料館は利用者がほとんどいないため、維持費を考えると廃止してもよい。	男性	57	自営業
3	災害時に避難先で安心、安全に過ごせる設備、備品の確保。	男性	55	経営者・役員
4	災害時に使えるところ	女性	37	パート・アルバイト
5	防災や犯罪に対する専門的な　センター施設。学んだり身を守ったり、地域と一緒になって皆が暮らしやすくなる。	女性	48	パート・アルバイト

No.	意見	性別	年齢	職業
6	防災や災害拠点に関する機能（情報の拠点など）	男性	41	公務員
7	大地震等の災害時に避難場所になる施設は必要	男性	52	無職
8	今後、関東大震災などの災害が起きた時に安全に避難出来る場所に対しての公共工事はしていった方が良いと思う。	女性	48	会社員(その他)
9	災害時等の避難場所にもなる大型公園の充実を望みます。鶴巻地区にはおおね公園があり、日常的に老若男女の市民が色々な目的で有意義に活用していますが、箱ものと言われる屋根のある体育館がありません。災害時にはほぼ機能しないのはもったいないと思いますので、是非、体育館の建設を希望します。	女性	62	専業主婦(主夫)
10	地震の機運も高まっているので、新しい施設にするのであれば、防災に特化した場所であってほしい。そのためにも普段からも人が集う機能が損なわれないよう、現在の老朽化して一部の人しかこない様相を一転させるようなクリーンな民間起業を入れるのも良いと思う。	女性	38	専業主婦(主夫)

(7) スポーツに関する機能【10 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	温水プール	女性	44	専業主婦(主夫)
2	年代別に区切らないで利用できる文化やスポーツなどを支援する施設とシステム	女性	49	パート・アルバイト
3	温水プール	女性	37	パート・アルバイト
4	屋内プール	女性	45	パート・アルバイト
5	住民の高齢化によって、高齢者のニーズに対応することも必要だが、子供の住みにくい地域になっている印象がある。（ボール遊びができない い 騒音の苦情など）このままだと、将来を担う若者は秦野から出てしまい、ますます厳しい財政状況になると思われます。もっと、子供や若者が利用しやすい施設を増やしてほしいです。鶴巻地区ではバドミントンができる施設がサンライフしかありません。それも、コートが 1 つしかはれない小さな体育室です。大根公園に体育室を作るか、せめて鶴巻公民館の体育館でもバドミントンができるようにしてほしいです。	女性	41	専業主婦(主夫)
6	複合的な施設。スポーツも出来て読書も出来て、ショッピングもできて、人が集まりやすい機能。	男性	58	会社員(その他)
7	サイクリングロード	男性	39	会社員(技術系)
8	カルチャーパークに駐車場はもっと必要。整備して駐車場を潰してしまったのは間違いだったと思う。結果夏休みなどのプールに行ける人が減ったと思う。	女性	30	専業主婦(主夫)
9	そういう意味だと、少し夜遅くまであいているスポーツ施設もあるといい。よろしくお願いいたします。	男性	29	会社員(技術系)
10	希望ですが、中央運動公園内に温水プールがあれば良いと思います	女性	51	パート・アルバイト

(8) 商業に関する機能【9 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	大型のショッピングモールの誘致。	男性	46	会社員(技術系)
2	本屋さんが必要	男性	20	学生
3	市場がほしい	女性	22	会社員(その他)
4	商業施設の充実化。	男性	67	会社員(その他)
5	ショッピングモールなどの大型店舗がほしい	女性	49	専業主婦(主夫)
6	複合的な施設。スポーツも出来て読書も出来て、ショッピングもできて、人が集まりやすい機能。	男性	58	会社員(その他)
7	魅力のある商業施設も格段に少ないので、その集客を見込める商業施設の誘致などに力を入れれば財政も少しは潤うかと、素人考えでは思います。	女性	44	専業主婦(主夫)
8	商業施設。飲食・サービス・アパレルなどの施設が絶対的に必要だと思う。便利な街になればなるほど、人が集まり、活気が戻る。	女性	39	パート・アルバイト
9	イオンなど便利なスーパー。	女性	41	会社員(その他)

(9)　青少年に関する機能【6 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	今にも壊れそうな児童館	女性	42	パート･アルバイト
2	これから少子化に突入していく中、公民館に児童館の役目も兼ねてもらうのはよいと思います。海外からの登山客や名水や温泉等が収入源になるので、もっと多くの人に知ってもらうため、お金をかけずにできる宣伝活動が必要。	女性	43	会社員(その他)
3	児童のための施設の充実	男性	39	会社員(その他)
4	子育てに役立つ施設を作って、若い世代の住民を増やした方が良い。例えば、小さな公園や広場、児童館。	女性	40	専業主婦(主夫)
5	老人福祉施設と保育園や児童館機能の合体	女性	60	公務員
6	図書館の本の貯蔵の増加、学生が勉強できる個室スペースを設けた図書館	男性	24	会社員(その他)

(10)　住宅に関する機能【6 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	低所得者向けの市営住宅をもっと増やしてほしい。	男性	31	パート･アルバイト
2	高齢者用の管理アパートやマンション。管理者が緊急時にかけつけてくれるようなシステム付。パブリックスペースで、定期的にエクササイズできるようなプログラム付。	女性	41	会社員(その他)
3	高齢者向け集合住宅。訪問介護による介護費用を抑え、お互い手助けし合いながら生活を支え合い、それでも必要なところは専門職に依頼することとする。また、空き家にせず、若年層に売却するシステムにし人口の流出を抑える。	女性	55	専業主婦(主夫)
4	具体的にはわからないが、若者や子供のいる若い世帯の移住を促進する機能	女性	55	無職
5	ミライエなど若者定住住宅を充実して関連施設を組み合わせる。	男性	63	自営業
6	若者夫婦の秦野市への移住を促進できるような駅近くのマンション、その近くの保育所、土日にファミリーが過ごせるような魅力的なショッピングモール、映画館、登山客をより呼び込めるような宿泊施設	女性	41	会社員(事務系)

(11)　福祉に関する機能【6 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	福祉関係の施設が必要になると思う。	男性	25	学生
2	高齢者向けの施設・児童用施設・障害者用施設と分けるのではなく一緒に楽しめる施設が必要だと思う。異なった環境や異なった年齢の人と接することの出来る公共施設が人を育てていくと思う。	女性	53	専業主婦(主夫)
3	高齢者、障害者が利用しやすいエスカレーターやエレベーターの設置。バスやタクシーの利用料を補助。買い物の補助。	女性	45	パート･アルバイト
4	福祉施設の充実は徹底的に行ってほしい。	女性	47	自営業
5	精神的、肉体的に健康を維持するために貢献する機能。	男性	67	自由業
6	障害児などを連れてきがる専門家に相談できる所	女性	37	専業主婦(主夫)

(12)　行政に関する機能【5 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	市役所派出所で出来る事を増やして欲しい。	女性	28	専業主婦(主夫)
2	市役所の建替え	男性	28	会社員(技術系)
3	市役所業務（書類入手）のさらなるハブ化拡充	男性	46	会社員(技術系)
4	秦野駅の中心を北口から南口に。市役ション（東京の区役ション）を作り、駅を中心とした街にして活性化を図り、小田急以外の鉄道（JR)・高速バスを乗り入れて、県央の交通ハブとなるようにし、東京、羽田へのアクセスを大幅向上をしてほしい。今は、東京・横浜・羽田へのアクセスが主に小田急しかなく非常に不便。理想は、東京・羽田まで 1 ｼﾞｶﾝ 50 分以内。	男性	63	無職
5	市役所の分室または夜間にあいている市役所。働き方も多種多様となる中、時代に合わせた公共施設が欲しい	男性	29	会社員(技術系)

(13)　公園緑地に関する機能【4 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	緑豊かな場所	女性	21	学生
2	大きな公園よりも、住宅街の空き地に公園が欲しい。	女性	40	パート・アルバイト
3	道路で遊ぶ子供たちが多いため。″	女性	40	専業主婦(主夫)
4	子育てに役立つ施設を作って、若い世代の住民を増やした方が良い。例えば、小さな公園や広場、児童館。	男性	32	会社員(技術系)

(14)　地域に関する機能【4 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	特定の対象者、目的別の施設を止めて、何にでも使える施設を作る。	女性	70	専業主婦(主夫)
2	自治会の充実化と自治会館の有効活用	女性	70	無職
3	コミュニティー施設は今後も必要だと思います。一人暮らしの人も気軽に参加できるもの	女性	58	パート・アルバイト
4	みんなの憩いの場。カフェのような場所。	女性	23	自由業

(15)　医療に関する機能【3 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	市には大きな病院が第一に必要だと思う。産科、小児科の充実。	女性	34	会社員(その他)
2	産院が少なすぎるので、日赤に産科を早急に復活させるべき。子育て支援といいながら、産める場所が少ないんじゃ意味ない。	女性	28	専業主婦(主夫)
3	市営総合病院。終末医療病院。	女性	55	会社員(事務系)

(16)　生涯学習に関する機能【2 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	公共施設は必要であり、公民館等の充実により健康高齢者が増え介護費用の抑制につながる。	男性	58	公務員
2	これから少子化に突入していく中、公民館に児童館の役目も兼ねてもらうのはよいと思います。海外からの登山客や名水や温泉等が収入源になるので、もっと多くの人に知ってもらうため、お金をかけずにできる宣伝活動が必要。	女性	43	会社員(その他)

(17)　環境に関する機能【2 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	ゴミを高熱で焼却する施設。世田谷区のように燃やすものの種類を増やすほうが良いと思う。	男性	53	会社員(技術系)
2	ゴミ処理能力の向上とゴミ収集の有料化	男性	66	専業主婦(主夫)

(18)　農業に関する機能【1 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	農業に関するもの	女性	44	自営業

(19)　意見なし【129 件】

No.	意見	性別	年齢	職業
1	民間委託	男性	57	会社員(事務系)
2	特になし	男性	52	会社員(事務系)
3	わからない	男性	55	公務員

No.	意見	性別	年齢	職業
4	特に思いつかない	男性	56	無職
5	保育園、学校の先生の教育、教育や部活の充実	男性	54	会社員(技術系)
6	そんなものは、無い	男性	52	無職
7	市営住宅等の一部の人のためのものは廃止し、誰もが使えるものに投資をするべきだと思う	男性	35	公務員
8	思いつかない	女性	52	パート・アルバイト
9	ない	男性	44	無職
10	魅力のある施設	男性	44	自営業
11	特になし	男性	49	会社員(その他)
12	とくになし	男性	38	自営業
13	特に無し。コスト削減が最優先	男性	30	自営業
14	特になし	男性	42	会社員(その他)
15	特になし	男性	25	学生
16	ない	男性	56	会社員(その他)
17	逆に不要な施設があると思うのでもっと整理したほうがよいと思う	男性	38	会社員(事務系)
18	なし	男性	54	自営業
19	民間の活用。市の資源を活用し利益追求。市も儲けるべき。	男性	51	会社員(技術系)
20	人件費の削減	男性	59	パート・アルバイト
21	特にない。	女性	37	パート・アルバイト
22	特にない	男性	54	自由業
23	特にない	男性	72	無職
24	特になし	男性	52	会社員(技術系)
25	現状を維持	男性	57	公務員
26	財政が好転しない以上、公共施設の減少はやむを得ない。残った施設の充実した運営を図り、民間に移譲できるものは移譲することを基本とする。	男性	70	無職
27	コストとかわからないが必要ものはあった方がいい	男性	46	会社員(その他)
28	外国人観光客が日本に来て外貨を使ってくれるのと違い、市政は住んでもらう事が目的、目標になるはず。市民だけで市内でお金をまわしていても効果なんてあるわけが無い。	男性	41	会社員(技術系)
29	わからない	男性	72	その他
30	わからない	女性	51	専業主婦(主夫)
31	お年寄りや障害を持った人がが住みたくなるような町づくりを進める。自然豊かな環境とうまく融合させて他市とは違うことをアピールできるようなことができないかと考える。お年寄りや障害を持った人が秦野に住みたくて集まってくる、またそれを支える仕組みに民間企業や NPO を活用することにそれに関わる人も集まってくる。具体的にどのようにとはまだ解らないが、そのような秦野市になっていったらなと思う。	男性	65	無職
32	わからない	女性	24	会社員(その他)
33	私は秦野市に住んで15年ですが、都市化が進んでいるように思う。秦野本来の姿、近代農業都市を目指してもらいたい。	男性	71	無職
34	とくにありません	女性	55	専業主婦(主夫)
35	特になし	女性	63	専業主婦(主夫)
36	将来的に秦野市から出るのでどうでもいい	女性	25	会社員(事務系)
37	なし	男性	35	会社員(事務系)
38	他の地域からの図書も簡単な手続きで取り寄せができる。運動公園を利用した定期大会を開催。水無川沿いの遊歩道の活用	男性	50	会社員(技術系)
39	教育無料化	男性	49	自営業
40	東海大学生の自転車の取り締まり強化。	男性	33	会社員(事務系)
41	特になし	女性	35	会社員(事務系)

No.	意見	性別	年齢	職業
42	特にありませんが、他市の財政状況の優れている部分を取り入れることがいいのかなと思います。もしくは実際に秦野市民の声を聞くため、市役所や公共施設の場に意見書などを設置してより市民の声を調査して必要なものを見極めていくことも大切なのかなと思います。素人のとても個人的な意見になりますが、少しでも市財政の向上につながるように、市役所立体駐車場下でフリーマーケットを開催して出店料の諸経費を引いたものを市財政に充てたり、今日ではクライマーが増加傾向でありコンビニ（特に落合、名古木にあるセブンイレブン）などと連携しクライマー専用の駐車場設置（100 円～200 円）などで収入を得て市財政に充てることができればいいのかなと思います。	女性	32	専業主婦(主夫)
43	郵便ポストとコンビニ	女性	53	自営業
44	特になし	女性	38	専業主婦(主夫)
45	現状維持でよい	男性	55	会社員(技術系)
46	特にない	男性	78	無職
47	とくになし	男性	43	その他
48	まず秦野市職員の人件費を削減し、無駄なお金をかけないでほしい。その上で、地域に合った施設や機能的なサービスを行うべき。	女性	31	会社員(その他)
49	わからない。	女性	32	パート･アルバイト
50	特にありません	女性	52	専業主婦(主夫)
51	特になし	女性	30	無職
52	不必要なもの：市の管理職、役立たずな職員、市長	男性	63	無職
53	駅前周辺も活気がなく店も少ないので施設は通いやすい駅周辺でないと思います。バスとか交通事情もあまりよくないので車の運転する人も減少すると思います。	女性	46	専業主婦(主夫)
54	既存の施設が各地に点在し、利用者が限定されている。特に秦野駅周辺にはほとんどない。周辺施設を減らし、機能の統合をすることでハコモノ施設を整理する視点でお願いしたい。あと「鳥も住める市」の標語？はみっともない。人もすめるのか？と突っ込みを入れたくなる。	男性	67	無職
55	駅前のコンビニ、駅前に安いスーパー、駅前に飲食店、駅前に 100 円ショップ	女性	20	学生
56	ない	男性	70	無職
57	特に無し	男性	69	自営業
58	分からない	男性	44	自営業
59	特になし	女性	20	学生
60	おおね公園の多目的広場の有効活用。現在限られた競技や行事になっているので、より広く活用できるようにする。（例：市民体育祭を実施できるようにするための手段）	男性	66	自営業
61	特に思いつかない	男性	71	無職
62	わからない	女性	44	専業主婦(主夫)
63	特になし	女性	34	専業主婦(主夫)
64	特になし	男性	39	会社員(その他)
65	今後、秦野市をどの様な地域にするかにより、特徴機能の拡充が選択されるべきと考えますが、先ずは小田急秦野駅北口での交通利便性改善が最優先と考えます。現状混雑が発生し易いシステムとなっている。	男性	72	無職
66	秦野市の一番の魅力は「緑と水」自然豊かな風土であると想います。その豊かな自然を活かすことが最大の公共施設ではないでしょうか。	男性	71	自営業
67	特に今は考えつかない	女性	26	パート･アルバイト
68	特になし	女性	21	学生
69	わからない	男性	22	学生
70	なし	男性	37	会社員(技術系)
71	利用率が低い施設は民間に任せて、無駄に使用されている税金を移住者促進に使う。空き家が目立つので、有効に使えるように補助してほしい。また雇用を推進できるように、神奈川県西部地区の経済特区などの誘致政策をしてほしい。	男性	55	自由業
72	特に思い付きません	女性	52	専業主婦(主夫)
73	特にない	男性	64	無職

No.	意見	性別	年齢	職業
74	特に浮かばない	男性	45	会社員(事務系)
75	地方は国と違って、通貨発行権がないので、夕張のように破綻するので、今のやり方を継続していくほかないと思う。ただ必要な予算は組むべきだし，国に地方交付金を増やしてもらうよう、要望は出すべきだと思う。国は財源を心配する必要はないのだから。	男性	43	パート・アルバイト
76	公民館の職員の教育	女性	37	パート・アルバイト
77	おおね公園のプールの値段が上がりすぎ。	女性	38	専業主婦(主夫)
78	特になし	男性	34	会社員(その他)
79	特にない	男性	68	無職
80	とくになし	女性	64	パート・アルバイト
81	障害者に対する支援の充実	男性	37	会社員(技術系)
82	特になし	男性	56	会社員(その他)
83	特になし	男性	59	会社員(技術系)
84	特にない	女性	31	パート・アルバイト
85	今の緑のある状況を維持整備してほしい。	男性	70	無職
86	特になし	女性	34	専業主婦(主夫)
87	道にお金をかけすぎ	女性	38	パート・アルバイト
88	特になし	男性	56	会社員(技術系)
89	もっとビジネスや企業誘致を積極的に進めるべきだと思う。	男性	42	会社員(その他)
90	なし	女性	28	会社員(その他)
91	なし	女性	74	パート・アルバイト
92	わからない	女性	29	専業主婦(主夫)
93	特にありません	男性	46	会社員(技術系)
94	わからない	男性	44	会社員(技術系)
95	特になし	女性	48	公務員
96	なし	男性	48	会社員(技術系)
97	子供の虐待のニュースが多く見られますが、そちらの方面に是非とも力を入れて欲しい。少子化に向かっているいま、幸せな生活を送れる子供ばかりになって欲しい。秦野で幸せな記憶をつくれるように。	女性	41	専業主婦(主夫)
98	コミュニケーションがとれるところ	男性	38	会社員(技術系)
99	特になし	男性	69	その他
100	コンピューター化していく社会に対応するIR施設	男性	71	公務員
101	特にない	男性	55	会社員(技術系)
102	特にない	女性	58	専業主婦(主夫)
103	特になし	男性	74	パート・アルバイト
104	公務員の人たちが新しいアイデアを発想できるような人材を増やす	女性	43	パート・アルバイト
105	特に無い。	男性	73	無職
106	市の人件費、ムダの削減のための民営化	男性	61	会社員(技術系)
107	古きよき伝統や景観として残していくものを大事にしていくべき。桜並木などだんだんと自然と人的要因で劣ろうて行くのが残念であり、秦野の行く末のようにも見える	男性	69	その他
108	特になし	男性	69	パート・アルバイト
109	なし	男性	33	公務員
110	特になし	男性	65	パート・アルバイト
111	特になし	男性	25	無職
112	わからない。	男性	78	無職
113	特にございません。	男性	39	会社員(その他)
114	若い世代が住みたくなる地域にしなくてはいけないと思う。神奈川県内で土地代も安く小田急線で新宿にも通える地域であるため、若い世代が住みたくなる制度に力をいれる。例えば海老名市が行なっていた奨学金の補助など子育て世代をターゲットに取り組み、アピールが必要。	女性	28	会社員(技術系)

No.	意見	性別	年齢	職業
115	特に浮かばない。	男性	71	無職
116	現状を充実し、今後のことはひとまず据え置く。それ以上に市会議員の削減、更にに残った議員の報酬手当の削減、更に市職員定数の見直しを考える。	男性	66	無職
117	カルチャーパーク内のプールのシーズンオフの活用	男性	38	その他
118	ない	女性	50	専業主婦(主夫)
119	特になし	男性	49	会社員(その他)
120	ない	女性	38	専業主婦(主夫)
121	思いつかない	男性	25	会社員(その他)
122	余計な建設をやめて、税を安くする	女性	32	会社員(事務系)
123	その状態ならない	男性	50	無職
124	特になし。	男性	22	学生
125	特になし	男性	41	会社員(技術系)
126	特になし	男性	40	会社員(その他)
127	特にない	女性	35	パート・アルバイト
128	特になし	女性	23	会社員(その他)
129	なし	女性	38	専業主婦(主夫)